島根県雲南市

宮ノ脇遺跡
家の後Ⅱ遺跡1

尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6

2005年3月

国土交通省中国地方整備局
島根県教育委員会

島根県雲南市

宮ノ脇遺跡
家の後Ⅱ遺跡1

尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6

2005年3月

国土交通省中国地方整備局
島根県教育委員会

序

斐伊川・神戸川総合開発工事事務所では、いわゆる斐伊川・神戸川総合治水計画３点セットの一翼を担う事業として、斐伊川上流において尾原ダムの建設事業を進めています。

ダム事業の実施に際しては、埋蔵文化財の保護に充分に留意すべく必要な調査の実施、記録の保存につとめるものとし、島根県教育委員会をはじめ関係各位のご協力をいただき、平成11年度から計画的に発掘調査を実施してまいりました。

本報告書は、平成14～15年度に実施した「宮ノ脇遺跡・家の後Ⅱ遺跡」の調査結果をまとめたものです。本報告書が郷土の歴史教育等のために広く活用されることを期待します。

最後に、今回の発掘調査並びに報告書のとりまとめにあたり、ご指導ご協力いただきました関係者各位に深く感謝申し上げます。

平成17年３月

国土交通省　中国地方整備局
斐伊川・神戸川総合開発工事事務所
所長　則松秀晴

序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局の委託を受け、平成11年度から尾原ダム建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施してまいりました。本書は、このうち平成14・15年度に発掘調査を実施した雲南市宮ノ前遺跡・家の後Ⅱ遺跡の調査成果をまとめたものです。

尾原ダムが建設される斐伊川は中国山地に源を発し、日本海に向け北流しています。流域には埋蔵文化財を含めて数多くの歴史的文化遺産が残されており、特に砂鉄や木炭などの豊富な資源を利用したたたら製鉄が最近まで行われ、重要な産業として栄えました。

本書に掲載した宮ノ脇遺跡では、縄文時代から江戸時代に至るまでの、長い時代の人々の生活の跡を明らかにすることができました。

家の後Ⅱ遺跡では、墓と考えられる縄文時代の土器埋設遺構や配石土坑などが検出されました。これらは遺跡から出土した土器や石器とともに、当時の墓制や土地の利用について研究を進めるための貴重な資料となるものと考えられます。本書が、地域の歴史と文化財に対する理解と関心を高めるための一助となれば幸いです。

終わりにあたり、発掘調査及び本書の作成につきまして、地元の皆様をはじめ、国土交通省斐伊川・神戸川総合開発工事事務所、雲南市教育委員会など関係者各位より御指導・御協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

平成17年３月

島根県教育委員会
教育長　広　沢　卓　嗣

例　　言

1．本書は、島根県教育委員会が平成14・15年度に実施した尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。本報告書は第６冊目に当たる。

2．発掘地は下記のとおりである。

宮ノ脇遺跡　　島根県雲南市木次町（平成16年10月31日まで大原郡木次町大字）北原668－1．668－2ほか

家の後Ⅱ遺跡（２区）　島根県雲南市木次町（平成16年10月31日まで大原郡木次町大字）北原282－1．281－2．321－1．327－1．327－3．328－2．336－1ほか

3．調査主体　国土交通省中国地方整備局から委託を受けて島根県教育委員会が実施した。
調査に関する経費は国土交通省中国地方整備局が負担した。
調査組織は本文中に記した。

4．調査期間　宮ノ脇遺跡　平成14年４月15日～６月７日
家の後Ⅱ遺跡　平成14年６月５日～12月13日・平成15年４月14日～９月１日
整理期間　平成16年４月１日～平成17年３月31日

5．挿図中の方位は測量法による第Ⅲ系座標Ｘ軸の方向を指す。また、平面直角座標系ＸＹ軸は日本測地系による。レベルは海抜高を示す。

6．現地調査及び報告書作成に当たって下記の方々から御指導、御助言、御協力を頂いた。明記して深謝いたします。（五十音順。敬称略）
岡田憲一（奈良県立橿原考古学研究所）　坂本論司（雲南市教育委員会）　杉原清一（島根県文化財保護指導委員）　千葉　豊（京都大学埋蔵文化財センター）　富井　眞（京都大学埋蔵文化財センター）　野津　旭（仁多町教育委員会）　濵田竜彦（鳥取県教育委員会）
矢野健一（立命館大学助教授）　山田康弘（島根大学助教授）

7．第２図は国土地理院発行の1/25,000図「湯村」（平成14年）を使用した。

8．写真図版11は株式会社ワールドが撮影した写真を合成した。写真図版12の航空写真は株式会社ワールドが撮影した。

9．現地の実測図は調査員、調査補助員が作成した。本書に掲載した遺物の実測は調査員、補助員、整理作業員が行った。本報告書の写真のうち、35頁の写真はパリノサーヴェイ株式会社が撮影した。その他の写真は中川が撮影した。

10．本報告書の執筆は、第４章第５節(7)は稲田、第５章はパリノサーヴェイ株式会社、第６章は若月利之・佐藤邦明（島根大学）が執筆し、それ以外の部分は中川が行った。編集は文化財課、古代文化センターおよび埋蔵文化財センターの職員の協力を得て中川が行った。

11．本報告書掲載の遺跡出土資料、実測図、写真などの資料は島根県教育庁埋蔵文化財センター（島根県松江市打出町33）で保管している。

凡　　例

1．本報告書における実測図は下記の縮尺で掲載した。

⑴遺構図　　1/10・1/20・1/40・1/80

⑵遺物実測図　土器：1/3・1/4　土製品：1/2　石器：1/1・1/2・1/3・1/4　石製品：1/6

金属器：1/2　古銭：1/1

2．遺物実測図のうち、須恵器は断面黒塗りにし、陶器は断面にスクリーントーンを貼った。石器、土製品、金属器、石製品には断面に斜線を入れた。

3．挿図中に用いたスクリーントーンはそれぞれ以下のものを表す。

：地山および遺構の底面　：焼土　：撹乱・盛土・表土

：漆塗り範囲　：赤塗範囲

4．本文中、挿図中、写真図版中の遺物番号は一致する。

5．発掘調査時における遺構名・番号は報告書作成時に大幅に変更した。遺構の呼称は、例えば土坑状遺構については「土坑」とし、他の遺構についても「状遺構」を省略した。

6．遺物観察表の色調は『標準土色帖』を参考にした。

7．本報告書で用いた土器の分類および編年観は下記の各論文・報告書を参考にした。

⑴縄文土器

『縄文土器大観』第１巻　小学館　1989

『縄文土器大観』第３巻　小学館　1989

『縄文土器大観』第４巻　小学館　1989

柳浦俊一「山陰地方縄文時代後期初頭～中葉の土器編年」『島根考古学会誌』第17集　pp.169～196　2000

濵田竜彦「因幡・伯耆地域の突帯文土器と遠賀川式土器」『突帯文と遠賀川』　pp.349～380　土器持寄会論文集刊行会　2000

⑵弥生土器

松本岩雄「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年　山陽・山陰編』　pp.414～482　木耳社　1992

⑶土師器・須恵器

『南講武草田遺跡』　島根県鹿島町教育委員会　1992

大谷晃司「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集　pp.39～82　1994

⑷中世の土器

広江耕史「島根県における中世土器について」『松江考古』第８号　pp.9～21　松江考古談話会　1992

山陰考古学研究集会「山陰における中世前半の貿易陶磁」『第26回山陰考古学研究集会』　1998

伊藤　晃「備前焼の流れ」『木村コレクション　古備前図録』　pp.80～86　岡山市教育委員会　1984

本 文 目 次

第１章　調査の経緯…… 1
第２章　位置と歴史的環境…… 3
第３章　宮ノ脇遺跡…… 7
　第１節　土層…… 9
　第２節　遺構・包含層…… 9
　第３節　遺物……10
　第４節　まとめ……11
第４章　家の後Ⅱ遺跡２区…… 13
　第１節　一次調査・土層……15
　第２節　縄文時代の遺構……15
　　(1)　土器埋設遺構……15
　　(2)　土坑……17
　第３節　弥生時代～奈良・平安時代……19
　第４節　鎌倉・室町時代……21
　第５節　遺物……22
　　(1)　縄文土器の分類……22
　　(2)　縄文土器……24
　　(3)　弥生土器・古式土師器……27
　　(4)　遺構出土遺物……28
　　(5)　土師器・須恵器……28
　　(6)　陶磁器・瓷器系陶器……29
　　(7)　石器（稲田陽介）……29
　　(8)　土製品……31
　　(9)　石製品……31
　　(10)　鉄製品……31
　　(11)　古銭……32
第５章　宮ノ脇遺跡から出土した炭化材の樹種（パリノ・サーヴェイ株式会社）……33
第６章　土壌分析（若月利之・佐藤邦明）……37
第７章　総　括……39
　１．各時期の様相について……39
　２．炭化物の付着した土器について……43
　３．弥生時代中期前葉の土器について……43
報告書抄録……巻末

挿図目次

宮ノ脇遺跡：第３・４・14～30図
家の後Ⅱ遺跡：第５～12・31～128図

第1図　宮ノ脇遺跡・家の後Ⅱ遺跡の位置　1
第2図　宮ノ脇遺跡・家の後Ⅱ遺跡と周辺の遺跡　4
第3図　宮ノ脇遺跡調査区位置図　7
第4図　宮ノ脇遺跡一次調査土層図　8
第5図　家の後Ⅱ遺跡２区調査区配置図　13
第6図　家の後Ⅱ遺跡２区グリッド図　14
第7図　家の後Ⅱ遺跡遺構配置図(1)　16
第8図　土坑38土器出土状況図　19
第9図　家の後Ⅱ遺跡遺構配置図(2)　20
第10図　縄文土器分類図　23
第11図　出土遺物分布図１　40
第12図　出土遺物分布図２　41
第13図　弥生時代中期前葉の土器　44
第14図　宮ノ脇遺跡遺構配置図　挿図図版1
第15図　宮ノ脇遺跡調査区土層図　挿図図版2
第16図　２区・３区遺構配置図　挿図図版3
第17図　２区包含層遺物出土状況(1)　挿図図版4
第18図　２区包含層遺物出土状況(2)　挿図図版5
第19図　２区包含層遺物出土状況(3)　挿図図版6
第20図　２区包含層断面図　挿図図版7
第21図　１区不明遺構　挿図図版8
第22図　１区不明遺構（下層）・断面　挿図図版9
第23図　掘立柱建物(1)　挿図図版10
第24図　掘立柱建物(2)　挿図図版11
第25図　出土遺物(1)　挿図図版12
第26図　出土遺物(2)　挿図図版13
第27図　出土遺物(3)　挿図図版14
第28図　出土遺物(4)　挿図図版15
第29図　出土遺物(5)　挿図図版16
第30図　出土遺物(6)　挿図図版17
第31図　家の後Ⅱ遺跡一次調査土層図・出土土器　挿図図版19
第32図　土器埋設遺構１～４　挿図図版20
第33図　配石土坑１・２　挿図図版21
第34図　土坑１・２　挿図図版22
第35図　土坑３・４・５　挿図図版23
第36図　土坑６・７・８　挿図図版24
第37図　土坑９・10・11・12　挿図図版25
第38図　土坑13・14・15・16・17　挿図図版26
第39図　土坑18・19・20　挿図図版27
第40図　土坑21・22・23・24・25　挿図図版28
第41図　土坑26・27・28　挿図図版29
第42図　土坑29・30　挿図図版30
第43図　土坑31・32・33・34　挿図図版31
第44図　土坑35・36・37　挿図図版32
第45図　土坑38　挿図図版33
第46図　土坑39・40　挿図図版34
第47図　土坑41　挿図図版35
第48図　土坑42・43　挿図図版36
第49図　土坑44・45　挿図図版37
第50図　土坑46・47・48・49・50・51　挿図図版38
第51図　P17・64・275・687・694・712・713　挿図図版39
第52図　竪穴住居１　挿図図版40
第53図　掘立柱建物１・２　挿図図版41
第54図　掘立柱建物３・柵１　挿図図版42
第55図　掘立柱建物４・５　挿図図版43
第56図　掘立柱建物６・７　挿図図版44
第57図　掘立柱建物８・９　掘立柱建物９P２・P４　挿図図版45
第58図　土坑52・53・54　挿図図版46
第59図　土坑55・56・57　挿図図版47
第60図　掘立柱建物10　挿図図版48
第61図　掘立柱建物11　挿図図版49
第62図　掘立柱建物12・13　挿図図版50
第63図　掘立柱建物14・15　挿図図版51
第64図　掘立柱建物16・17　挿図図版52
第65図　掘立柱建物18・19　挿図図版53
第66図　掘立柱建物20・21　柵２　挿図図版54
第67図　掘立柱建物22　挿図図版55
第68図　掘立柱建物23・24　挿図図版56
第69図　柵３・４　P364・444　挿図図版57
第70図　遺構配置図(1)　挿図図版58
第71図　遺構配置図(2)　挿図図版59
第72図　遺構配置図(3)　挿図図版60
第73図　遺構配置図(4)　挿図図版61
第74図　遺構配置図(5)　挿図図版62
第75図　遺構配置図(6)　挿図図版63
第76図　遺構配置図(7)　挿図図版64
第77図　遺構配置図(8)　挿図図版65
第78図　遺構配置図(9)　挿図図版66
第79図　遺構配置図(10)　挿図図版67
第80図　遺構配置図(11)　挿図図版68
第81図　遺構配置図(12)(13)　挿図図版69
第82図　埋設土器　挿図図版70
第83図　遺構出土土器１　挿図図版71
第84図　遺構出土土器２　挿図図版72
第85図　遺構出土土器３　挿図図版73
第86図　遺構出土土器４　挿図図版74
第87図　遺構出土土器５　挿図図版75
第88図　縄文土器(1)　挿図図版76
第89図　縄文土器(2)　挿図図版77
第90図　縄文土器(3)　挿図図版78
第91図　縄文土器(4)　挿図図版79
第92図　縄文土器(5)　挿図図版80
第93図　縄文土器(6)　挿図図版81
第94図　縄文土器(7)　挿図図版82
第95図　縄文土器(8)　挿図図版83
第96図　縄文土器(9)　挿図図版84
第97図　縄文土器(10)　挿図図版85
第98図　縄文土器(11)　挿図図版86
第99図　縄文土器(12)　挿図図版87
第100図　縄文土器(13)　挿図図版88
第101図　縄文土器(14)　挿図図版89
第102図　縄文土器(15)　挿図図版90
第103図　縄文土器(16)　挿図図版91
第104図　竪穴住居・P601　挿図図版92
第105図　弥生土器(1)　挿図図版93
第106図　弥生土器(2)　挿図図版94
第107図　弥生土器(3)　挿図図版95
第108図　弥生土器(4)　挿図図版96
第109図　弥生土器(5)　挿図図版97
第110図　遺構出土土器６　挿図図版98
第111図　遺構出土土器７　挿図図版99
第112図　土師器・須恵器　挿図図版100
第113図　須恵器・土師器・青白磁・瓷器系陶器　挿図図版101
第114図　石器(1)　挿図図版102
第115図　石器(2)　挿図図版103
第116図　石器(3)　挿図図版104
第117図　石器(4)　挿図図版105
第118図　石器(5)　挿図図版106
第119図　石器(6)　挿図図版107
第120図　石器(7)　挿図図版108
第121図　石器(8)　挿図図版109
第122図　石器(9)　挿図図版110
第123図　石器(10)　挿図図版111
第124図　石器(11)　挿図図版112
第125図　土製品　挿図図版113
第126図　石臼　挿図図版113
第127図　鉄製品　挿図図版114
第128図　古銭　挿図図版115
第129図　土器に付着した炭化物(1)　挿図図版116
第130図　土器に付着した炭化物(2)　挿図図版117
第131図　土器に付着した炭化物(3)　挿図図版118

写 真 図 版 目 次

宮ノ脇遺跡：写真図版１～10
家の後Ⅱ遺跡：写真図版11～80

P35　宮ノ脇遺跡の炭化材
P38　家の後Ⅱ遺跡　試料採取状況
1－1　宮ノ脇遺跡　東壁断面
1－2　１区不明遺構
2－1　１区不明遺構　縦の炭化材
2－2　１区不明遺構　縦断面
2－3　１区不明遺構　南壁断面
3－1　２区下層　完掘
3－2　２区下層　焼土検出
3－3　２区下層　東西方向断面
4－1　２区　掘立柱建物１～３
4－2　３区　掘立柱建物４
5　出土遺物１（縄文土器・弥生土器）
6　出土遺物２（弥生土器）
7　出土遺物３（須恵器・土師器）
8　出土遺物４（中世の土師器・中世の須恵器・擂鉢・こね鉢・土製品・石器・鉄製品）
9　出土遺物５（弥生土器・須恵器・土製品・中世の土師器）
10　出土遺物６（古銭・炉壁）
11　家の後Ⅱ遺跡　完掘
12－1　家の後Ⅱ遺跡　調査前風景
12－2　家の後Ⅱ遺跡　完掘
13－1　調査前風景
13－2　Ｂトレンチ
13－3　Ｃトレンチ
14－1　西壁中央
14－2　西壁北側
14－3　北西隅
15－1　土器埋設遺構１　断面
15－2　土器埋設遺構２　検出
16－1　土器埋設遺構３　検出
16－2　土器埋設遺構３　側面
17－1　土器埋設遺構３　断面
17－2　土器埋設遺構４　断面
18－1　配石土坑１
18－2　配石土坑２
19－1　土坑２
19－2　土坑３
19－3　土坑４
20－1　土坑５・土坑27
20－2　土坑７
20－3　土坑９
21－1　土坑10
21－2　土坑11
21－3　土坑12
22－1　土坑13
22－2　土坑17
22－3　土坑18
23－1　土坑19
23－2　土坑20
23－3　土坑21
24－1　土坑22
24－2　土坑24
24－3　土坑23
24－4　土坑25
25－1　土坑28
25－2　土坑29
25－3　土坑30
26－1　土坑31
26－2　土坑32
26－3　土坑33
27－1　土坑34
27－2　土坑35
27－3　土坑36
28－1　土坑38検出
28－2　土坑38石検出
28－3　土坑38完掘
29－1　土坑39
29－2　土坑40
29－3　土坑41
30－1　土坑42
30－2　土坑43
30－3　土坑44
31－1　土坑45
31－2　土坑47
31－3　Ｐ８
31－4　P275
31－5　P687
32－1　竪穴住居
32－2　掘立柱建物１・９
33－1　掘立柱建物２
33－2　掘立柱建物３
34－1　掘立柱建物７
34－2　掘立柱建物９Ｐ２
34－3　掘立柱建物９Ｐ４
34－4　P364
34－5　P444
35－1　土坑52
35－2　土坑53
35－3　土坑54
36－1　掘立柱建物10・11
36－2　掘立柱建物14・18・19・23
36－3　掘立柱建物５・20
37－1　掘立柱建物15
37－2　掘立柱建物16
37－3　掘立柱建物21
38－1　掘立柱建物10Ｐ２
38－2　掘立柱建物10Ｐ８
38－3　掘立柱建物10Ｐ９
39－1　掘立柱建物11Ｐ９
39－2　掘立柱建物16Ｐ６
39－3　掘立柱建物18Ｐ６
40－1　掘立柱建物15（440・441出土状況）
40－2　掘立柱建物16（442・443出土状況）
40－3　掘立柱建物14P1
40－4　掘立柱建物15P2
40－5　掘立柱建物15P4
41－1　完掘状況（北東から）
41－2　完掘状況（東から）
42　範囲確認調査出土土器・縄文土器１（土器埋設遺構２・４　配石土坑１・２　土坑１・２）
43　縄文土器２（土器埋設遺構１・３）
44　縄文土器３（土坑３～39）
45　縄文土器４（土坑38・41）
46　縄文土器５（土坑38）
47　縄文土器６（土坑38～50）
48　縄文土器７（土坑51～P777　縄文時代早期）
49　縄文土器８（縄文時代早期～前期）
50　縄文土器９（縄文時代中期～後期）
51　縄文土器10（縄文時代後期）

52　縄文土器11（縄文時代後期）
53　縄文土器12（縄文時代後期）
54　縄文土器13（縄文時代後期～晩期）
55　縄文土器14（縄文時代後期～晩期）
56　縄文土器15（縄文時代晩期）
57　縄文土器16（縄文時代晩期）
58　縄文土器17（縄文時代晩期）
59　縄文土器18（縄文時代晩期）
60　縄文土器19（縄文時代晩期）
61　縄文土器20（縄文時代後期～晩期）
62　弥生土器１（竪穴住居１・P601）
63　弥生土器２（弥生時代前期～中期前葉）
64　弥生土器３（弥生時代中期）
65　弥生土器４（弥生時代中期）
66　弥生土器５（弥生時代中期）
67　弥生土器６（弥生時代中期～古墳時代前期）
68　遺構出土土器１（掘立柱建物・土坑）
69　遺構出土土器２（掘立柱建物・土坑）
70　須恵器・擂鉢
71　土師器
72　須恵器・土師器・青白磁・瓷器系陶器
73　石器１（遺構出土・石鏃）
74　石器２（石鏃・尖頭器・石錐・スクレイパー・リタッチドフレイク・ユーズドフレイク）
75　石器３（スクレイパー・楔形石器・石核）
76　石器４（楔形石器・磨製石斧）
77　石器５（磨製石斧・石錘）
78　石器６（磨石・敲石・凹石・石棒・砥石・石製品）
79　土製品・石臼
80　鉄製品・古銭

表　目　次

第５章		宮ノ脇遺跡の樹種同定結果	33
第６章		埋設土器土壌サンプル	38
		埋設土器土壌分析結果	38
		標本土壌土色	38
表１		周辺の遺跡一覧表	5
表２	宮ノ脇遺跡	建物一覧表	47
表３	宮ノ脇遺跡	建物計測表	47
表４－１	宮ノ脇遺跡	遺物観察表（土器）	48
表４－２	宮ノ脇遺跡	遺物観察表（石器・鉄器）	49
表４－３	宮ノ脇遺跡	遺物観察表（古銭）	49
表５	宮ノ脇遺跡	土器数量表	50
表６	宮ノ脇遺跡	ピット一覧表	51
表７	宮ノ脇遺跡	出土石器一覧表	51
表８	宮ノ脇遺跡	鉄滓計測表	52
表９	家の後Ⅱ遺跡	土坑一覧表	53
表10	家の後Ⅱ遺跡	建物一覧表	54
表11	家の後Ⅱ遺跡	建物計測表	55
表12－１	家の後Ⅱ遺跡	土器観察表	59
表12－２	家の後Ⅱ遺跡	石器観察表	67
表12－３	家の後Ⅱ遺跡	土製品観察表	70
表12－４	家の後Ⅱ遺跡	石臼観察表	71
表12－５	家の後Ⅱ遺跡	鉄製品観察表	71
表12－６	家の後Ⅱ遺跡	古銭観察表	71
表13－１	家の後Ⅱ遺跡	一次調査出土土器数量表	71
表13－２	家の後Ⅱ遺跡	縄文土器数量表	72
表13－３	家の後Ⅱ遺跡	弥生土器数量表	78
表13－４	家の後Ⅱ遺跡	須恵器・土師器・陶磁器数量表	80
表13－５	家の後Ⅱ遺跡	土坑出土土器数量表	82
表14－１	家の後Ⅱ遺跡	黒曜石剥片計測表	84
表14－２	家の後Ⅱ遺跡	安山岩剥片計測表	86
表14－３	家の後Ⅱ遺跡	その他の石材計測表	88
表15	家の後Ⅱ遺跡	石錘計測表	89
表16	家の後Ⅱ遺跡	ピット一覧表	91
表17	家の後Ⅱ遺跡	竪穴住居１のピット一覧表	95
表18	家の後Ⅱ遺跡	鉄滓計測表	96

第１章　調査の経緯

第１節　発掘調査の経緯

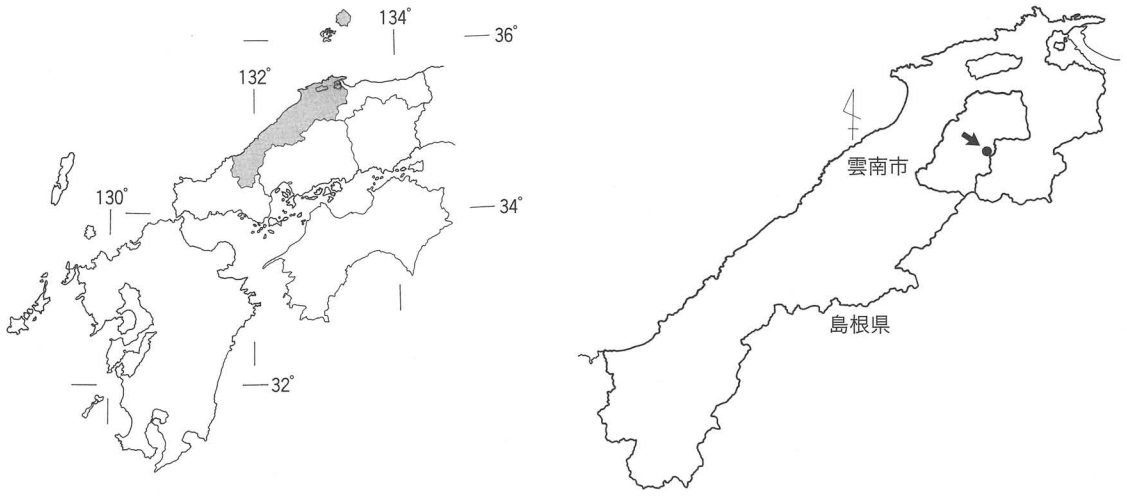
斐伊川は中国山地に源を発し、古くからその流域に広大で肥沃な土地を形成し、出雲地方の豊かな生活をはぐくんできた。

斐伊川の治水事業は大正11年より国の事業として改修が行われたが、斐伊川中下流域は昭和18年、20年の洪水をはじめ、昭和39年、40年、47年など相次ぐ洪水の来襲に悩まされてきた。なかでも昭和47年７月の洪水では、斐伊川・神戸川とも破堤寸前の危険な状態におかれ、宍道湖の増水により松江市など約70平方kmが一週間にわたり浸水した。

このため、沿川の住民や自治体から斐伊川・神戸川の抜本的な治水対策が要望され、昭和51年７月に工事実施基本計画の改定を行い、いわゆる「治水３点セット」①斐伊川・神戸川上流におけるダムの建設、②中流の斐伊川放水路建設と斐伊川の改修、③下流の大橋川改修と中海・宍道湖湖岸の整備、を基本とした治水対策が具体化した。尾原ダムはこの計画に基づき斐伊川上流の大原郡木次町（当時・現雲南市木次町）・仁多郡仁多町に計画された多目的ダムである。尾原ダム建設事業は平成３年10月の「尾原ダム建設事業に伴う基本協定書」調印を経て着手され、平成５年12月には水源地域対策特別措置法のダム指定を受けた。平成６年２月には「尾原ダム建設に関する基本計画」が公示され、現在建設が進められている。

平成３年６月、建設省中国地方建設局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所（現国土交通省中国地方整備局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所）から島根県に対し、埋蔵文化財調査の依頼があった。これを受けて島根県教育委員会では平成５年３月と平成６年３月の２回にわたり分布調査を行った。木次町教育委員会（当時・現雲南市教育委員会）と仁多町教育委員会の協力を得て行われたこの調査で、合計81ヶ所の遺跡および要確認調査地を設定した。

平成10年12月、遺跡の範囲確認調査を平成11年度から実施することが決定した。また、島根県教育委員会、木次町教育委員会、仁多町教育委員会での三者で協議を行い、①確認のため再度分布調査を行うこと、②基本的な分担として、当初はダム本体部分を県が調査し、残土処理場や付け替え道路などの付帯設備部分は両町が対応すること、③今後の調査分担は調査状況や各機関の調査体制



第1図　宮ノ脇遺跡・家の後Ⅱ遺跡の位置

に応じて調整すること、の三点を確認した。平成11年３月に行われた二度目の分布調査では、新たに32ヶ所の遺跡および要確認調査地を設定し、合計113ヶ所の遺跡および要確認地を設定した。

確認調査は島根県教育委員会が行い、平成11年には家の後Ⅱ遺跡を含む11箇所、平成12年には宮ノ脇遺跡を含む20箇所で行い、宮ノ脇遺跡、家の後Ⅱ遺跡ともに全面調査が必要と判断した。なお、平成13年３月に分布調査をあらためて実施し、２箇所の要確認地を追加した。

本調査は平成12年度から行い、これまでに垣ノ内遺跡、川平Ⅰ遺跡、家の後Ⅰ遺跡、尾白Ⅰ遺跡、尾白Ⅱ遺跡、槇ヶ峠遺跡、家ノ脇Ⅱ遺跡、原田遺跡、前田遺跡の報告書を刊行した。

本報告書は平成14・15年度調査の宮ノ脇遺跡、家の後Ⅱ遺跡（２区）の報告である。

第２節　調査組織

下記の体制で発掘調査・報告書作成を行った。

平成14年度（宮ノ脇遺跡・家の後Ⅱ遺跡調査）

［事務局］宍道正年（埋蔵文化財センター所長）卜部吉博（副所長）内田　融（総務課長）

川原和人（調査第２課長）西尾克己（主幹・調査第４係長）

［調査員］中川　寧（調査第４係文化財保護主事）馬庭範成（同（兼）主事）田中強志（同調査補助員）

平成15年度（家の後Ⅱ遺跡調査）

［事務局］宍道正年（埋蔵文化財センター所長）卜部吉博（副所長）永島静司（総務課長）

川原和人（調査第２課長）熱田貴保（調査第４係長）

［調査員］中川　寧（調査第４係文化財保護主事）馬庭範成（同（兼）文化財保護主事）田中強志（同調査補助員）

平成16年度（報告書作成）

［事務局］山根正己（埋蔵文化財センター所長）卜部吉博（副所長）永島静司（総務グループ課長）

宮澤明久（調査第２グループ課長）熱田貴保（調査第５サブグループリーダー）

［調査員］中川　寧（調査第５サブグループ文化財保護主事）稲田陽介（同調査補助員）

なお、発掘作業員の雇用などの現地での発掘作業については、島根県教育委員会から㈳中国建設弘済会へ委託して実施した。担当者は以下のとおりである。

社団法人中国建設弘済会島根県支部

［現場担当］大野紀明（技術員）　［事務担当］藤井利恵・山根亜希子

これまでに宮ノ脇遺跡、家の後Ⅱ遺跡（２区）について下記の報告を行ったが、本報告を持って最終的な報告とする。

「尾原ダム建設に伴う発掘調査　⑷家の後Ⅱ遺跡（２区）、⑸宮ノ脇遺跡」『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報11　平成14年度』p.26　島根県教育委員会　2003

「尾原ダム建設に伴う発掘調査　⑴家の後Ⅱ遺跡（２区）」『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報12　平成15年度』p.24　島根県教育委員会　2004

第２章　位置と歴史的環境

この地域の遺跡の様相は、尾原ダムに伴う発掘調査によって日々更新され、新しい資料を提供している。

旧石器時代　これまで雲南市・仁多町周辺でこの時代の遺跡は確認されていない。なお、今回報告する家の後Ⅱ遺跡から出土した石器の中に、旧石器時代の可能性のあるものが１点ある（第118図546）。

縄文時代　斐伊川中・上流域は縄文時代の遺跡が多く分布する地域である。

この地域で最も古い縄文土器は、雲南市木次町川平Ⅰ遺跡（Q56）から出土した、縄文時代早期の押型文土器である。縄文前期の土器は北原本郷遺跡（６区）や川平Ⅰ遺跡で、縄文中期の土器は、平田遺跡（Q22）や垣ノ内遺跡（Q53）で出土している。縄文早期から中期の遺跡では断続的に土器が出土する程度であるが、縄文時代後期には平田遺跡、仁多町下鴨倉遺跡（N5）、暮地遺跡（N56）などで多数の土器や土坑、土器埋設遺構、土偶が見つかっているほか、家の後Ⅱ遺跡（１区）では竪穴住居が、北原本郷遺跡では土器溜まりが確認されている。

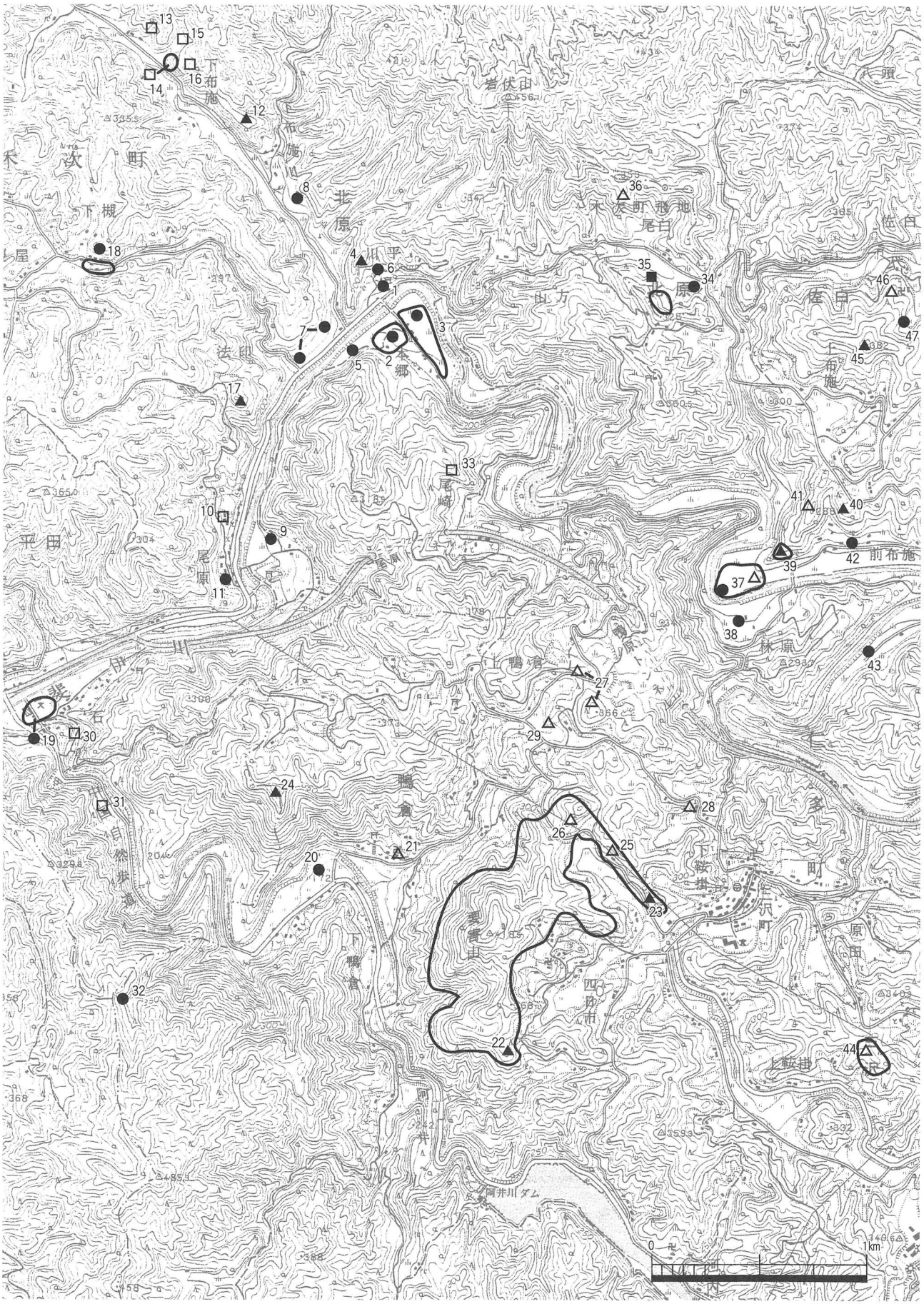
縄文晩期の遺跡も多い。今回報告する家の後Ⅱ遺跡のほか、仁多町原田遺跡（N135）では平成14・16年度の調査で、土器埋設遺構が合計12基、竪穴住居合計５棟、配石墓や土坑、線刻礫が確認された。土器埋設遺構は、これまで雲南市三刀屋町宮田遺跡や仁多町暮地遺跡の例が知られていたが、尾原ダムに伴う発掘調査によって出土例が増加し、斐伊川中流域に特徴的な遺構であることがはっきりした。

弥生時代　垣ノ内遺跡では弥生時代中期後葉～古墳時代前期の竪穴住居が合計15棟確認され、「塩町式土器」に類似する、加飾性の強い土器群が出土した。また、北原本郷遺跡では弥生中期前葉から竪穴住居が見つかっており、集落構造を復元できる資料が増えている。

墳墓遺跡は不明であるが、木次町原口１号墓（Q2）では列石を上部に持つ墓坑が見つかっており、弥生時代の墳墓の可能性が指摘されている。

古墳時代　斐伊川中流域には雲南市加茂町神原神社古墳、三刀屋町松本古墳群、木次町斐伊中山古墳群などの前期古墳が点在する。この地域では仁多町須坂古墳群が立地や形態から古相を示すと考えられる。古墳後期には横穴式石室を持つ古墳が見られるようになる。その中の一つ、仁多町原田古墳（N135）は墳形や規模は不明であるが、横穴式石室から双龍環頭大刀、金銅製馬具一式、翡翠製勾玉などの玉類や鉄器、多数の須恵器が出土している。双龍環頭大刀や金銅製馬具一式は古墳後期に存在が想定される身分表徴システムで機能する器財であることから、当時の近畿地方との密接な関係がうかがわれる。築造時期は６世紀末（須恵器：出雲４期）と考えられる。他に仁多町には横穴式石室を持つ穴観１号墳（円墳：N22）や前方後方墳で横穴式石室を持つ穴観２号墳がある。この地域の横穴墓は平面は縦長の長方形プランで、断面は三角形である。下布施横穴墓群には装飾大刀を副葬した横穴墓があるほか、原田古墳の背後の山にある殿ヶ迫横穴墓群（N134）などがある。集落遺跡として垣ノ内遺跡、平田遺跡がある。平田遺跡では古墳前期の竪穴住居から鍛冶炉が検出され、板状や棒状の鉄片などが出土した。平田遺跡では鉄素材を鍛錬し、鏨を用いて鉄鏃などの鉄器を製作したと考えられる。

奈良・平安時代　尾原ダム予定地は『出雲国風土記』によれば仁多郡布施郷と三澤郷にあたる。



第2図　宮ノ脇遺跡・家の後Ⅱ遺跡と周辺の遺跡（S＝1/25,000）

表1　周辺の遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	種　別	縄文	弥生	古墳	古代	中世	江戸以降	備考	遺跡地図
1	宮ノ脇遺跡	散布地・集落？	●	●	●	●	●	●	本報告書掲載	Q71
2	家の後Ⅱ遺跡	集落	●	●	●	●	●	●	本報告書掲載	Q111
3	北原本郷遺跡	集落	●	●	●	●	●	●	発掘調査	Q110
4	下布施氏館跡	山城					●		発掘調査	Q37
5	家の後Ⅰ遺跡	散布地	●	●	●	●			発掘調査	Q52
6	宮サコ遺跡	散布地		●		●			発掘調査	Q70
7	川平Ⅰ遺跡	集落	●	●					発掘調査	Q56
8	垣ノ内遺跡	集落	●	●	●	●	●		発掘調査	Q53
9	家の上遺跡	祭祀遺跡・製鉄遺跡		●		●	●	●	発掘調査	Q75
10	上垣内たたら跡	製鉄遺跡					●		発掘調査	Q74
11	石壺遺跡	散布地							発掘調査	Q23
12	案久寺遺跡	城館跡					●		発掘調査	Q57
13	ゴマボリ鈩跡	製鉄遺跡							発掘調査	Q68
14	寺田Ⅰ遺跡	製鉄遺跡・古墓				●			発掘調査	Q78
15	寺田Ⅱ遺跡	製鉄遺跡							発掘調査	Q79
16	寺田Ⅲ遺跡	製鉄遺跡								Q80
17	トヤゲ丸城跡	城跡								Q72
18	下槻Ⅲ遺跡	集落								Q63
19	平田遺跡	製鉄遺跡ほか	●	●	●	●	●		発掘調査	Q22
20	下鴨倉遺跡	散布地	●	●	●				発掘調査	N5
21	光善寺古墳	古墳			●					N90
22	三沢城跡	城跡					●			N44
23	布広城跡	城跡					●			N60
24	松木山城跡	城跡								N21 Q115
25	どけや古墳	古墳			●					N20
26	比丘尼原横穴墓群	横穴墓			●					N62
27	穴観古墳群	古墳			●					N22
28	為石古墓	古墓					●			N115
29	菅田古墳群	古墳			●		●			N112
30	勝部宅前鈩跡	製鉄遺跡								Q113
31	難波宅前鈩跡	製鉄遺跡								Q114
32	戈の原遺跡	散布地								N100
33	槙ヶ垰遺跡	製鉄遺跡	●	●	●	●		●	発掘調査	Q77
34	尾白Ⅰ遺跡	散布地	●	●	●				発掘調査	Q54
35	尾白Ⅱ遺跡	炭窯跡						●	発掘調査	Q55
36	尾白横穴墓群	横穴墓			●					Q1
37	原田遺跡・原田古墳	集落・古墳	●	●	●	●	●		発掘調査	N135
38	前田遺跡	散布地	●	●					発掘調査	N145
39	西尾社遺跡	城跡						●	発掘調査	N131
40	水手山城跡	城跡					●			N42
41	殿ヶ迫横穴墓群	横穴墓			●				発掘調査	N134
42	円満寺遺跡	祭祀遺跡・寺院跡				●			発掘調査	N144
43	家ノ脇Ⅱ遺跡	散布地	●	●	●	●	●		発掘調査	N146
44	正覚古墳群	古墳			●					N107
45	佐白城跡	城跡					●			N43
46	玉雲寺古墳群	古墳			●					N125
47	六方遺跡	散布地				●	●			N130

（凡例）
● 集落・散布地
△ 古墳・横穴・古墓
▲ 城跡
□ 生産遺跡
■ その他の遺跡

寺田Ⅰ遺跡（Q78）では奈良時代の鍛冶遺構が、槙ヶ垰遺跡（Q77）では平安時代の製鉄遺構が確認されている。また、家の上遺跡（Q75）では配石遺構から土馬、手づくね土器が出土した。水辺の祭祀跡と考えられている。仁多町円満寺遺跡（N144）の土器溜まりからは須恵器や土師器が大量に出土した。土馬が含まれていたほか、湧水のある場所に遺構が築かれているので、水に関わる祭祀の跡ではないかと思われる。

鎌倉・室町時代　1221（承久３）年に起きた承久の乱により、出雲国に配置された東国の御家人のうち、三沢郷には信濃国の飯島氏が所領を得た。鎌倉時代末頃から三沢郷を拠点に、隣接する阿井郷・布施郷・三処郷にも支配領域を広げ、三沢氏を名乗り、室町時代には斐伊川上流域の横田庄にも進出した。三沢氏が築いた三沢城は独立丘陵に近い形態の鴨倉山に位置する多郭式の山城である。三沢城は1509（永正６）年横田庄に藤ヶ瀬城が築かれるまで三沢氏の拠点であった。三沢氏は奥出雲の鉄生産と流通を掌握し、1543（天文12）年に尼子氏に屈したあとも出雲国最大の国人領主として影響力を保持し続けた。

製鉄遺跡では、12世紀後半と推定される上垣内たたら跡（Q74）などの野たたらが分布している。

安土桃山・江戸時代　1600（慶長５）年の関ヶ原の戦いの後、松江藩が成立し、堀尾氏、京極氏を経て松平氏が松江藩を治める。このころ奥出雲の製鉄は盛んになり、天秤鞴を備えた高殿たたらで大規模な生産を開始するようになる。

【参考文献】（尾原ダム関係）

『尾白Ⅰ遺跡・尾白Ⅱ遺跡・家ノ脇Ⅱ遺跡３区・川平Ⅰ遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書１』島根県教育委員会　2003

『家の後Ⅰ遺跡・垣ノ内遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２』　島根県教育委員会　2003

『槙ヶ垰遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３』　島根県教育委員会　2004

『家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡１区・前田遺跡４区　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書４』　島根県教育委員会　2004

『家の上遺跡・岩壷遺跡　尾原ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書１』　木次町教育委員会　1998

『上垣内たたら跡・北原Ⅰ遺跡・茶屋の廻遺跡』　木次町教育委員会　1999

『枯木ヶ谷鈩遺跡　尾原ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書３』　木次町教育委員会　2000

『下布施横穴墓群・案久寺遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書４』　木次町教育委員会　2002

『家ノ前鈩跡・谷口遺跡・宮サコ遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書５』　木次町教育委員会　2003

『殿ヶ迫横穴墓群・西尾社遺跡・亀ヶ谷遺跡・シベ石遺跡・時仏遺跡・時仏山横穴墓』　仁多町教育委員会　2001

『暮地遺跡　尾原ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』　仁多町教育委員会　2004

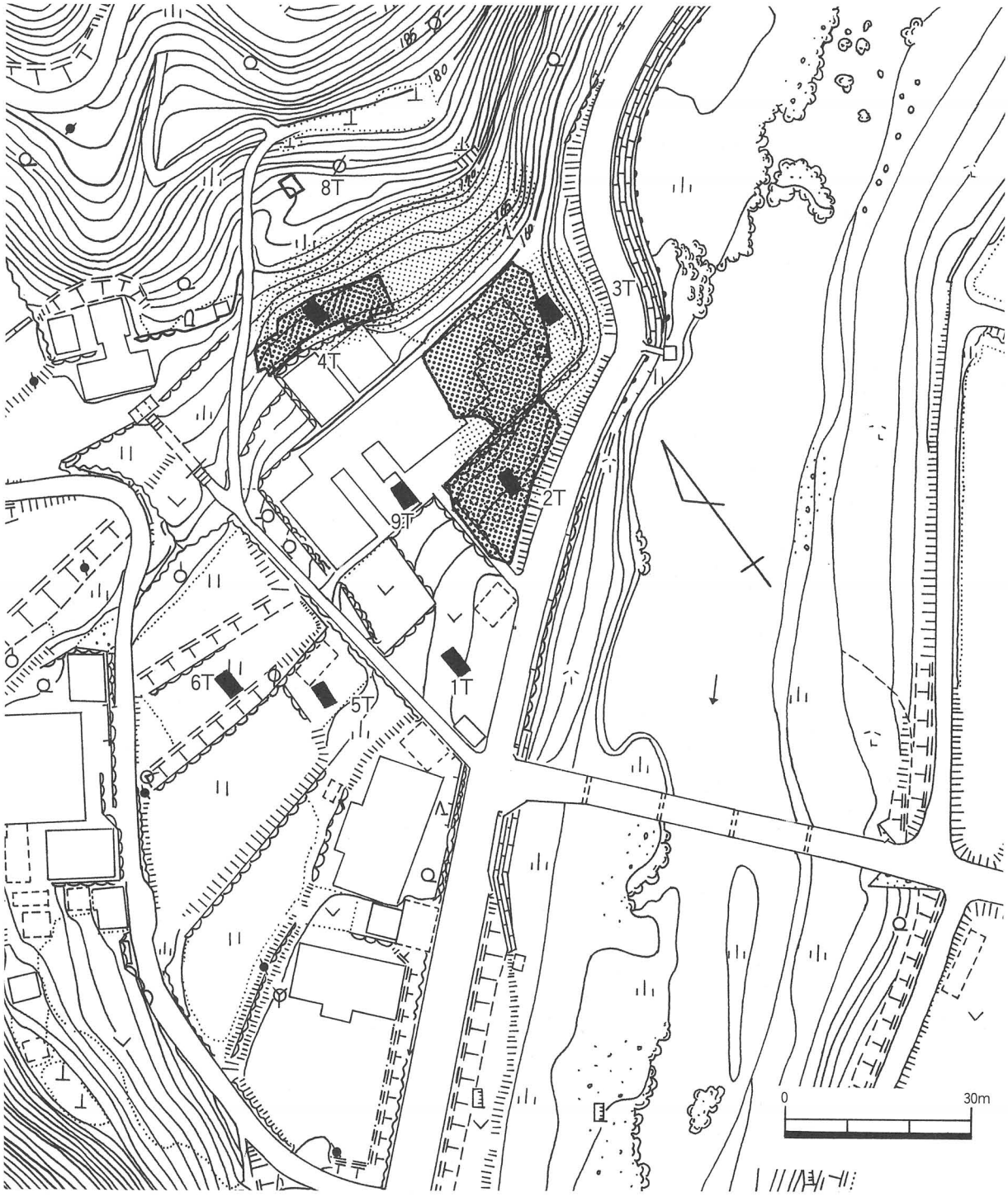
『新修木次町史』　2004

第３章　宮ノ脇遺跡

宮ノ脇遺跡は島根県雲南市木次町北原667ほかに所在する。

宮ノ脇遺跡は、遺跡の南を流れる斐伊川に向かう斜面の傾斜のやや緩やかな部分に位置する。遺跡の眼下には斐伊川を眺めることができる。三幡神社の北東に位置し、調査前は宅地であった。調査地の北側の斜面には宮サコ遺跡がある（木次町教育委員会編2003）。

平成11年度の分布調査の際に遺物を採集したので範囲確認調査が必要となり、平成12年度に範



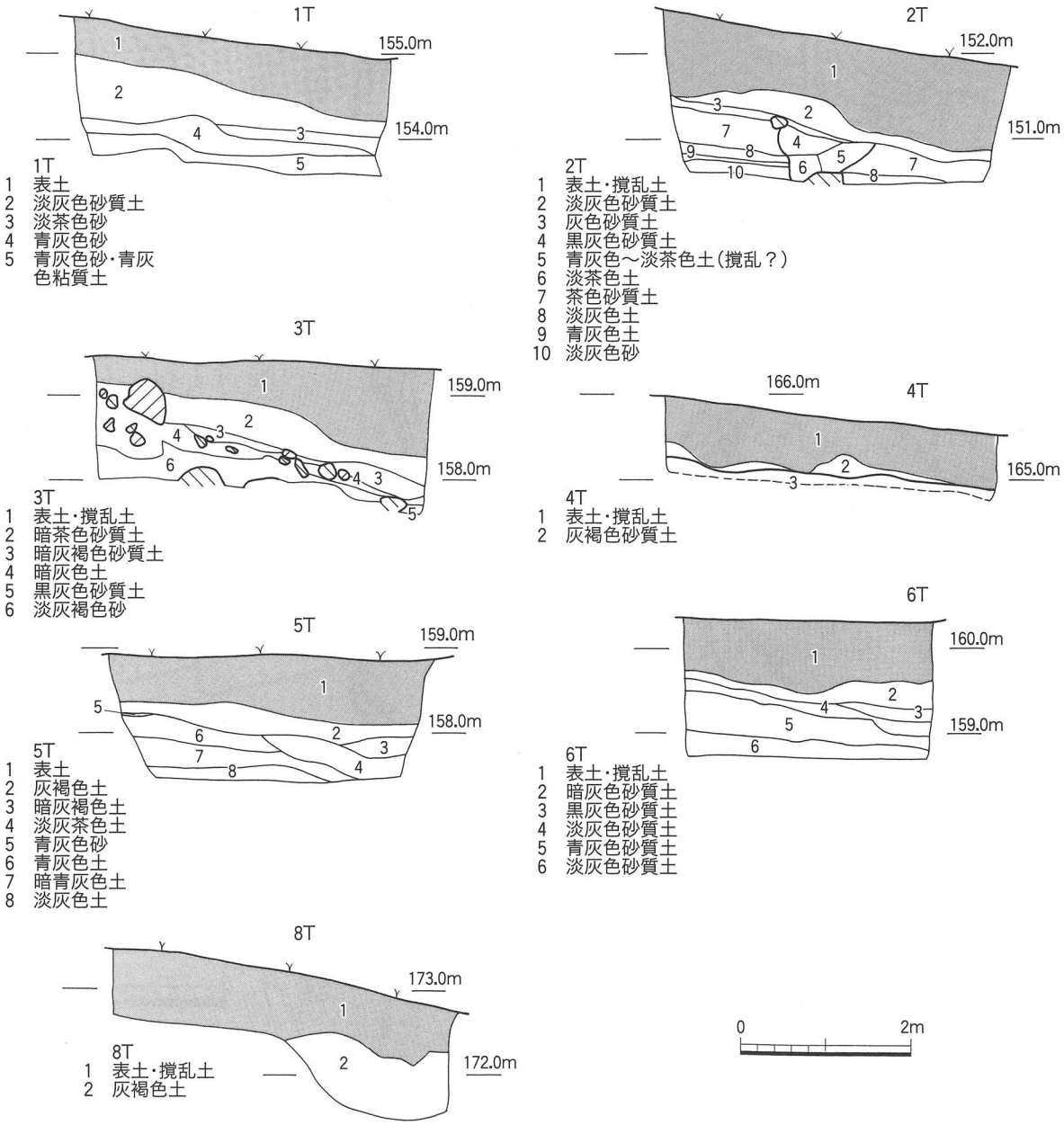
第3図　宮ノ脇遺跡調査区位置図（S＝1/1,000）

■ は遺物・遺構を確認したトレンチ　　▨ は調査対象範囲

□ は遺物・遺構を確認しなかったトレンチ　　▨ は調査範囲

囲確認のための一次調査を実施した。９箇所にトレンチを設定したところ、２Ｔ、３Ｔから遺物を確認したほか、４Ｔでは柱穴と考えられるピットを検出したので、２Ｔおよび３Ｔの周辺と４Ｔの周辺の２箇所を全面調査の対象とした。

平成14年３月13日付け国中整斐調二設第44号によって、宮ノ脇遺跡の調査について協議があり、同年３月22日付け島教文財第509号で回答し、本調査は平成14年度に実施した。本調査を実施する前に盛土層を重機により掘削したところ、調査対象地の西側は撹乱が著しいことがわかったので、道路に面した低い箇所を１区、その上の傾斜地を２区、最も高い箇所を３区として調査区を設定し、平成14年４月15日から本調査を実施した。調査は２区から始め、１区、そして３区の調査を行った。採集遺物や一次調査の際に出土した遺物には縄文土器から近世陶磁器まであり、鉄滓もあったことから、調査に際して縄文時代以降近世に至るまでの遺構・遺物の変遷をたどることができることを主な目的とし、あわせて製鉄に関連する遺構や遺物の把握につとめた。



第4図　宮ノ脇遺跡一次調査土層図（S＝1/80）

調査によって掘立柱建物５棟、炭化材が出土した不明遺構１基、縄文時代から中世末の遺物を確認し、６月７日に調査を終了した。調査終了後、６月17日付け島教文財第151号により島根県教育委員会教育長から国土交通省中国地方整備局長あてに宮ノ脇遺跡の発掘調査の結果を通知し、記録保存として取り扱いを行った。

第１節　土層（第15図）

１区は上部が削平されている部分であった。

２区は盛土の部分を中心に10層から上位を機械により掘削した。土層は地山の傾きに従って傾斜している。12層から上位の部分で盛土が認められる。遺物の取り上げにおいては、15～22層を「包含層上位」、23～25層を「包含層下位」とした。なお、第14図の等高線は遺構検出時のものである。３区は調査前から段状に傾斜が緩くなっている部分があり、４Ｔでピットを確認していたところである。炭を含んだ黄灰褐色土や暗赤褐色土が最大で約80cm堆積していた。

第２節　遺構・包含層

（ａ）土器の出土状況（第17～20図）

２区の遺構検出中に縄文土器や弥生土器が出土したので、遺構検出後に８ｍ×５ｍのほぼ長方形の範囲で暗褐色土を掘り下げ、遺物をドットで記録した。約60cmの深さまで掘ると土器が出土しなくなったので、掘削を終了した。平面的に土色の違いを確認することは難しかったが、断面で確認しながら掘り下げていくと、黒色を基調とした土のわずかな違いから半円形に色の違う範囲を確認することができ、その中央付近に小さな範囲で焼土を確認した。この色の違う範囲を復元すると直径約６ｍほどになる。柱穴を確認することができなかったので、竪穴住居であると判断できなかった。第20図の断面図を見ると、上位では土師器や須恵器が出土し、下位になるほど縄文土器や弥生土器が出土する傾向がうかがえた。縄文土器と弥生土器が同一の土層や高さで出土しており、５～６ｍも離れて接合する個体があったことから、包含層として扱った。

（ｂ）不明遺構（第21・22図）

１区は緩やかに道路へ向けて傾斜しているが、調査中に焼土や炭が見つかりはじめたので、注意して掘り下げていくと、斜面をカットした遺構が見つかった。遺構の下位は道路の下に続いている。現存の長さ4.4m、幅は7.6m、高い部分と低い部分の差は約１ｍである。焼土は３箇所に分かれており、そのうち、斜面で検出した焼土の間から多数の炭化材を確認した。

検出面では焼土の間を結ぶような長い丸太状の炭化材が多い（第22図上）。斜面の上位には大きな材が破損して、小片になっていた。炭化材は端が焼土の中に入っている。上位の炭化材を取り上げると、再度炭化した長い丸太材を検出した（第22図下）。下位の炭化材は地山に接していない。上位の炭化材の方が強く焼けており、下位の炭化材の焼けは弱い。下位の丸太材の長軸は、上位の丸太材の長軸と直交する。

遺構は①斜面を窪地状にカットする。②傾斜に平行して長い丸太を置く。③その上に立てかけるように、傾斜に直交して丸太を置く、④丸太の両側を土で固定する、⑤材が炭になるまで燃える。という過程を想定することができる。遺構の用途が特定できなかったので、「不明遺構」と名付けた。

第５章に炭化材の樹種の同定結果を掲載しているが、ノグルミやコナラ節などの広葉樹であることがわかった。

この遺構の掘削中に須恵器坏口縁部（55）と須恵質の鉢胴部（79）が出土した。この遺構の時期はこれらの土器から、奈良時代～鎌倉・室町時代と考えられる。

（ｃ）掘立柱建物（第23・24図）

掘立柱建物は２区で３棟、３区で２棟確認した。概ね長軸が等高線に平行するように築かれていた。２区の建物は調査範囲に制約されて小さい規模で復元している。

掘立柱建物１　調査範囲の西側へ続くと考えられる。

掘立柱建物２　掘立柱建物１と重複する。Ｐ４から中世の土師器片が出土したので掘立柱建物の時期は中世と考えられる。

掘立柱建物３　２区の中央やや西よりの部分に位置する。

掘立柱建物４　３区で確認した。唯一全形が復元でき、１間×５間であるが、幅の狭い平坦面に位置していたため、南側の柱穴は崩落して確認できなかった。Ｐ１のみ２段に掘られているほか、全体に他の掘立柱建物より柱穴が大きい。梁間が長く、柱穴の形が長楕円形なので、近世の可能性が強い。

掘立柱建物５　掘立柱建物４の東に位置する。掘立柱建物４に伴う施設の可能性がある。

（ｄ）ピット

合計94基のピットを検出した。ほとんどが円形で直径30～60㎝程度のものである。報告した掘立柱建物以外に建物を復元できなかった。表６にピット一覧表を掲載した。ピットの中には遺物が出土したものがある。Ｐ2とＰ3は２区で並んで検出した。一辺が80㎝以上あり、他に比べ大きい。底に一辺が20～30㎝の板状の石があった。また、Ｐ22は径30㎝程度の小さなピットであるが、底にほぼ下面一杯の大きさの板状の石を置いていた。

（ｅ）石組遺構

２区の東壁から南西方向にむけて石列を検出した。検出した長さは約2.2ｍで、長さ約50㎝の石を横にして、１～２段に積んで並べていた。第15図の13層から掘り込まれているので、近世の可能性がある。

第３節　遺物

縄文土器（第25図１～18）　１は厚手の口縁部で、早期の可能性がある。２～８は晩期前半の深鉢である。２～４は口縁部に刻みを持たないもの、５は口縁端部全面に刻みがある。９～14は晩期の突帯文土器の深鉢である。９、10は口縁端部に刻みがあるので突帯文Ｉ期、11、12は口縁部から下がって突帯が付くので古市河原田式、13は口縁部に接して突帯が付くので古海式、14は二条突帯で古海式の時期と考えられる。９、10は胴部に屈曲があるが、11～14は砲弾型の胴部のようである。15～18は晩期の浅鉢である。

弥生土器（19～43）　19は１点のみ出土した前期の甕である。文様を欠くが、胴が張る器形なので前期後葉～末（出雲隠岐Ｉ－３～４様式）と考えられる。20～32、36～42は中期である。中期の破片が最も多い。36は中期前葉の甕である。20～23は中期中葉から後葉の広口壺である。22は東側を中心に出土した。24は頸部に指頭圧痕文帯のある短頸の壺である。25、26、37～41は甕である。

25は頸部にある突帯の上を指ではなく工具で刺突する。破片は近接して出土した。26は調査範囲の全体から出土した。40は胴部の刺突文がずれている。27、28は漆塗りの鉢で、同一個体の可能性がある。29、30、42は高坏である。31、32は鉢である。31は手づくね土器に似た粗雑なつくりをしているが、胎土から中期と考えた。33～35、43は後期である。32は複合口縁になっていないが、胎土から後期の甕と考えた。34、35は口縁部をヨコナデしているが後期中葉（Ⅴ－２様式）と考えられる。43は同時期の鉢である。他に古式土師器が少量出土しているが、図示できるような破片は無い。

須恵器（44～58、75～77）　44～51、53は古墳時代後期の須恵器である。短脚高坏の脚端部には、面を持つもの（47、48）と上方に伸びるもの（49、50）の二者が出土した。52、55～58は奈良時代の須恵器である。52は図上で復元した。図示したもののほかに、高台付坏の細片が出土した。75～77は平安時代の甕である。いずれも焼きは硬質である。

土師器（59、62～69）　59は小形の鉢で、全体に薄手である。甕の破片が最も多く出土したが、図示できるような破片はなかった。また、赤塗土師器や製塩土器の細片が少量出土した。62～68は平安時代末以降の土師器である。

鉢（70～74、78～82）　70、71は土師質である。72、73は瓷器系の鉢である。74は土師質の火鉢で、口縁部に四角形のスタンプで施文する。78～80は須恵質、81、82は備前焼の擂鉢である。

その他の陶器（83、84）　83は常滑系の壺、84は瀬戸焼の皿である。

土製品（60、61、85～88）　60は調査範囲の中央から西側にかけて出土した。出土した破片には取っ手部分が無かったので、取っ手を図示せずに図上で復元した。61の頂部にはわずかな凹みがある。85は中ほどで屈曲する。86は厚手なので移動式竈の口縁部と考えた。87は85よりも短い。88は断面が小ぶりで、楕円形である。

石器（89、91）　石錘は３点出土し、89のみを図示した。ほかに黒曜石や瑪瑙の剥片が出土した。91は安山岩製の平基式の石鏃である。

鉄製品（90）　３区のＰ90より出土した。刀子と思われる。

古銭（92～98）　開元通寶、大観通寶、寛永通寶が出土した。93は残りが悪い。

炉壁（99～103）　５点の炉壁を図示した。鉄滓が合計91888.2ｇ出土した。うち磁着のあるものは約３割の28258.81ｇである。

第４節　まとめ

宮ノ脇遺跡の調査で出土した縄文土器では晩期の土器が目立った。弥生土器は中期のものが多く、広口壺や漆塗りの無頸壺などが出土した。古墳時代後期の須恵器や土師器、中世の須恵器や土師器、瓷器系陶器が見られる。青磁や白磁などの輸入陶磁器は極めて少ない。

遺跡から出土した遺物点数を表５に掲載している。宮ノ脇遺跡では縄文晩期以降、断続的に遺物が出土する。土師器が最も多く、次に弥生土器が出土した。また、包含層の上位では中世の須恵器や土師器が多く見られるのに対して、包含層の下位では古代以降の遺物が少なくなる。古墳時代後期の須恵器や土師器が多く出土したことは、次章で述べる家の後Ⅱ遺跡（２区）の様相と異なっている。

不明遺構の炭化材にはノグルミやコナラ節の広葉樹であることがわかった。尾原ダムの調査では雲南市尾白Ⅱ遺跡で確認した江戸時代～明治時代の炭窯の一つ、ＳＧ01の木炭が分析されており、

クリ、クヌギなどがある（島根県教育委員会編2003）。ナラなどの雑木はたたら用大炭に最適であるといわれている[1]が、今回検出した不明遺構は近世以降の炭窯と平面形や形態が大きく異なっている。鉄滓や炉壁の出土から、調査範囲外にたたら跡がある可能性が強く、不明遺構はこのたたら跡に伴う遺構である可能性がある。なお、家の前鈩跡の中世前半（12～13世紀）と考えられる鈩の炉床から出土した炭化材にはコナラ節がある[2]。また、理化学年代測定の値から中世（12世紀代）と考えられる上垣内たたら跡から出土した木炭の樹種にはクヌギ、クリ、アベマキ、クマシデなどがある（木次町教育委員会編1999）。

宮ノ脇遺跡の上方約50mのところに所在する宮サコ遺跡では、古代の須恵器や土師器、鉄滓などの製鉄関連遺物が出土している。また、61のように頂部にわずかな凹みのある土製支脚も出土していることなど共通点があり、今回報告した宮ノ脇遺跡と一連の遺跡であると考えられる。

石列遺構

1　和鋼博物館スポット解説資料「木炭（たたら炭）」を参照した。

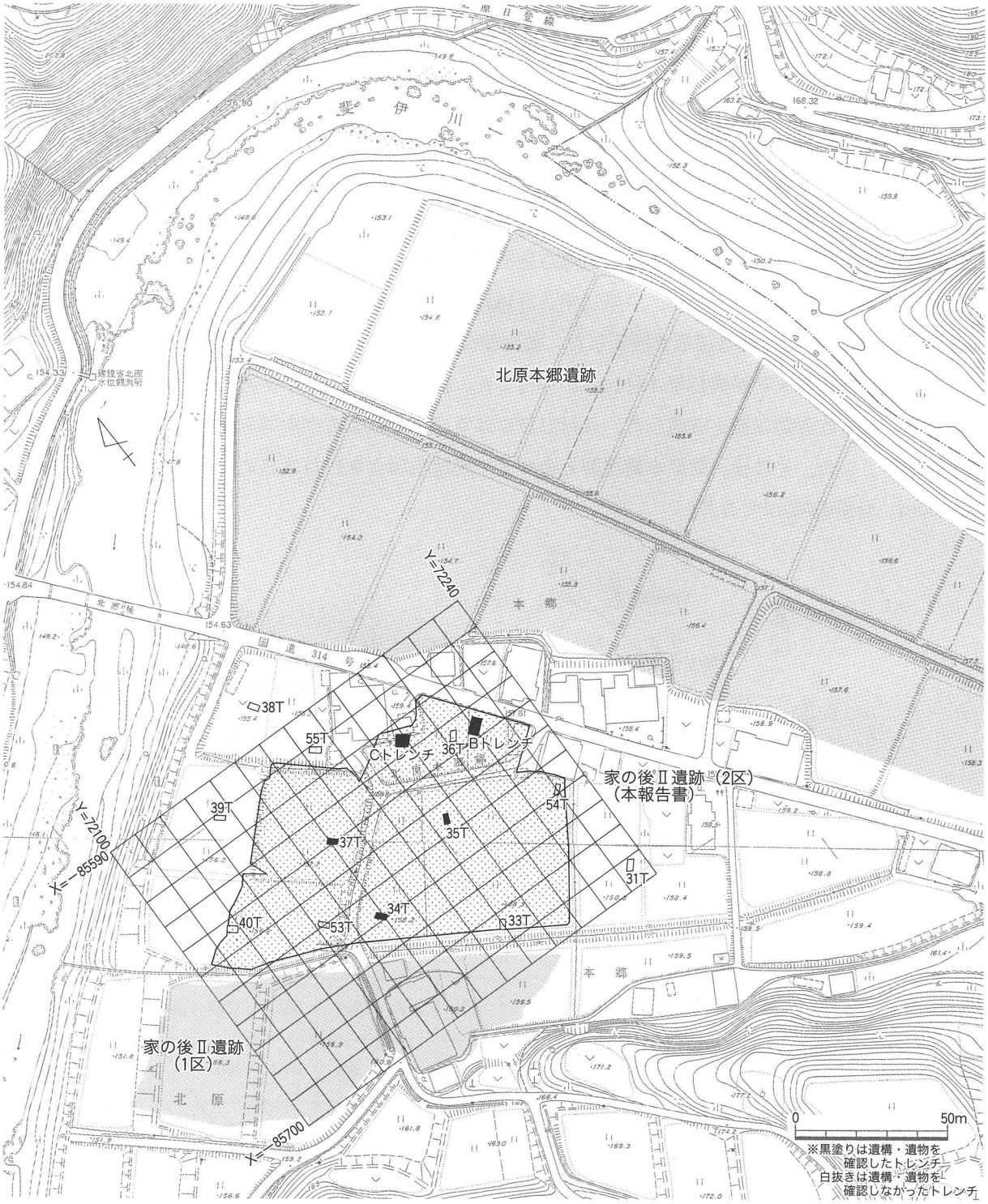
2　金原正明・金原正子「家の前鈩跡における環境考古学分析」『家の前鈩跡・谷口遺跡・宮サコ遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書５（付編）』pp.52～67　木次町教育委員会　2004

第４章　家の後Ⅱ遺跡

家の後Ⅱ遺跡は島根県雲南市木次町北原282－1ほかに所在する。

家の後Ⅱ遺跡は斐伊川の左岸に位置する。南東から流れてきた斐伊川が遺跡のある北原で南西へ屈曲する部分にある、大きな河岸段丘のやや山よりのところに位置しており、宮ノ前遺跡の対岸である。調査前は田畑、道路、宅地であった。

平成５年度の分布調査の際に遺物を採集し、平成11年度に範囲確認のための一次調査を実施した。

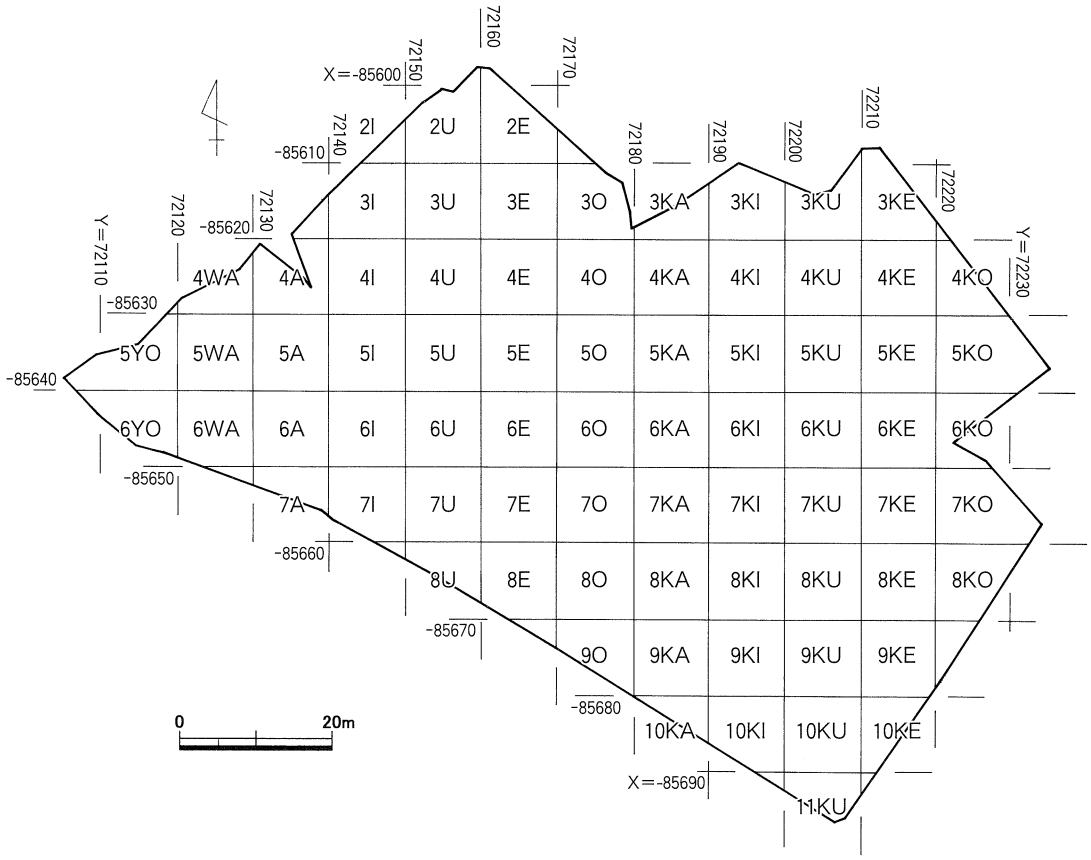


第5図　家の後Ⅱ遺跡　2区調査区配置図（S＝1/2,000）

北原本郷遺跡と合わせて合計51箇所にトレンチを設定し、遺物・遺構を確認したことから『家の後Ⅱ遺跡』を設定した。平成14年３月13日付け国中整斐調二設第44号で家の後Ⅱ遺跡の調査について協議があり、同年３月22日付け島教文財第509号で回答した。調査に際して便宜上用水路で調査区を区切り、用水路の南側を『家の後Ⅱ遺跡１区』、今回報告する用水路の北側を『家の後Ⅱ遺跡２区』として、２区の調査を平成14年６月５日から開始した。範囲確認調査で縄文土器や中世の土器が出土していることから、縄文時代における遺跡の変遷の把握を第一とした。あわせて、河岸段丘における中世を中心とする時代の居住域など土地利用の把握を目的とした。

調査を開始した後、縄文時代の土器埋設遺構や土坑を確認したので、6月24日には山田康弘氏（島根大学法文学部助教授）を招いて調査指導会を開催した。さらに調査を進めた結果、中世の掘立柱建物を確認し、11月２日に現地説明会を開催した。その後、11月15日にラジコンによる空中写真を撮影し、12月13日に調査を終了した。平成14年度の調査面積は約4,300㎡である。遺跡が調査対象範囲の外へも広がっている可能性があることから、11月21日から範囲確認調査を14年度調査区の北側で行い、Ｂ及びＣトレンチを設定した。平成15年３月27日付け島教文財第594号により島根県教育委員会教育長から国土交通省中国地方整備局長あてに平成14年度の調査結果を通知した。

平成15年度の調査については、平成15年３月18日付け国中整斐調二設第44号で協議があり、同年３月26日付け島教文財第575号で回答した。範囲確認調査の結果を受けて、前年度調査区の北東側や南西側、道路の下を平成15年４月14日から行った。縄文時代の土坑や多数の中世以降のピットを確認し、掘立柱建物18棟を確認した。８月21日にはラジコンによる空中写真を撮影し、９月１日に調査を終了した。その後、北原本郷遺跡と合わせて現地説明会を11月３日に実施した。調査面積は2,400㎡、合計6,700㎡である。



第6図　家の後Ⅱ遺跡　2区グリット図（S＝1/1,000）

調査終了後は埋蔵文化財調査センターで整理作業を行った。平成16年２月３日付け島教文財第1589号により島根県教育委員会教育長から中国地方整備局長あてに平成15年度の調査結果を通知し、家の後Ⅱ遺跡（２区）を記録保存として取り扱いを行った。

第１節　一次調査・土層

平成11年度に行われた範囲確認のための一次調査では家の後Ⅱ遺跡２区に８箇所のトレンチが設定されている。このうち土層の記録が残っている５つのトレンチを第31図に記載した。一次調査では33トレンチ（以下Ｔと略）で遺構を、34Ｔ、35Ｔ、37Ｔで遺物を確認した。また、平成14年度の範囲確認調査では36Ｔ付近にＢトレンチ、Ｃトレンチの２箇所のトレンチを設定し、遺構や近世と考えられる遺物を確認した。

⑴　土層

36ＴやＢトレンチ、Ｃトレンチのある調査区の北東部分は宅地であったため撹乱が著しく、盛り土を撤去すると地山である黄褐色砂礫層まで20㎝程度しかない部分があった。一方、道路の下の部分では土層が良好に残っていた。暗褐色土の上面では中世以降の掘立柱建物や土坑、ピットを検出し、また、暗褐色土中からは縄文時代から古墳時代の遺物が出土し、遺物包含層となっていた。暗褐色土は調査区の北東側では薄く、道路の下や調査区の南西側では厚く堆積していた。暗褐色土の厚さは最大で約80㎝であった。暗褐色土の下層は、調査区の北側では大きな礫混じりの黄褐色砂礫層であった。中央部分では巨大な礫が堆積しており、かつて河原であったことを示していた。暗褐色土を完掘した面の標高は、調査区の北東側が高く、西側が最も低かった。南側では暗褐色土と砂礫層の間に４～７層が堆積していた（第31図）。これらの土層からは遺物や遺構を確認しなかった。調査では、盛り土および近世以降と判断した1.2層を機械により掘削し、遺物包含層である暗褐色土から人力で掘削した。

⑵　調査の方法

調査区の中に日本測地系の国土方位座標にあわせて10m四方のグリッドを設定した。Ｘ＝－85590を「１」として南へ10mごとに数字を増やし、「11」までつけた。Ｙ＝72140を「Ａ（ア）」として東へ10mごとに「Ｉ（イ）、Ｕ（ウ）、Ｅ（エ）」と名前を付け、「ＫＯ（コ）」までつけた。なお、調査区がＹ＝72140よりも西へ広がることになったので、「YO（ヨ）、WA（ワ）」とした。遺物の取り上げや遺構の位置はこのグリッドごとに行い、「５ＫＡ」のように呼称した。遺構名は整理作業の際に調査当時の名称を変えて、古いものから順に振り替えた。

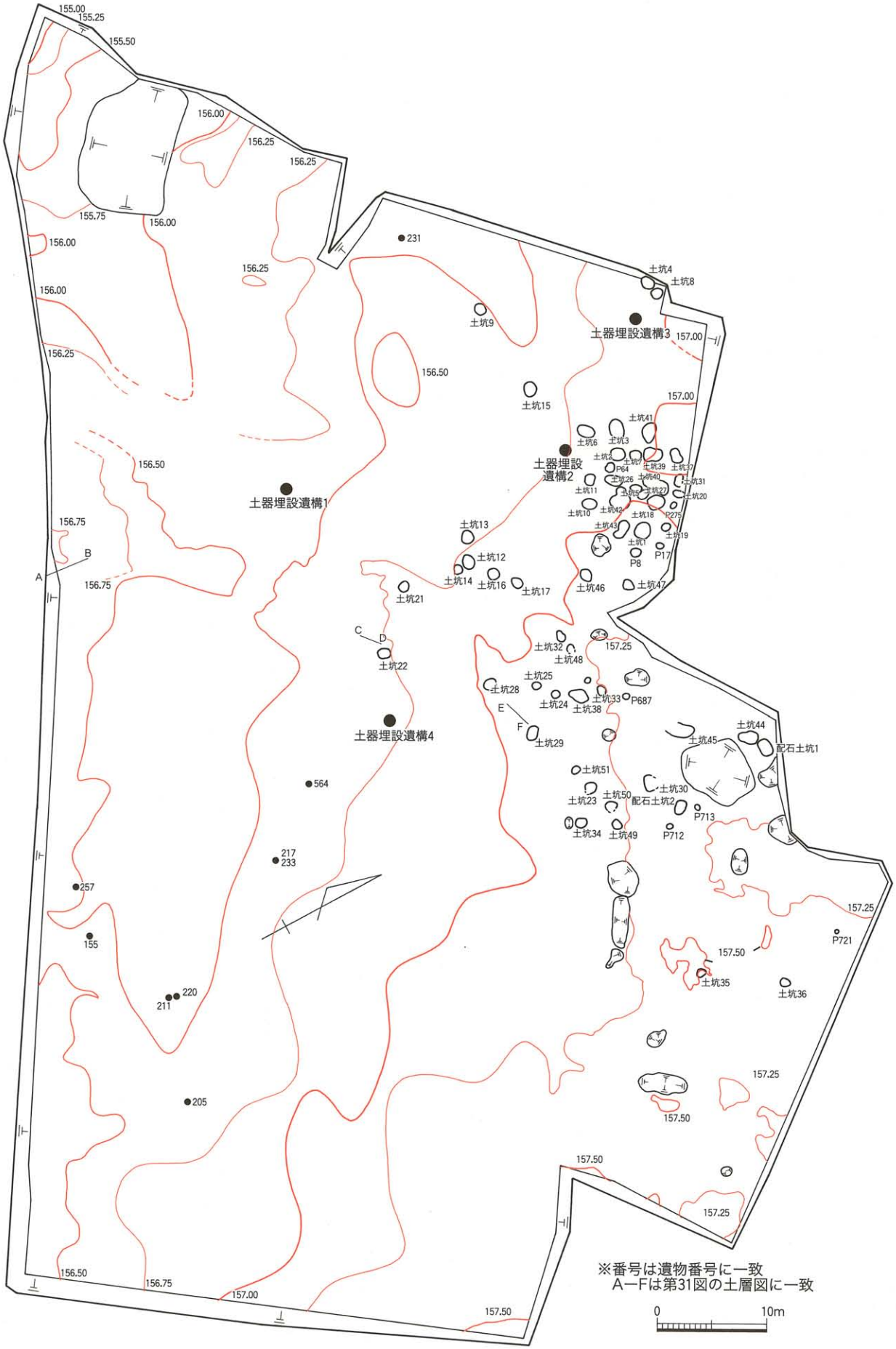
第２節　縄文時代

縄文時代の遺構は、調査区の北側、暗褐色土が薄い部分では黄褐色砂礫層の上面で検出した。また、暗褐色土が厚い部分では土器埋設遺構を検出した。

⑴　土器埋設遺構（第32図）

４基の土器埋設遺構を検出した。後述する配石土坑や土坑の中に位置するのではなく、むしろそれらの遺構とは重ならない場所に位置している。土器埋設遺構１と３は口縁部を上にして検出した。また、土器埋設遺構１～３は深鉢を用いており、煤が外面に厚く付着している。

土器埋設遺構１　５Ｕ.６Ｕに位置する。暗褐色土中に掘り込まれており、掘削中に口縁部を検出



第7図　家の後Ⅱ遺跡　遺構配置図(1)（縄文時代の遺構・遺物）（S＝1/500）

したことで判明した。断面で観察したが掘り方はわからなかった。口縁部を一部欠く他は完形である。

土器埋設遺構２　３Ｅに位置する。検出時にはほぼ一周していたが、現状では深鉢の胴部下半約１／３が残っている。遺存状態が悪く、当初から底部を欠いていたのかどうかは不明である。断面の観察では土器の下に掘り方があるように見えるが、礫が多く掘り方を見つけることができなかった。口縁部を欠くが、正位であると考えられる。

土器埋設遺構３　２Ｕに位置する。唯一掘り方を確認した。土器の検出面から長さ約40㎝、深さ約30㎝の土坑を掘り、その中に土坑の底から数㎝浮かせて土器を埋設する。土器は口縁部を欠くがその他は完形である。掘り方は平面で確認することはできなかったので、土器に合わせたあまり大きくない規模であったと考えられる。これのみ、埋設土器の中の埋土と土坑の埋土の色調が異なっていた。

土器埋設遺構４　６Ｏに位置する。土器埋設遺構１～３とは異なり、数個体の土器が破片で見つかった。少なくとも深鉢２点、浅鉢胴部１点がある。土器埋設遺構ではない可能性があるが、検出状況から土器埋設遺構と判断した。浅鉢を含めて、いずれの土器も煤が付着している。

なお、土器埋設遺構１と３で土壌分析を行った。結果は第６章に掲載している。

⑵　土坑

土坑には上面や内に石を伴うものと素掘りの土坑がある。石を伴うものは配石の有無や土坑の形態によって細別した。土坑は暗褐色土中で検出することができず、その下の黄褐色砂礫層などの地山面まで掘り下げた段階で検出することができた。また、ほとんどの土坑の土層は暗褐色土の１層のみで、調査時に分層できたものはほとんどなかった。土坑は調査区の北側、２Ｅ.３Ｅ.３Ｏ、４Ｅ.４Ｏ、４ＫＡ.４ＫＩの三つのグループに分けることができる。それぞれの土坑の位置や規模は表９を参照していただきたい。

①配石土坑（第33図）

調査区の北側で２基検出した。

配石土坑１は３ＫＩに位置する。長軸をほぼ東西に向けている。底面は西側がわずかに低い。拳大から人頭大の角礫をコ字状に土坑の両長辺と東側の短辺に１列置く。石の大きさは大小あるが、石の長軸を土坑の内側に並べており、平坦な面を内側へ向けている。土坑の底面から数㎝浮いて石を置いていた。土坑の掘り方は隅丸方形である。

配石土坑２は４ＫＩに位置する。長軸を北西－南東方向に向けている。底面は北西側が深い。規模は配石土坑１に比べて小ぶりである。石は長軸に沿って内側に置く。配石土坑１に比べてやや丸みのある石を用いている。配石土坑１同様に石の長軸を土坑の内側に並べており、平坦な面を内側へ向けている。土坑の底面から数㎝浮いて石を置いていた。

これらの配石土坑を検出した地点は後述する中近世の掘立柱建物によって削平されていたため包含層が薄く、元々の深さは不明である。配石土坑から出土した土器は細片であり、実測できたものを第83図13～15に図示した。配石土坑から縄文土器だけが出土したことに加えて、後述する縄文時代の土坑と埋土の色調が同じであり、中近世の掘立柱建物の埋土とは異なっていたことから、配石土坑は縄文時代晩期を中心とする時期に属すると考えられる。

②石を伴う土坑（第34～49図）

土坑の規模は、切り合いのあるものを除くと、ほとんどが１ｍ弱から約1.5ｍにおさまるので、土坑の平面形を重視して以下のように分類した。

ａ・平面形が楕円形または円形のもの（土坑１～25）

ｂ・平面形が隅丸方形または長楕円形のもの（土坑26～30）

ｃ・平面形が不整形のものや断面が二段のもの（土坑31～37）

ｄ・切り合いのあるものなど、ａ～ｃに属さないもの（土坑38～45）

土坑１～25は平面形が楕円形または円形のものである。上端の規模が長軸0.8～1.4m、短軸0.6～1.1mのものが多い。深さは規模とは関係ないようである。

土坑１は東側に自然のものと考えられる大きな石がある。土坑内から出土した石の中には磨石・敲石が３点あった。

土坑２では石が約40cmほど土坑内に落ち込んだ状態で検出された。

土坑４では南西側に、土坑５では南側にテラス状の段がある。

土坑７では土坑の中央部に密集して石が検出された。

土坑９は他の土坑とはやや離れており、礫の多い部分に築かれている。土坑の底の礫とは異なる石が土坑の底に接して検出された。これらの石は当初土坑の検出面か土坑の上にあったものと想像される。

土坑13は土坑９と同様に礫の多い部分に築かれており、底面から数cm浮いて石が検出された。土坑検出面から20～30cmほどの高さから土器が出土した。他の土坑出土の土器は細片が多いのに比べ、土坑13出土の土器は35や36のように器形の分かるものがある。４Ｅ.４Ｏの土坑12～14、16は円形である。

土坑16や土坑18からは細片ではあるが比較的多くの土器が出土した。土坑18の石には石皿が２点あった。

土坑19は直径約70cmの範囲で土坑を囲むように石が検出された。柱状の施設が存在した可能性があるが、土層で確認することはできなかった。

土坑21～25はやや石が少ないものである。土坑23は土坑中央のやや西側から土器が出土した。土坑13同様、検出面から30cm以上も上位で出土した。

土坑26～30は平面形が隅丸方形または長楕円形のものである。

土坑28は一辺が20～30cmある円礫が詰まっていた。石は底面から少し浮いていた。東側に大きな石があり、短辺の規模は不明である。

土坑29は唯一分層のできた土坑である。

土坑31～37は平面形が不整形のものや断面が二段のものである。テラス状の段が顕著なものをここに含めた。土坑33～36は土坑の中央部が最も深くなる。

土坑37は不注意で実測せずに石を取り上げてしまい、石の図面が無いが、調査時には石があったのでここに含めた。調査時にはわからなかったが、切り合いの可能性がある。

土坑38～45は上記の分類に属さないものである。

土坑38の調査時には、まず土器片が大量に出土し、土器を記録して取り上げていくと円礫が検出された。円礫には大きいものがあった。礫は土坑の底から浮いて、土坑の中に詰まるように検出された。土坑の平面形は不整形である。土坑の深さは約20cmであるが、土器の出土した高さから想定すると約40cmである。土器は破片で出土し、器形が分かる状態で出土したものはなかった。土器の取り上げに際しては破片をまとめて取り上げた。接合により65～77の土器を図示したが、取り上げ時のまとまりの中で器形が判断できるものとそうでないものがあった。

土坑39、40、42、43は楕円形の土坑が切り合うものである。土層から切り合いの前後を判断することはできなかった。土坑39、40、43は円形や楕円形の土坑２つが切り合っている。土坑42は３つ以上の土坑が切り合っているように見える。

土坑41は土坑内に多数の石があり、二度石の記録を行った。土坑の中で最も深いものである。

土坑44、45は長楕円形の土坑で規模が大きい。

③土坑（第50図）

土坑46～51は石を伴わない素掘りの穴である。いずれも平面形は楕円形である。

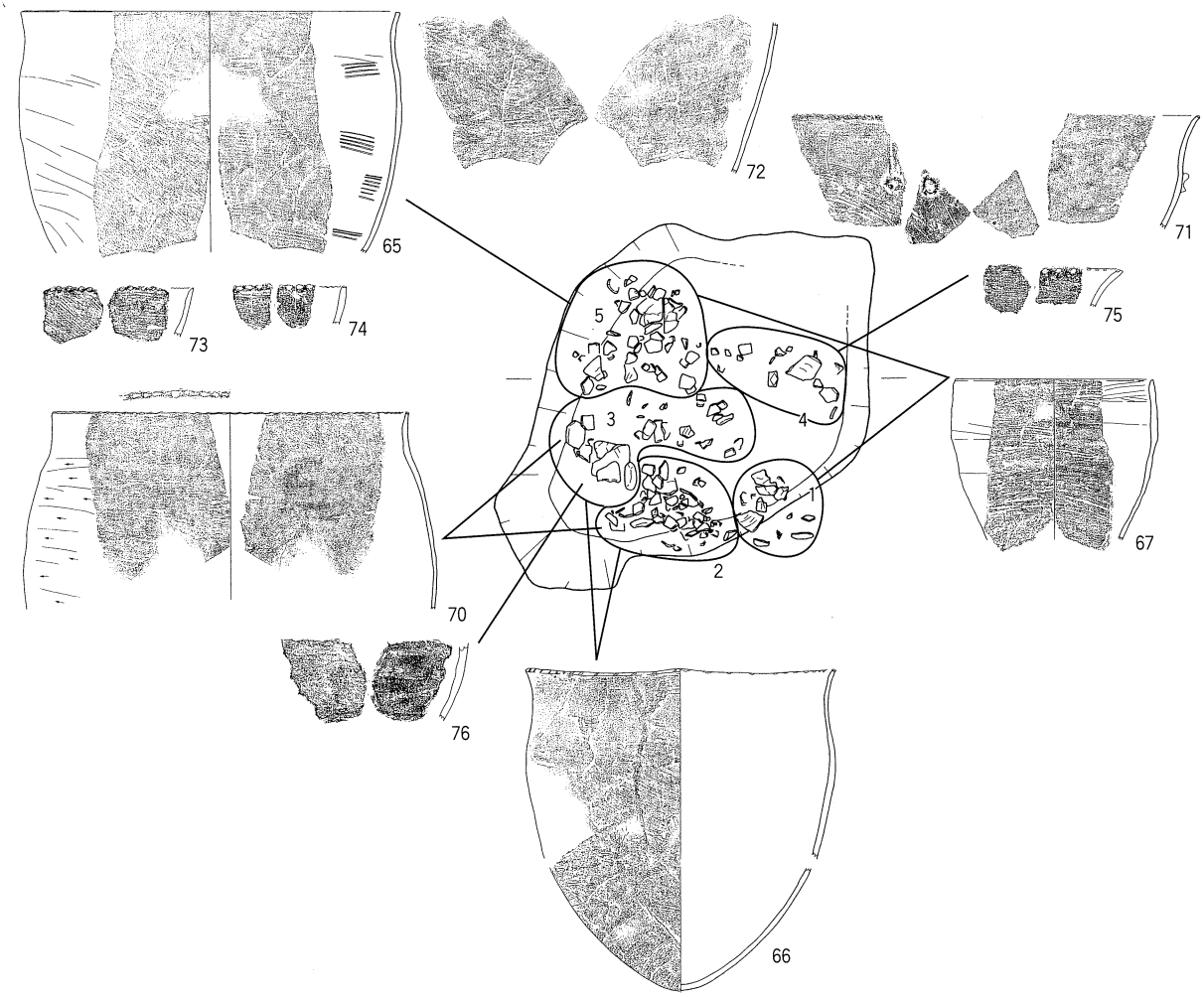
④ピット（第51図）

規模の小さな素掘りの穴を「ピット」として記録した。その中で石のあるものを第51図に示した。Ｐ17は土坑19のように穴の周囲に石が検出された。土層ではわからなかったが、柱状の施設が存在した可能性がある。また、Ｐ８（写真図版31）も同様である。ピットの中から縄文土器が出土したものがあり、破片の大きなものを93～95に記した。

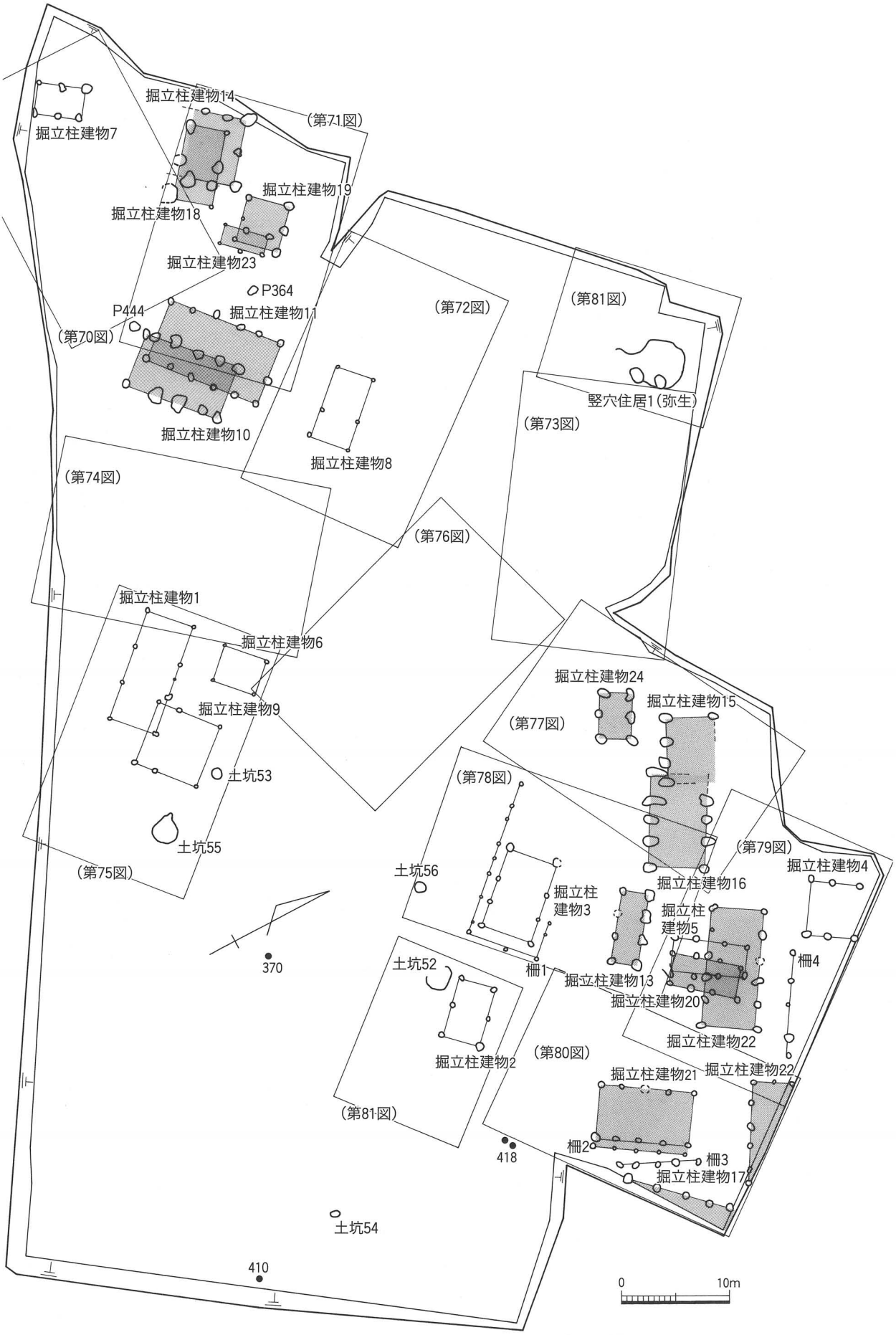
第３節　弥生時代～奈良・平安時代

(1)　竪穴住居１

調査区北西隅の２Ｕ.２Ｅに位置する。包含層が薄い部分に位置していたので、地山まで検出して遺構があることがわかった。そのため土層の記録がない。平面形は円形で、直径は約４ｍ、最大で



第8図　土坑38　土器出土状況図（遺構　S＝1/30：土器　S＝1/6）



※番号は遺物番号に一致、網かけは江戸時代の建物

第9図　家の後Ⅱ遺跡　遺構配置図(2)（弥生時代～江戸時代の遺構・遺物）（S＝1/500）

4.6mである。南側が南西方向に伸びるようである。竪穴住居の中央がわずかにくぼむが、焼土や炭は検出しなかった。周囲にはピットが14基、土坑が２基ある。ピットは小さいものが多く、竪穴の斜面や外側にもある。竪穴住居内にあるＰ４やＰ６は浅く、柱穴には適当でないように考えられる。

竪穴住居内にある土坑は共に楕円形である。中から遺物は出土しなかった。

遺物は床面から浮いて弥生土器338～342が出土したほか、埋土や遺構周辺からも出土した。竪穴住居１の時期はこれらの土器から弥生時代中期中葉（Ⅲ－２様式）と考えられる。

第４節　鎌倉・室町時代

暗褐色土上面で検出した遺構と、黄褐色砂礫層上面で検出した遺構のうち、江戸時代の遺構とは埋土の異なるものを鎌倉・室町時代の遺構と判断した。

⑴　掘立柱建物

掘立柱建物はいずれも現地でピットの間隔などから復元したもので、整理作業中に図上で復元したものはほとんどない。

掘立柱建物１（第53図）　調査区南西側、７U.７E.８Eで検出した。１間×３間である。Ｐ１やＰ２が重複していることやＰ６、Ｐ７に近接してピットがあることから、建て替えがあった可能性がある。Ｐ１から435、Ｐ２から433、434が出土した。後述する掘立柱建物９と重複する。

掘立柱建物２（第53図）　調査区中央やや東より、６KU.７KUで検出した。１間×２間である。後述する掘立柱建物３と軸が一致する。Ｐ４から436が出土した。

掘立柱建物３・柵１（第54図）　調査区中央やや西より、５KI.５KU.６KI.６KUで検出した。１間×３間である。建物の北側を除く三方を囲んで柵１を検出した。建物３の南東側Ｐ３～Ｐ５と柵１のＰ６～Ｐ８は柱穴の間隔が一致する。それ以外の柵１の柱穴は建物の柱穴の位置とは一致しない。柵１Ｐ３から437が出土したほか、図示できなかったが、建物の柱穴から中世の土師器皿の口縁や底部片が出土した。

掘立柱建物４（第55図）　調査区の北側やや西より、４KO.５KOで検出した。１間×２間以上で、桁行きは調査区外へ続く。図示できなかったが、柱穴より中世の土師器坏の口縁部が出土した。

掘立柱建物５（第55図）　調査区の北西、４KU.４KEで検出した。１間×３間である。Ｐ８より438が出土した。

掘立柱建物６（第56図）　調査区南側やや西より、６E.６O.７E.７Oで検出した。１間×１間である。調査時はわからなかったが、図上で復元した。柱穴は他に比べて小さい。図示しなかったが、柱穴から瓷器系陶器の胴部片が出土した。

掘立柱建物７（第56図）　調査区西端、６YOで検出した。１間×２間である。建物の周囲にはピットがあるので、建て替えがあった可能性がある。図示しなかったが、柱穴から中世の土師器片が出土した。

掘立柱建物８（第57図）　調査区中央西側、４I.４U.５I.５Uで検出した。暗褐色土掘削中に柱穴を検出した。１間×２間と想定した。柱穴から遺物は出土しなかったが、掘立柱建物１と建物の軸が合う。

掘立柱建物９（第57図）　調査区南西側、７E.７O.８E.８Oで検出した。１間×２間の正方形

である。

Ｐ２、Ｐ４の中ほどには石が置いてあった。掘立柱建物１と重複し、軸も合う。

掘立柱建物10（第60図）　調査区西側、５Ｉ.６Ａ.６Ｉで検出した。１間×４間である。

掘立柱建物11（第61図）　調査区西側、５Ａ.５Ｉ.６Ａ.６Ｉで検出した。２間×５間である。柱穴には柱根が残っているものがあった。Ｐ14から青花碗439が出土した。掘立柱建物10と重複しているので、掘立柱建物10との前後関係は不明であるが、ともに16世紀末～17世紀前半と考えられる。

江戸時代と考えられる掘立柱建物は８軒、江戸時代の可能性がある掘立柱建物は２軒である（第62～66図）。掘立柱建物15Ｐ1の東側から、施釉陶器の蓋440、小鉢441が、441の上に440が蓋をした状態で出土した。また、この建物と重複する掘立柱建物16Ｐ3の肩部近くから蓋442と小鉢443が、440、441と同じく蓋をした状態で出土した。建物どうしが重複していることと柱穴のそばに小鉢に蓋をした状態で出土したことから、前後関係は不明であるが、きわめて関連の深い建物であったと考えられる。時期は19世紀代と考えられる。また、掘立柱建物21は建物の南東側に柵２がある。掘立柱建物21Ｐ2より古銭626が出土したので、江戸時代の可能性がある。なお、その他の江戸時代の掘立柱建物は遺構図のみを示し、その他の遺構や遺物は図示していない。

時期不明の掘立柱建物は３軒である（第67、68図）。１尺を約30㎝と仮定すると、江戸時代の掘立柱建物の桁間は７尺のものが多いが、掘立柱建物22～24の桁間も７尺であるので、時期不明の掘立柱建物は江戸時代の可能性がある。

なお、今回の調査では合計890のピットを検出した。この中には一定の間隔で並ぶものがあるが、積極的に掘立柱建物として復元できるものはないと判断した。表16に検出したピットの一覧を掲載している。

⑵　土坑（第58・59図）

土坑はいずれも暗褐色土上面で検出した。土坑52は西側が撹乱により不明である。土坑内からは炭が出土したほか、土器449～451が土坑の床面から出土した。

土坑55は最も大きな土坑である。天目茶碗444が土坑の埋土中から出土したほか、445、446が出土した。

土坑53、54、56、57は土器が出土しなかったが、掘立柱建物との位置や埋土から鎌倉・室町時代の遺構と判断した。土坑54内からは鉄滓が出土したほか、土坑の周辺からも鉄滓が出土した。

第５節　遺物

家の後Ⅱ遺跡から出土した土器は縄文時代早期から江戸時代の陶磁器まである。本報告書では土器の分類とグリッドごとの出土点数の算出を中心に行い、実測・掲載した土器は代表的なものに限って行った。

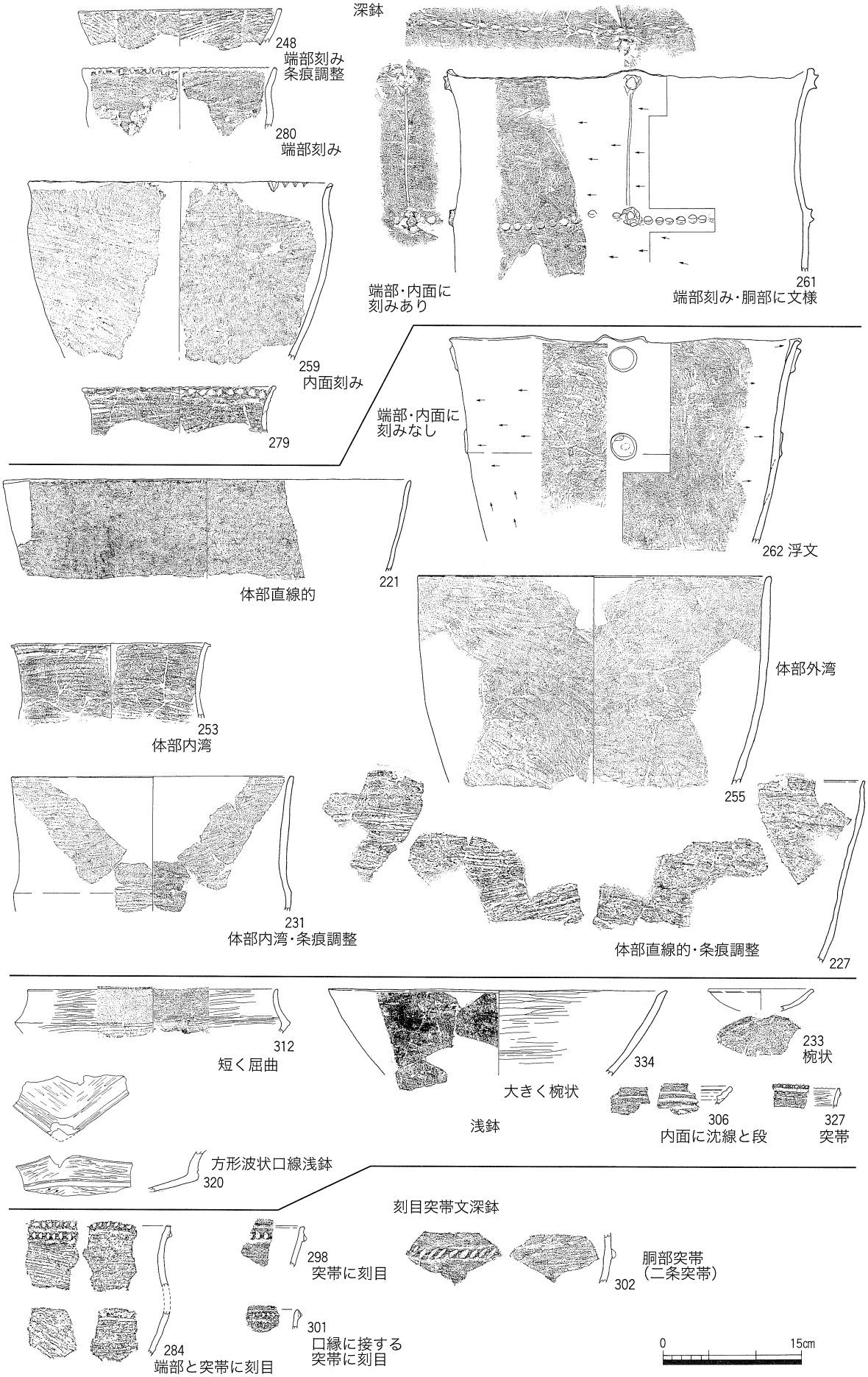
⑴　縄文土器の分類（第10図）

縄文土器は縄文時代後期後葉～晩期の土器が最も多く出土した。破片になっているものが中心なので、器形や文様の特徴によって分類した。

粗製深鉢

Ⅰ　口縁に刻みあり　１・端部に刻み

２・内面に刻み



第10図　縄文土器分類図（S＝1/6）

３・端部に刻み、条痕
４・内面に刻み、条痕
５・端部に刻み、外面に文様
６・その他、不明

Ⅱ　口縁に刻みなし（体部の特徴で分類）
１・直線的
２・外湾
３・内湾、屈曲
４・直線的、条痕
５・外湾、条痕
６・内湾、屈曲、条痕
７・その他、不明

浅鉢　１・胴部が短く屈曲する
２・胴部が大きく椀状に開く
３・胴部が椀状に開く
４・方形波状口縁
５・内外面の文様の有無や端部の特徴で分類

上記以外の縄文土器や弥生時代以降の土器については、既存の編年に従って、型式ごとに分類した。分類した破片数を数えて、表13－１～５に記した。数えた破片は注記ができる破片のみを選択した。

⑵　縄文土器

一次調査出土土器（第31図１～５）

一次調査で出土した土器は表13－1に破片点数を記した。１、２は縄文土器である。３は平安時代末頃の土師器の坏である。４は瓷器系陶器の壺胴部、５は口縁端部に波状文がある擂鉢で、珠洲焼と考えられる。15世紀代と考えられる。

埋設土器（６～12）

６～８は粗製深鉢である。６は土器埋設遺構１の土器である。口縁部が内側へすぼまり、口縁端部は尖り気味に細くなる。突出気味の丸底である。７は土器埋設遺構２の土器である。検出したときは胴部が完存していたが、遺存状態が悪く取り上げると胴部が一周しなくなった。口縁部や底部を欠く。８は土器埋設遺構３の土器である。口縁部を欠く。底部は平底気味の丸底である。９～12は土器埋設遺構４の土器である。９は肩部で屈曲する。９と10は同一個体の可能性がある。埋設土器のうち、９は晩期中葉、６～８は晩期中葉以前の可能性がある。

土坑出土土器（13～95）

土坑やピットから出土した土器である。ほとんどが破片であり、わずかに後期中葉の資料を含むが、晩期が中心である。土坑13出土土器（32～36）には精製の壺（35）や浅鉢（36）を含む。土坑16出土土器（37～45）の42は小形の深鉢形の器形で、刻みのない二条突帯がある。土坑18の50は口縁部内面の円形の刺突が外面へおよんでいる。土坑28の54は同一個体と判断し、平底の底部になると考えた。土坑41の61は擬縄文があるので、権現山式新段階に相当する。土坑から出土した土器の

中で最も古い。なお、後期にさかのぼる土器は土坑全体で４点である。土坑41からは63のように突帯文土器も出土している。

土坑38から多数の土器が出土した（65～77）。図示したものは粗製深鉢がほとんどである。大形のものは頸部で屈曲するものが中心である。口縁端部は刻みのないもの（65）より刻みがあるものが多い（66、69～71）。66は胴部下半に接点がないが同一個体と判断した。わずかに波状口縁である。69は頸部に半截竹管の押引文がある。71は胴部に浮文がある。中形の深鉢（63・73・74）は砲弾型の器形のものが中心である。77は唯一図示できた浅鉢である。

93～95はピットから出土した縄文土器のうち、破片が大きかったものである。ピットから出土した縄文土器は、混入と判断した縄文早期や中期の土器を除くと、後期後葉から晩期の土器が多い。

包含層出土土器（96～337）　包含層から出土した縄文土器は早期から晩期まで存在する。これらの土器は暗褐色土中から他の時代の土器と混在して出土し、層位的な出土を示さなかった。

縄文時代早期の土器（96～109）　厚手で器壁に繊維を含む土器が多い。96は口縁部や器形の分かる個体である。口縁部の下の擬口縁の部分にも縄文を施文している。101は斜め方向の押し引きを行う。103は同一個体と判断した。極めて厚手で、外面の縄文は合わせ撚りの可能性がある。以上の土器は菱根式と考えられる。106は先端の丸い工具で刺突文の間に３～４条の沈線文が山形に展開する。107はやや曲線的に沈線文が展開する。106、107は口縁部に段がないことから、平栫Ⅲ式～塞ノ神Ⅰ式と考えられる。109は丸底で、条痕調整をしていることから早期末～前期初頭と考えられる。早期の土器は磨滅しているものが多い。

縄文時代前期の土器（110～136）　110、111は押引文や沈線文を持ち、西川津式と考えられる。112は二つ一単位の刺突文があり、羽島下層Ⅱ式と考えられる。113～118はＤ字またはＣ字の刺突文を持ち、北白川下層Ⅰ～Ⅱ式と考えられる。113の胎土には繊維を含む。118～121は薄手で、半截竹管による隆帯があるので里木Ⅰ式と考えられる。122、123は押引文を持ち、薄手であることから彦崎Ｚ１式、124～126は押引文を持ち、やや厚手であることや条痕調整である（125）ことから、月崎下層式と考えられる。127～132は刺突文や縄文があること、条痕調整であることなどから縄文前期と考えられる。133、134は山形の文様や短線文をもつことから、曽畑式との関連があると考えられる。135は口縁端部の角を施文している。135～137は大歳山式と考えられる。

縄文時代中期の土器（138～151）　縄文中期の土器は少なく、破片の小さいものが多い。138は口縁端部の内外面と端部に爪形文を施す。鷹島式と考えられる。139～143は船元Ⅰ～Ⅱ式と考えられる。144は半截竹管による連弧文があり、船元Ⅲ式と考えられる。145、146は地文の縄文が交互に深くなっているので、船元Ⅳ式と考えられる。147、148は地文が撚糸文なので、里木Ⅱ式と考えられる。149は条線が施されており、里木Ⅲ式の可能性がある。150は口縁部に丸く粘土を貼り付け、その上に縄文があることから波子式と考えられる。

縄文時代後期の土器（153～229、232～240）　152は中津Ⅲ式～島式と考えられる。153、154は布勢式の深鉢の口縁部、155は胴部に櫛状工具による条線文をもつ。155～157は崎ヶ鼻式の深鉢、158～160は同じく鉢や浅鉢である。161、162は縁帯文土器の時期の浅鉢と考えられる。163は半球状の粘土を貼り付けている。163～165は崎ヶ鼻式の可能性がある。166は口縁部内面に鈍い段がある粗製深鉢で、崎ヶ鼻式～沖丈式に伴う粗製深鉢と考えられる。167は口縁部下の沈線の間を赤彩する。沖丈式と考えられる。169～172は沈線の間に縄文のあるものや結節縄文があるので、

権現山式古段階の深鉢と考えられる。174、175は縄文を持たないので権現山式新段階の深鉢、176は沈線の間に擬縄文をもつ有文鉢である。178～180は突起のある有文の鉢である。181～185は注口土器である。184は胴部内面に調整の爪の跡が残っている。186～192は凹線文のある深鉢で、元住吉山Ⅱ式に伴うと考えられる。191は内面ミガキなので浅鉢の可能性がある。193、194は注口土器である。195は凹線文と扇形の文様を持ち、宮滝式と考えられる。196、197は巻貝条痕の破片、198は巻貝沈線である。199は内外を赤彩している。底部があるが接合しない。200～229、232～240は晩期に下るものを含むと考えられるが時期を特定できなかった。200、201は直線的に口縁部へ伸び、条痕調整である。204～206は口縁部から外湾して胴部へ移る。209、210には太い沈線がある。213～217は深鉢の底部である。213、214は平底、215～217は尖底である。218～229は大形の破片である。218～220、222～226は体部が外湾するもの、221は直線的なものである。218の外面はヘラミガキ状に調整されている。口縁端部は面のあるもの（219、220）がある。227～229は図上で復元した。直線的な体部と考えられる。226、232、235はやや浅めの鉢である。237は壺形の器形になると考えられる。239、240は内面ミガキなので浅鉢と考えた。

縄文時代晩期の土器（230、231、241～336）　最も多く出土したのが縄文晩期の土器である。230、231、241～302は深鉢である。230は口縁部と胴部に稜がある。滋賀里Ⅱ式併行の可能性がある。231は胴部に稜を持ち、条痕調整であることから、滋賀里Ⅲａ式併行と考えられる。241～243は口縁部の下に沈線がある。244は指でつまんだような突起がある。246は屈曲部に太い沈線が施される。253は体部から内湾して口縁部へ至り、口縁端部は面を持って外側へ肥厚する。256はやや浅く、内面はミガキであるが外面には炭化物が付着している。257a、257bは接合しないが同一個体である。外面は口縁部下をナデ調整し、胴部は縦や斜めのケズリである。258の刺突は貝殻で施されている。261、262、277、278は口縁部の下に浮文がある。261と263の口縁端部と胴部には爪による刺突文を施す。262の口縁部にはボタン状の突起があり、わずかに波状口縁である。277、278の浮文の上は棒状工具で刺突する。264～269は晩期と考えられる胴部片である。条痕調整のものを中心に抽出した。275は口縁の内側からの刺突が外側へ貫通するものがある。276は口縁部の内外を刺突する。これらのうち、254は篠原式古段階に、259、260、279、280は同中～新段階に、261～263、276～278は新段階（谷尻式）にそれぞれ併行する時期と考えられる。284～302は刻目突帯文土器である。このうち284～296は突帯文Ⅰ期の特徴がある。284のように典型的なⅠ期の様相を示すものは少なく、口縁に突帯が接するもの（285）や口縁端部の刻目が外側を向くもの（288）、刻目が工具で施されるもの（289）、胴部に刻みのあるもの（296）など多様である。297～300は古市河原田式、301は古海式の特徴を示す。302は二条突帯深鉢の胴部突帯である。刻目は大きい。303は有文の鉢である。胴部にある突起の両横に刺突と沈線がある。滋賀里Ⅱ式併行と考えられる。304～336は浅鉢である。304は体部から直線的に大きく開く口縁部へ至る。幅の広い長方形の突起が四方向にある。内面は丁寧なミガキである。308～313は胴部から内傾して口縁部へ至るものが中心である。胴部に突帯のあるもの（308、309）と稜のあるもの（312、313）がある。314、315、337は胴部と口縁部がほぼ同じ大きさである。316～321は胴部に稜があり、そこから強く外反する。317はわずかに突起を持ち、外面に沈線を施す。320は方形波状口縁浅鉢と考えられる。325～328は突帯がある。326、327は刻みがあるので、突帯文深鉢に伴うものと考えられる。331は壺形の器形である。

(3)　弥生土器・古式土師器

竪穴住居１（338～342）　竪穴住居の埋土中から出土した。図示した土器は甕である。口縁端部は面を持ち強くヨコナデするもの（338）、２条の凹線があるもの（339）、拡張して３条の凹線があるもの（341）がある。Ⅲ－２様式と考えられる。

Ｐ601（343、344）　弥生土器が多く出土し、２点を図示した。343は頸部の突帯の上に密な刻目があり、口縁部にある２条の凹線の上にも刻みを入れる。

弥生時代前期の土器（345～359）　345～350は壺である。349、350は10条以上のヘラ描沈線がある。壺はⅠ－３～Ⅰ－４様式が中心である。351～359は甕である。351は、底部の端に桟のような痕がある。352、355はヘラ描沈線の下に三角形の刺突文がある。353、358、359は無文であるが胎土の特徴から前期と判断した。

弥生時代中期の土器（360～427）　櫛描文および半截竹管の文様を持つものを中期前葉とした。360～368は中期前葉の壺である。この遺跡で特徴的なのは櫛描による直線文や波状文があるもの（361、363～365）、円形文（367）の他に、半截竹管による文様が顕著に見られることである。文様には直線文の他に押引文（360）、刺突文（362）、円形文（366）がある。369～391は中期前葉の甕である。半截竹管による文様は甕においても顕著である。単独の文様では、半截竹管による直線文を多数持つもの（369）や間隔をおいて二段にあるもの（370）がある。他の文様と組み合うものは、直線文と押引文（371）や刺突文のあるもの（373～375）、羽状文（379）、山形文と半截竹管を合わせた円形文（380）がある。372は直線文の下に半円形の文様がある。刺突文も多様であり、逆U字（371、372、374、377）、逆コ字（373）、米粒形（375）などがある。376は上位に三角形の刺突文があり、その下に直線文がある。378のように櫛描文のあるものもある。382～384は胴部に刺突文のみあるもので、前述の甕に後出すると考えられる。385～391は胴部が無文である。逆Ｌ字口縁（387）や口縁端部がＴ字になるもの（388）がある。391は全体に厚手である。

393～402は中期中葉から後葉の壺である。393～396は中期中葉（Ⅲ－２様式）の広口壺である。394は頸部に６条の凹線文がある。396は指で突帯の上を押している。398はⅣ－１様式の長頸の壺の胴部である。399～402は中期中葉の無頸壺である。401は波状文と刺突文がある。404～417は中期中葉から後葉の甕である。404、405は大形の甕である。410、411は胴部に刺突がある。特に410は口縁部が丸いのでⅢ－１様式と考えられる。406、407は口縁端部の中央部が少し凹み、端部の拡張がわずかである。408、409は口縁端部を拡張し、２～３条の凹線文がある。412～414は頸部圧痕突帯のある甕である。413は工具で刻みを付けてから、さらに爪で斜めに刻みを付けている。415は斜行する刻みの上に沈線を３条施す。刻みの原体はヘラではなく、木口のようである。417は色調の異なる破片が接合する。焼成時破損土器の可能性がある。418～420は高杯である。418は口縁部端面を強くヨコナデし、４個一単位の円形浮文がある。体部の３条の凹線文は間隔をおいて、線の幅が広い。脚柱部を欠く。420は鉢の可能性もある。突帯の上に小さな刻みを入れる。422は幅の広い６条の凹線がある。423～426は高杯の脚部である。423、424の脚端部は拡張をしない。425は脚柱部にある突帯の上下を強くヨコナデし、凹線文風に仕上げる。418、419、425はⅢ－２様式、426はⅣ様式と考えられる。427は丸底の底部であるが、ていねいなナデで調整されており、土製品の破片の可能性がある。

428～430は弥生中期末～後期の土器である。前期や中期の土器と比べてわずかしか出土していな

い。428は後期の甕の胴部である。ていねいなナデ調整で、幅の広い櫛描波状文がある。429は内面の頸部までヘラケズリされている。口縁端部を上方へ拡張し、２条の凹線文がある。口縁端部の形態から弥生中期末と考えられる。430は肩部に貝による羽状文がある。

431、432は古式土師器である。弥生後期同様、出土点数は少ない。431は口縁部を欠く。緩やかな波状文が肩部にある。432は緩やかな波状文の下に貝による密な刺突文がある。431よりも古相を示す可能性がある。

⑷　遺構出土遺物

433～451は掘立柱建物や土坑から出土した古代・中世の遺物である。

掘立柱建物１（433～435、448）　柱穴から出土した遺物である。433は中世の土師器の皿の底部、434は須恵器胴部、435は備前焼の甕胴部、448は砥石で四面とも使用されている。傷が多く付いている面がある。

掘立柱建物２（436）　Ｐ４から出土した中世の土師器の坏である。直線的な体部である。

柵１（437）　Ｐ３から出土した中世の土師器の皿である。

掘立柱建物５（438）　Ｐ８から出土した中世の土師器の坏底部である。

掘立柱建物11（439）　Ｐ14から出土した青花の碗である。高台の内側は無釉である。漳州窯と考えられる。

掘立柱建物15（440・441）　掘立柱建物15Ｐ1の東側から蓋をしたかたちで出土した。蓋の外面、壺の胴部下半と口縁部は無釉である。441の底部はヘラケズリである。

掘立柱建物16（442・443）　掘立柱建物16Ｐ3の西側に接して出土した。出土状況は掘立柱建物15の例と同様である。無釉の範囲は440、441と同様である。443は胴部に重ね焼きのずれた痕が付いている。底部は441と異なり上げ底である。

土坑52（449～451）　449は備前焼の壺である。450は土師器の擂鉢である。擂り目はヘラ描で１本ずつ描いている。451は須恵器の壺胴部である。15世紀代と考えられる。

土坑55（444～446）　444は天目茶碗である。高台脇が広くなっている。445は備前焼の擂鉢である。内面はよく使い込まれて平滑になり、擂り目がわずかに残る。446は瓷器系陶器の壺である。444から16世紀代と考えられる。

Ｐ481（447）　須恵器の壺口縁である。口縁内面に自然釉がかかっている。

⑸　土師器・須恵器

452～457は土師器である。452、453は甕である。452は胴部が張る。454、455は甑である。454は内面をヨコヘラミガキで調整している。455は板ナデ状の調整である。456は赤塗土師器の椀である。磨滅が著しい。457は外面手持ちヘラケズリ、底部は回転糸切りである。458～464は須恵器である。458は横瓶である。側面を接合する際の痕が内面に明瞭に残る。459～463は坏である。462は体部が直線的である。464は大甕である。底部に長方形の焼き台が付着している。内面は２種類の当て具痕がある。465～468は中世須恵器の甕である。465～467は焼成が硬質、468は軟質である。469～475は中世土師器である。469～472は坏である。遺構出土土器を含めて、坏は体部が直線的なものが多い。473、474は皿である。473は内面が黒ずんでおり、灯明皿として使用されたと思われる。475は底部がナデである。

(6)　陶磁器、瓷器系陶器

476は青白磁合子である。13世紀代と考えられる。477は美濃の灰釉である。高台付近は無釉である。16世紀代と考えられる。478～480は擂鉢である。478、479は土師質である。480は備前焼の擂鉢である。備前Ⅳ期と考えられる。481、482は備前焼の片口子壺である。482は口縁部が完存している。16世紀代と思われる。483は瓷器系陶器である。内面の当て具痕をナデ消す。

(7)　石器

家の後Ⅱ遺跡から出土した石器は全部で1507点であった。器種別の内訳は石鏃54点、尖頭器２点、石錐９点、スクレイパー類20点、加工痕のある剥片（以下ＲＦ）59点、使用痕のある剥片（以下ＵＦ）24点、楔形石器36点、石核８点、板状剥片２点、打製石斧２点、磨製石斧13点、石錘325点、磨石・敲石類36点、凹石８点、石皿20点、独鈷石状石器１点、石棒１点、不明石製品２点、砥石４点、剥片類881点である。以下、出土石器の概要を記す。

１．遺構出土の石器（第114図484～496）

土坑やピットなどの遺構から出土した石器は遺構掘削中に出土したので、出土位置を記録することができなかった。そのため混入の可能性があるが、包含層出土の石器と分けて記述する。484、485、490、494、495は石鏃である。490は実測図裏面右側縁が折断されている。494は風化が著しく、剥離の観察が困難であった。489は尖頭器である。横長剥片を素材としており、剥片の端部に集中して加工が見られる。486、491、492は石錐である。491は楔形石器の削片を素材にしており、実測図正面左上端部に折断が見られる。また486は実測図裏面左側縁を、492は実測図正面右側縁を折断している。487はＲＦである。下端部に刃部を作り出した後、左側縁と右側縁を折断している。488は楔形石器である。上下両端につぶれが見られ、実測図中央に截断面がある。493は石核である。薄い板状の剥片を素材とし、石理にそって求心的に剥片を剥離している。実測図上面、左面、下面にそれぞれ折断が見られ、折断部を打面として剥片剥離を行なっている。496は打欠石錘である。一箇所のみを打ち欠いており未製品の可能性がある。

２．包含層出土の石器

以下からは、包含層出土の石器を器種別に記す。

石鏃（第115図497～514、第116図515～528）　497～509、512～514、516、520、521、528は側縁部のみを押圧剥離で調整しており、素材面を大きく残す。これらの多くは横長剥片を素材としており、横長剥片を端部の一辺を先端部に設定し、もう一辺を折断または押圧剥離で加工している。501は正三角形を呈するもので、側縁部から交互に押圧剥離を加えている。506は実測図正面の右端部に折断面が残ることから、未製品の可能性がある。514は大型の石鏃で先端部が大きく欠損している。未製品の可能性もある。520は白色の安山岩で、比較的やわらかい石材を使用している。そのため押圧剥離が平坦に奥まで入っており、全体的に丁寧な仕上がりになっている。528は風化が著しく、剥離の様相は不明であった。510、511、515、517～519、522～527はほぼ全面を押圧剥離によって加工している。515は周縁部から平坦な押圧剥離で丁寧に加工している。基部付近が一部欠損している。522は二等辺三角形を呈する石鏃で平坦な押圧剥離を連続的に施している。

尖頭器（第116図529）　529は尖頭器と考えられ、先端部と基部が大きく欠損している。両側縁から直接打撃、押圧剥離によって加工している。

石錐（第117図530～534）　全体的に素材面を多く残し、素材剥片は縦長剥片を多用する傾向が

ある。また折断が多用されるのも特徴の１つである。532は礫打面を持つ縦長剥片を素材としており、平坦な押圧剥離によって丁寧に加工している。素材剥片のポジ面と二次調整の押圧剥離の風化の度合いが異なっている。533は縦長剥片の打点部を折断し、側縁部から端部にかけて押圧剥離で加工し、錐部を作り出している。

スクレイパー類（第117図535～539、第118図540～542）　535は楔形石器の転用品、もしくはスクレイピングの機能も兼ね備えた楔形石器である。上下両端につぶれが見られ、両極剥離痕を残す。刃部とつぶれとの切り合い関係ははっきりしなかった。536は横長剥片の打点部に加工を施し、刃部として使用している。537もスクレイパー兼楔形石器である。実測図正面右側縁に平坦な押圧剥離で刃部を作り出している。上下両端のつぶれは刃部の剥離を切っているものの、実測図正面の両極剥離痕は刃部の押圧剥離によって切られているため、両極剥離→刃部形成→両極剥離の順番で作業が行なわれている。538は大型の剥片を使用したスクレイパーで、両側縁を折断している。539は剥片のポジ面に押圧剥離で加工し、刃部を作り出している。540、541は大型のスクレイパーである。横長剥片の端部に押圧剥離で刃部を作り出している。541は実測図正面の左端部付近に折断面が残っており、その折断面より押圧剥離を行なっているが、途中でやめてしまっている。542は黒曜石製のラウンドスクレイパーで押圧剥離による両面調整で刃部を作り出している。

ＲＦ（第118図543、544）　543、544はともに実測図正面下端部に二次加工を施しており、その後両側縁を折断している。

ＵＦ（第118図545～547）　545は実測図裏面左側縁に、547は横長剥片の端部にそれぞれ微細剥離痕が見られる。546は黄橙色の瑪瑙製である。石刃状の縦長剥片を素材としており、両側縁に微細剥離痕が見られる。端部を折断している。旧石器時代の石刃に酷似しており、概期の可能性が高いと思われる。

楔形石器（第119図548～554、第120図555～560）　上下両端につぶれを持ち、両極剥離痕が見られるものを楔形石器とした。ほとんどのものが長軸上につぶれを持ち、縦長の両極剥離痕が残る。550は上下両端につぶれを持つが、上端部のつぶれのほうがより顕著である。552は正方形状を呈し、両極剥離痕が顕著に見られる。実測図上端には単剥離面打面があり、打面の縁辺部から加撃している。実測図下端部には顕著なつぶれが見られる。554は大型の楔形石器で、剥片を素材としている。555は上下両端につぶれを持つが、実測図右面がポジ面であり、つぶれが及んでいないことから楔形石器の削片の可能性がある。556は正方形状を呈する資料である。上下両端に加え左右にもつぶれを持ち、それぞれに対応する両極剥離痕が見られる。剥離の切り合い関係から、まず左右両端を打面・作業面として使用した後、90度転移し上下両端を打面・作業面として使用している。実測図上面に単剥離面打面を持ち、打面の縁辺から加撃している。557は方柱状の資料で、上下両端につぶれを持ち、縦長の両極剥離痕が観察される。実測図中央に截断面が見られる。558は特に上端部に顕著なつぶれを持つ。両側縁に截断面があり、おそらく石理に直行する形で截断されている。559は下端部に顕著なつぶれがあるが、上端部のつぶれは折れて無くなっている。また実測図中央は截断面である。560は方形の資料で、実測図上面に単剥離面打面を持つ。つぶれと両極剥離痕が見られ、また実測図右面には礫面が残る。実測図中央には截断面がある。

石核、板状剥片（第121図561～563）　561は多方向剥離石核で、実測図上面と右面は折断面である。剥離の切り合い関係から、実測図裏面・正面→実測図左面の順番で、剥離を行っている。一部

に礫面が残る。562は安山岩類製の石核で、多方向剥離石核である。多様な形状の剥片を、頻繁に打面転移しながら剥離している。563は板状の剥片で、安山岩類製の大型スクレイパー（540、541）と形態、大きさが酷似していることから、これらの素材となったと考えられる。扁平な板状を呈し、背面の剥離方向は多方向である。

打製石斧（第122図570）　570は打製石斧である。側縁部に直接打撃によって抉りを作り出している。刃部付近には細かな剥離痕と使用によるものと考えられる線状痕がある。

磨製石斧（第122図564～569、571、572、第123図573～575）　564～569、571～575は磨製石斧である。ほとんどが敲打痕、剥離痕を残しており、刃部付近にのみ研磨面が見られる。また上端部を欠損、またはつぶれているものが多く、楔として転用された可能性がある。

石錘（第123図576～580）　576、578、579は打欠石錘で、577は切目石錘である。580は打欠か切目か判断がつかないものであった。両者とも付近の川原石を使用しており、長軸上に打欠または切目を施している。

磨石、敲石類（第124図581～585）　581～584は磨石で、いずれも礫の扁平な面に磨面が見られる。585は敲石と考えられ、礫の長軸上の両端部に顕著な敲打痕が残る。

凹石（第124図586～589）　586～589は凹石または敲石で、586のように細長く線状のくぼみを持つものや、589のように円形のくぼみを持つものなどがある。588は側面に敲打痕が見られ、敲石としても使用されている。

石皿（第124図590）　590は大型の川原石の扁平な面を使用した石皿である。

その他（第124図591～593）　591は独鈷石状石器である。礫の短軸に、一周するように切れ込みをいれている。592は断面が円形なので石棒の破片と考えられる。周辺部を研磨面が見られる。磨製石斧と同一の石材であるため、磨製石斧の素材の可能性がある。593は砥石である。実測図正面側に磨面が残る。594は不明石製品である。円柱状の軽石の周縁部を研磨している。

⑻　土製品

円盤状の土製品のうち、孔のあるものを「紡錘車」、孔のないものを「土製円盤」とした。595は土製円盤である。一端は打ち欠いたようにくぼんでいる。時代は不明である。596、597はケズリやナデ調整が見えるので、縄文時代のものと考えられる。598は焼けた粘土塊である。繊維が付着していた痕が残る。Ｐ851からも焼けた粘土塊が出土した（写真図版79）。599は土器の剥離痕のようにも見える。胎土から縄文時代に属する可能性がある。図化しなかったものには土製円盤３点、紡錘車４点がある。

⑼　石製品

600、601と石臼の破片の計３点が出土した。600は八区画ではないかと考えられる。601は約３㎝のふくみがある。間隔をおいて溝があり、六区画の可能性がある。

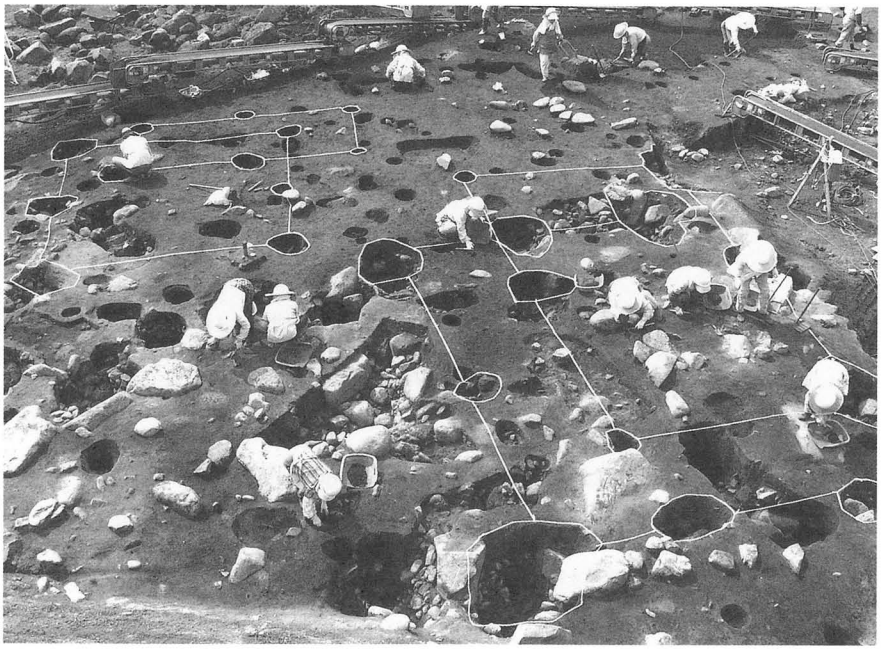
⑽　鉄製品

602、603は火打ち金である。604は鉄製紡錘車である。605はＰ117から出土した鉄製品で、かすがいと考えられる。606、607は刀子の破片である。606は接合しないが、同一であると判断した。掘立柱建物13Ｐ2から出土した。608は雁又鏃である。609は遺存状態が悪いが、膨らみを持つ部分があり、鉄鍋と考えられる。Ｐ569から出土した。610～616は鉄釘である。610～613は断面が正方形に近い。614～616は断面が長方形である。610はＰ141から出土した。615、616は釘の頭に木目が

残っている。

⑾　古銭

617～628は古銭である。617は熙寧元寶である。618はP767から出土した。磨滅が著しい。619、620は古寛永通寶である。621～624は新寛永通寶である。624は周囲を削ったようである。625～627は不明の古銭である。



調査風景

第５章　宮ノ脇遺跡から出土した炭化材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、宮ノ脇遺跡の発掘調査で検出された中世後半の可能性がある不明遺構（１区ＳＸ01）と呼ばれている遺構から出土した炭化材について、樹種同定を実施する。不明遺構は、斜面を掘りくぼめて、そこに材を横方向に並べたもので、炭化材や焼土の出土状況から火災にあったことが考えられている。

１．試料

試料は、不明遺構（ＳＸ01）の上層および下層から出土した炭化材13点（試料番号１－13）である。このうち、試料番号13は、ほとんどが土壌で、表面に保存状態の悪い炭化材が貼りついた状態であった。

２．分析方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

３．結果

樹種同定結果を表１に示す。試料番号13は道管が認められることから広葉樹材であるが、保存状態が悪く種類の同定には至らなかった。その他の炭化材は、広葉樹３種類（ノグルミ・コナラ属子コナラ亜属コナラ節・トネリコ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・ノグルミ（*Ptatycarya strobilacea Sieb. et Zucc.*）　クルミ科ノグルミ属

環孔材で、孔圏部は３－４列、孔圏外で急激に管径を減じた後、多数が複合して斜方向～火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、単列15細胞高前後のものと、３－４細胞幅、20－30細胞高前後のものとがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus*）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１－２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１－20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・トネリコ属（*Fraxinus*）
　モクセイ科

環孔材で、孔圏部は２－３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または２個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は

表1　宮ノ脇遺跡の樹種同定結果

番号	出土位置	層位	取上番号	樹　　種
1	1区SX01	上層	1	ノグルミ
2	1区SX01	上層	2	ノグルミ
3	1区SX01	上層	3	コナラ属コナラ亜属コナラ節
4	1区SX01	上層	4	コナラ属コナラ亜属コナラ節
5	1区SX01	上層	5	ノグルミ
6	1区SX01	上層	7	ノグルミ
7	1区SX01	上層	8	コナラ属コナラ亜属コナラ節
8	1区SX01	上層	9	コナラ属コナラ亜属コナラ節
9	1区SX01	上層	11	コナラ属コナラ亜属コナラ節
10	1区SX01	下層	12	トネリコ属
11	1区SX01	下層	13	ノグルミ
12	1区SX01	下層	14	ノグルミ
13	1区SX01	下層	15	広葉樹

交互状に配列する。放射組織は同性、１－３細胞幅、１－40細胞高。

４．考察

不明遺構（１区ＳＸ01）から出土した炭化材は、上層と下層に分かれる。上層の炭化材（試料番号１－９）は、炭化材の軸方向が南北方向を向いており、東西方向に並んでいるが、中央部付近には軸方向が東西方向を向いているものもある。部材の遺存状態は、遺構の東側では良好で大型であり、西側では細片が散在する。炭化材の樹種は、ノグルミ４点、コナラ節５点が同定された。

一方、下層の炭化材（試料番号10－13）は、全て軸方向が東西方向を向いた状態である。炭化材と共に焼土も認められることから、火災など何らかの理由で火を受けたことが推定されるが、その要因については不明とされている。炭化材の樹種は、トネリコ属１点、ノグルミ属２点、種類不明の広葉樹材１が同定された。

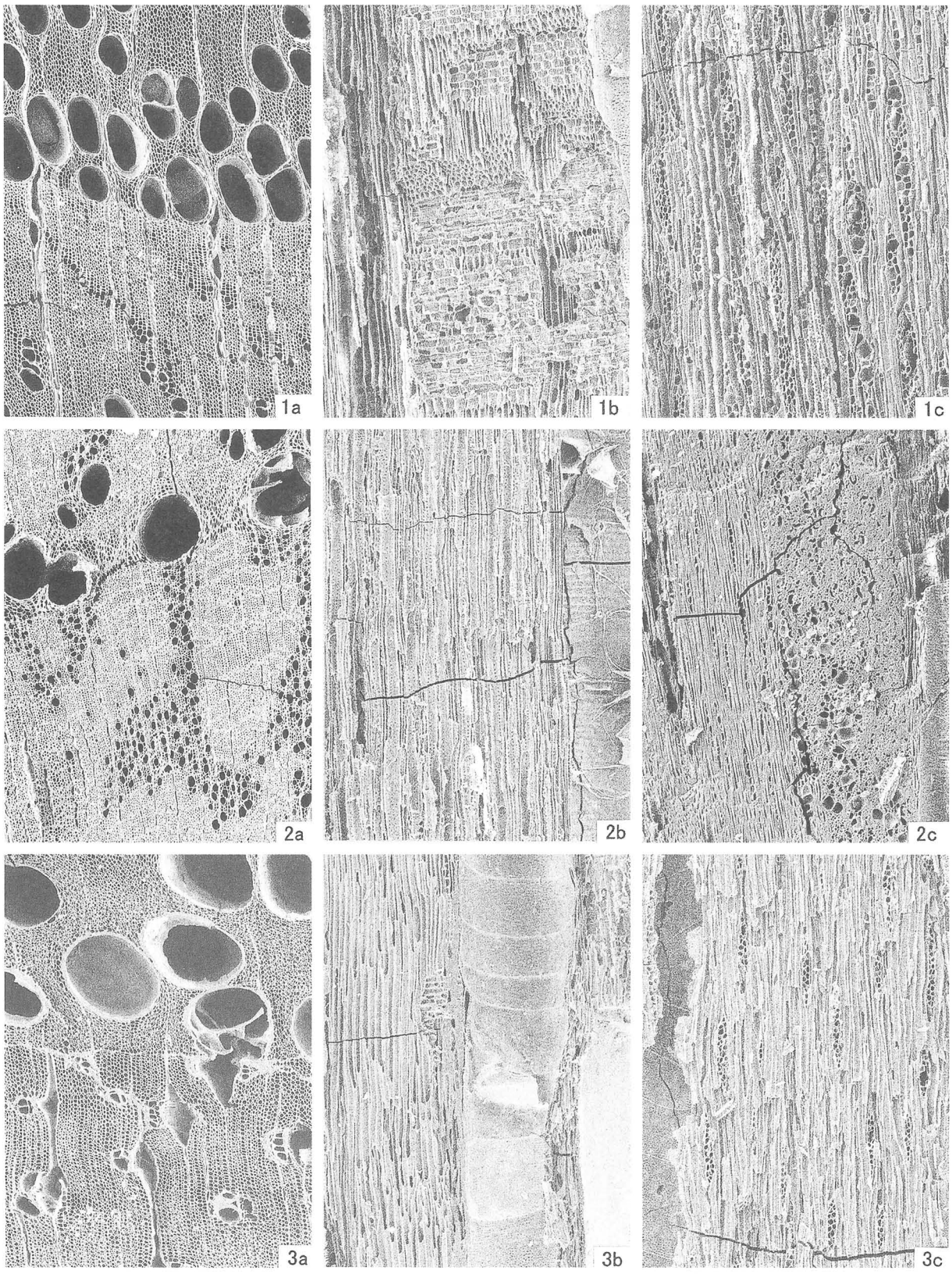
以上、不明遺構の炭化材の樹種は、種類不明１点を除く12点が、ノグルミ６点、コナラ節５点、トネリコ属１点であった。ノグルミは上層・下層から出土しているが、コナラ節は全て上層であった。トネリコ属１点は下層からの出土であった。これら炭化材の種類は、いずれも比較的重硬で強度が高い材質を有する点で共通点がある。そのため、強度の高い木材が選択されている可能性があるが、現時点では詳細は不明である。

本遺跡周辺の現存植生はアベマキ－コナラ群集やスギ・ヒノキの植林地等であり、今回確認された種類はアベマキ－コナラ群集を構成要素として確認できる（宮脇,1983）。不明遺構が構築された当時の植生については不明であるが、現在の分布などから遺跡周辺に生育していた樹木を利用した可能性がある。今後、本遺跡周辺の中世頃の古植生に関する資料の蓄積により、今回の不明遺構における木材の利用状況について、より詳細な検討が行われるものと考えられる。また、不明遺構ＳＸ01には、今回同定した以外にも炭化材が多数出土していることから、これらの炭化材の樹種同定を行うことも、本遺構における木材利用のあり方を考える上で重要である。

【引用文献】

宮脇　昭（編）,1983,日本植生誌　中国.至文堂,540p

図版1　宮ノ脇遺跡の炭化材



1. ノグルミ（試料番号５）
2. コナラ属コナラ亜属コナラ節（試料番号９）
3. トネリコ属（試料番号10）
   a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c

宮ノ脇遺跡の炭化材ネガ説明

撮影番号	ネガ番号	種　類　名	試料番号	断面	図版・写真番号
0179	16	トネリコ属	宮10	木口	1－3ａ
0180	17	トネリコ属	宮10	柾目	1－3ｂ
0181	18	トネリコ属	宮10	板目	1－3ｃ
0182	19	ノグルミ	宮5	木口	1－1ａ
0183	20	ノグルミ	宮5	柾目	1－1ｂ
0184	21	ノグルミ	宮5	板目	1－1ｃ
0185	22	ノグルミ	宮1	木口	未使用
0186	23	ノグルミ	宮1	柾目	未使用
0187	24	ノグルミ	宮1	板目	未使用
0188	25	ノグルミ	宮11	木口	未使用
0189	26	ノグルミ	宮11	柾目	未使用
0190	27	ノグルミ	宮11	板目	未使用
0191	28	ノグルミ	宮6	木口	未使用
0192	29	ノグルミ	宮6	柾目	未使用
0193	30	ノグルミ	宮6	板目	未使用
0194	31	コナラ属コナラ亜属コナラ節	宮9	木口	1－2ａ
0195	32	コナラ属コナラ亜属コナラ節	宮9	柾目	1－2ｂ
0196	33	コナラ属コナラ亜属コナラ節	宮9	板目	1－2ｃ

第６章　土壌分析

島根大学生物資源科学部土壌圏生態工学研究室
若月利之、佐藤邦明

1. 目的

島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより依頼された土壌標本（試料№１～５）について、土器埋設遺構が遺体埋設に使用されたかの有無を土壌の理化学分析により調べること。

2. 方法

土色を観察しその後、一般理化学性分析を行なった。炭素（Ｃ）・窒素（Ｎ）はヤナコ　CN CORDERで測定した。その他の無機元素は土壌を0.1規定塩酸溶液（土壌：溶液＝５ｇ：30㎖）で２時間抽出を３回反復後、100㎖として、抽出液を島津製のＩＣＰ2000（高周波プラズマ発光分析装置）及びＡＡ－680（原子吸光分光光度計）で分析した。

３．結果と考察

サンプルの種類、分析結果、土色を表１～３に示した。肉眼的観察では黒ぼく土的性質が強かった。各元素の濃度は105℃乾燥土当たりで計算してある。

斐伊中山古墳群－西支群－（1994年３月）の調査では、屍体のあったと思われる土壌面から多量の可溶性リン（Ｐ）が検出された。

また、雲南市平田遺跡や松江市上野遺跡の調査においては、リン濃度が高く屍体が埋葬されていると考えられた土壌では、交換性カリウムの濃度が低かったのに対し、出土した壷内の土壌において、リン濃度が低く交換性カリウムの濃度が高い、という分析結果が出た。よって、リン濃度が高いのは埋葬によるもの、リン濃度が低くカリウムやナトリウム濃度が比較的高いのはその他の目的、例えば食品の保存によるものではないかと推測された。

今回の結果においては、全５サンプルで比較的高濃度の溶解性Ｐが検出された。また交換性カリウムの量も低く、高い交換性カルシウム濃度が検出された。土器埋設遺構１の土器内土壌は土器外の№５に比べ高いＰ濃度が検出され、この土器は屍体埋設用である可能性があると考えられた。一方、土器埋設遺構３の土壌は土器外土壌である№５と同程度のＰ濃度であり、№５を基質として考えると土器埋設遺構３は屍体埋設用である可能性は低いと考えられる。

表1　土器埋設遺構土壌サンプル

No.		
1	土器埋設遺構3	土器内上
2	〃	土器内下
3	土器埋設遺構1	土器内上
4	〃	土器内下
5	〃	土器外

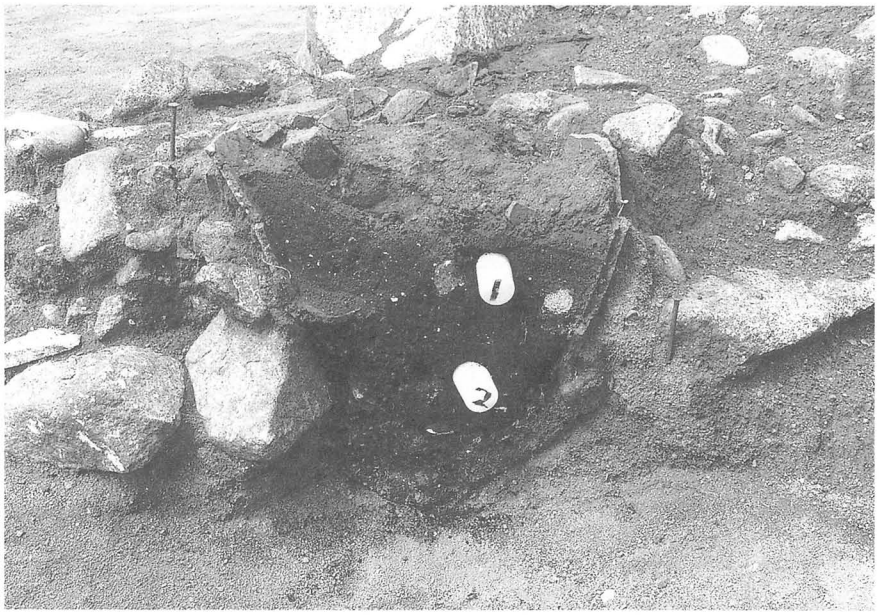
表3　標本土壌土色

No.	乾　土		湿　土	
1	黒	10YR2/1	黒	N1.5/0
2	黒	10YR2/1	黒	N1.5/0
3	黒褐	2.5Y3/1	黒	2.5GY2/1
4	オリーブ黒	5Y2/2	黒	N2/0
5	オリーブ黒	5Y2/2	黒	N2/0

表2　土器埋設遺構土壌分析結果（水分含量、Ｔ－Ｃ・Ｔ－Ｎ、0.1規定塩酸抽出法）

IENOATOⅡ ANCENT SAMPLE-LABORATORY ANALYTICAL RESULTS-SET

No.	水分含量	ＴＣ	ＴＮ	C/N	Ｃａ	Ｍｇ	Ｋ	Ｎａ	Ｓ	Ｍｎ	Ｍｏ	Ｚｎ	Ｃｕ	Ｐ
	(%)	(%)	(%)	ratio	(cmol（+）/kg)				(mg/kg)					
1	18.8	5.28	0.29	17.99	8.35	0.80	0.09	0.11	20.3	15.6	21.5	3.0	0.3	148.3
2	18.3	5.48	0.30	18.08	7.75	0.75	0.09	0.10	19.3	15.0	21.0	2.8	0.3	135.2
3	25.9	4.58	0.26	17.68	15.73	2.09	0.18	0.14	28.5	30.8	19.4	3.2	0.5	331.8
4	26.6	5.09	0.28	18.32	16.00	2.21	0.14	0.13	27.5	26.3	19.3	3.0	0.5	253.5
5	26.0	4.57	0.27	17.15	13.23	1.59	0.16	0.13	24.5	18.9	17.8	2.9	0.4	157.9



土器埋設遺構3
試料採取状況

土器埋設遺構1
試料採取状況

第7章　総　　括

１．各時期の状況について

縄文時代

Ⅰ・遺構　土器埋設遺構４基、配石土坑２基、石を伴う土坑45基、土坑６基、石を伴うピットなどを検出した。土坑は調査区の北側中央部分に多く確認され、その中でも特に２Ｅ・３Ｅ・３Ｏ付近、４Ｅ・４Ｏ付近、４ＫＡ・４ＫＩ付近に集中する。土坑の平面形は楕円形や不整形が多く、切り合いのあるものもみられる。土坑の長軸方向にまとまりはみられない。規模の大きな土坑と小さな土坑は混在しており、特に傾向は見られないようである。土坑には、石が土坑の中に落ち込んだような状態のものがあるほか、土坑19やＰ17のように環状に石が検出され、柱があった可能性のあるものがある。土坑の時期は晩期を中心とした時期と考えられる。配石土坑は土坑群の中に位置しており、配石以外に他の土坑との差は認めにくい。土器埋設遺構はこれらの土坑とは位置を若干異にしており、土坑のある場所の外縁に相当するところに位置している。

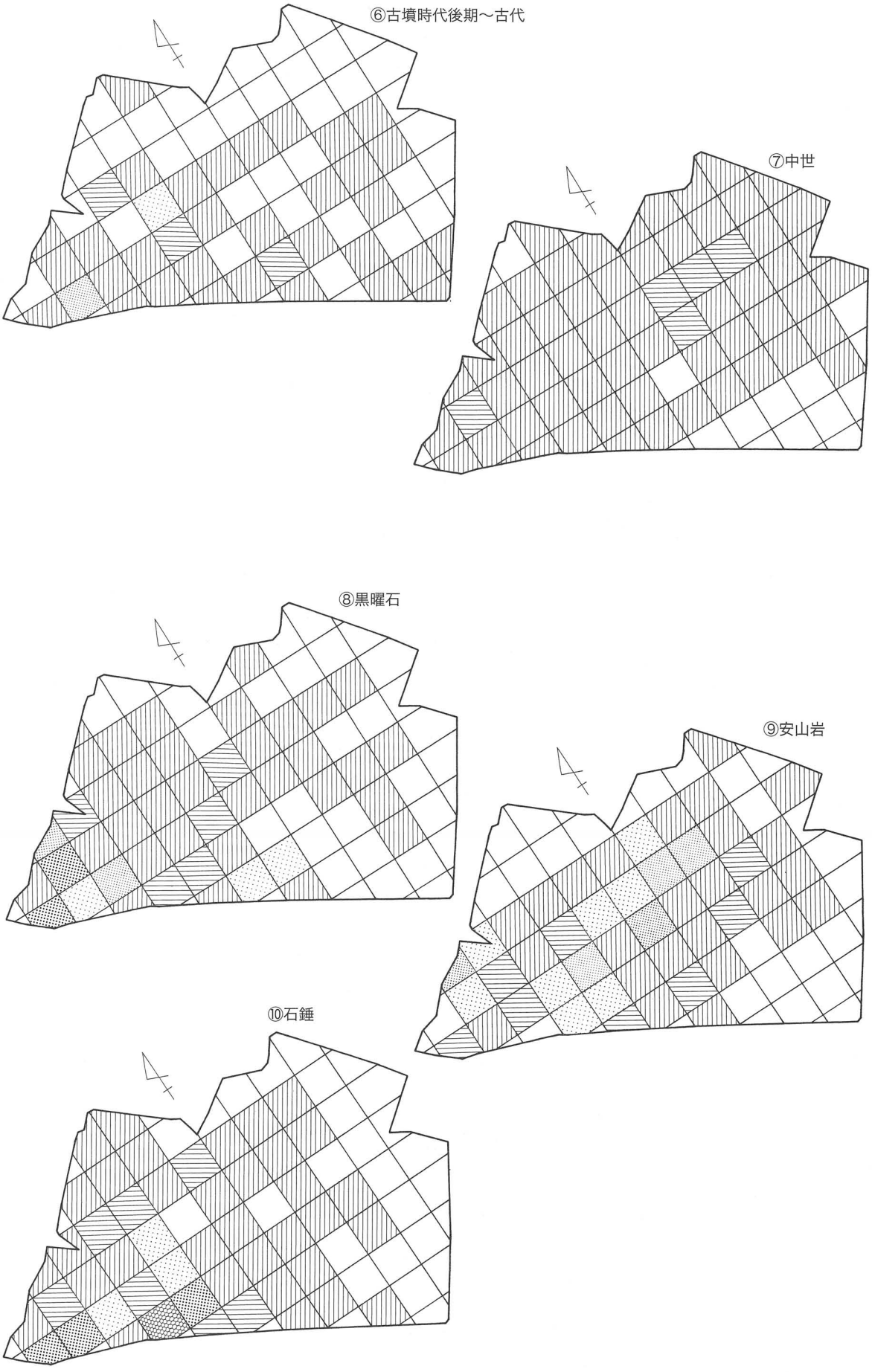
これらのことから、今回確認した配石土坑や土坑の中には、土坑墓である可能性が強いものが含まれていると考えられる。島根県内の土坑墓群の例として、飯南町（旧頓原町）門遺跡（島根県教育委員会編1996）や下山遺跡（島根県教育委員会2002）がある。配石墓では仁多町原田遺跡（島根県教育委員会平成16年度調査）や飯南町貝谷遺跡（島根県教育委員会編2002）が挙げられる。

遺存状態の良かった土器埋設遺構１～３は正位で埋設され、粗製深鉢を用いていた。土器埋設遺構については、山田康弘が中国地方の集成を行っている（山田2001）ほか、尾原ダムの調査で類例が増加している。

Ⅱ・遺物　縄文早期から晩期の土器が出土した。早期は菱根式の土器が比較的多く見られる。胎土に繊維を含み、外面は縄文施文のものが多い。菱根式の他に平桝式が出土している。今回出土した平桝式に似た土器は、中国地方で類例があるようである（高橋1998）。なお、早期の黄島式～神宮寺式が出土した川平Ⅰ遺跡は斐伊川を挟んだ対岸に位置している。前期は西川津式から大歳山式まで、中期は鷹島式から里木Ⅱ式まで出土しているが、破片が小さく点数も少ない。後期の中津式や島式などの磨消縄文がある土器や布勢式などの縁帯文系土器は、家の後Ⅱ遺跡１区や北原本郷遺跡（島根県教育委員会平成14～16年度調査）で多く出土しているが、家の後Ⅱ遺跡２区では非常に少なく、縄文早期～中期の破片点数よりも少ない。土器の量が多くなるのは権現山式以降である。時期の特定は難しいが、この時期以降、粗製深鉢の出土量が増えるようで、晩期へ継続する。晩期も特に粗製深鉢の出土量が多い。土坑38から出土した土器は篠原式新段階に相当する土器と、肩部に刺突文や浮文がある土器が共伴しており、粗製深鉢のセットを考える上で重要な資料である。晩期の精製有文浅鉢がほとんど出土しなかったこと、後期後葉の凹線文系土器の出土量が少ないことから、篠原式併行段階の晩期中葉に遺物のピークがあるのではないかと思われる。粗製深鉢の調整はケズリやナデのものが多く、条痕調整の破片は数％程度である。深鉢と浅鉢の比率は、破片点数では９：１であるが、口縁部点数ではほぼ７：３である。突帯文土器は突帯文Ⅰ期のものが多く出土し、古市河原田式以降のものは少ない。

石器は石錘が多く出土した。打ち欠きのあるものがほとんどで、50～300ｇのものが中心である。打製石斧は非常に少ない。また、黒曜石や安山岩の剥片が多く出土した。黒曜石よりも安山岩の方

第11図　出土遺物分布図(1)



第11図　出土遺物分布図(2)

が点数や重量が多い。

第11・12図は土器と石器の出土分布図である。縄文早期は散漫な出土を示す。縄文前期・中期も散漫な分布を示すが、調査区西側の６WA.６A.６U.７Uに多く出土する。縄文後期では5U.６U.７Uに多く出土する。縄文後期後葉～晩期の土器はそれまでとは分布が異なり、調査区の中央部分に多く出土するようになる。特に５U.５KA.５KI.６U.６Oで多い。石器の出土は、黒曜石が調査区の西側で多く出土するのに対して、安山岩は調査区の中央部分で多く出土する傾向にある。また、石錘は調査区の西側で多く出土する。これらのことから、縄文前期～後期の土器と黒曜石や石錘、縄文後期後葉～晩期の土器と安山岩の分布範囲に対応関係があると考えられる。特に縄文後期後葉～晩期の分布範囲は、土坑が多く確認された範囲の南側に位置しており、明確な遺構は確認できなかったが、墓域を含む土坑群の南側に概期の活動域があったことを推測させる。このように活動域と墓域が把握できる遺跡は前述の貝谷遺跡である。貝谷遺跡では配石墓などが位置する墓域の南側10～20mのところに竪穴住居が位置している。

弥生時代

Ⅰ・遺構　調査区北西隅の２U.２Eで中期中葉の竪穴住居を１棟確認した。平面は円形で南西側に張り出した部分がある。柱穴は不明確である。この時期の竪穴住居は北原本郷遺跡１～３区や５区（島根県教育委員会平成14・15年度調査）で見つかっている。P601から大きい破片が出土した他は遺構から出土した弥生土器は少ない。

Ⅱ・遺物　弥生前期の土器はⅠ－４様式の時期のものが出土する。Ⅰ－３様式以前の土器は非常に少なく、突帯文土器の古市河原田式以降の土器が少ないこと、北原本郷遺跡６区では突帯文土器やⅠ－１～２様式の土器が出土していることから、この段階では活動域の縁辺部に位置している可能性が強い。弥生中期の土器は多く出土している。中期前葉の土器は櫛描文で施文するものに加えて半截竹管で施文するものが多く見られる。施文は直線文や波状文に加えて、半截竹管の施文具と考えられる工具で刺突文を逆U字や逆コ字など多様なかたちで施文する。これらの土器については後述する。中期中葉～後葉の土器の中には焼成時破損土器の可能性のある土器（第107図402）がある。この様な土器は北原本郷遺跡１～３区の中期前葉の土器でも出土しているほか、出雲市中野西遺跡や中野美保遺跡などの出雲平野で報告例が増えており（出雲市教育委員会編2002、島根県教育委員会編2004）、弥生中期の段階では比較的大きな集落ではそれぞれで土器を焼成していた可能性がある。中期中葉～後葉の土器は中期前葉の様相と異なり、広口壺の形態や甕の頸部に指頭圧痕文帯があるなど、出雲の海岸部で出土する土器と大きな相違は見られない。垣ノ内遺跡（島根県教育委員会編2003）で多く出土した「塩町式土器」に類似する土器は１点（第108図405）のみであり、近接する遺跡ではあるが様相が異なる。弥生後期前葉～中葉では、遺構の様相から考えて、居住域の中心が北原本郷遺跡にあり、この段階では居住域の縁辺部に位置していると考えられる。後期後葉以降は遺物が非常に少ない。弥生土器の分布範囲は５U・６Uのような調査区の中央西よりの位置が多い。

古墳時代～奈良・平安時代の遺構は無く、土師器を中心とした土器が調査区の西端で出土している。雲南市家の上遺跡や仁多町家ノ脇Ⅱ遺跡など現状の遺跡分布から見ると、奈良・平安時代の遺跡は家の後Ⅱ遺跡が所在しているような規模の大きい河岸段丘ではなく、狭い谷の緩斜面や比較的規模の小さい河岸段丘に位置するようである。

鎌倉・室町時代

Ⅰ・遺構　掘立柱建物９棟、土坑６基を確認した。掘立柱建物は調査区の中央南側、西端、中央東側に位置しており、掘立柱建物の主軸はN41°W～44°W、N33E°～34°Eにまとまる傾向にある。切り合いがあることから、それぞれに掘立柱建物が１～２棟あったと考えられる。掘立柱建物３は三方を柵１で囲む。土坑は掘立柱建物の近くに位置している。円形～楕円形のものが多い。

Ⅱ・遺物　鎌倉時代を中心とする在地系の糸切り底の土師器が中心である。白磁や青白磁合子はそれぞれ１点のみ出土し、青磁が約20点出土した。また、土坑52からは備前焼の甕、土師器の擂鉢、瓷器系陶器の壺が出土した。

なお、近世の掘立柱建物は調査区の東側と西側に位置し、主軸もまとまる傾向にある。切り合いがある掘立柱建物が多く、２～３棟前後のまとまりがあるようである。

２．土器に付着した炭化物について（第129～131図）

今回報告した縄文晩期を中心とする時期の深鉢は遺存状態が良好なものが多く、器壁の風化はあまり見られなかった。そのため外面には炭化物が付着した状態の個体が多かったので、土器の用途を炭化物の付着の有無から検討することができると考え、器形の分かる個体を中心に炭化物の付着範囲や程度をスクリーントーンで示した。土器埋設遺構の粗製深鉢６～８では、土器の外面を中心に厚く炭化物が付着し、土器の内面の底部付近にも炭化物の付着がみられた。土坑38出土の66は内面の底部付近に炭化物の付着がみられた。215や265も同様である。226はやや浅めの鉢であるが、外面や内面の底部付近に炭化物の付着がみられる。他の深鉢のように、煮炊きに用いられたと考えられる。一方261や262のように、口径が40㎝近い大形の深鉢には炭化物の付着がみられないものがある。この様な土器は煮炊きよりも貯蔵など炭化物の付着しない用途に用いられたと考えられる。

３．弥生時代中期前葉の土器について

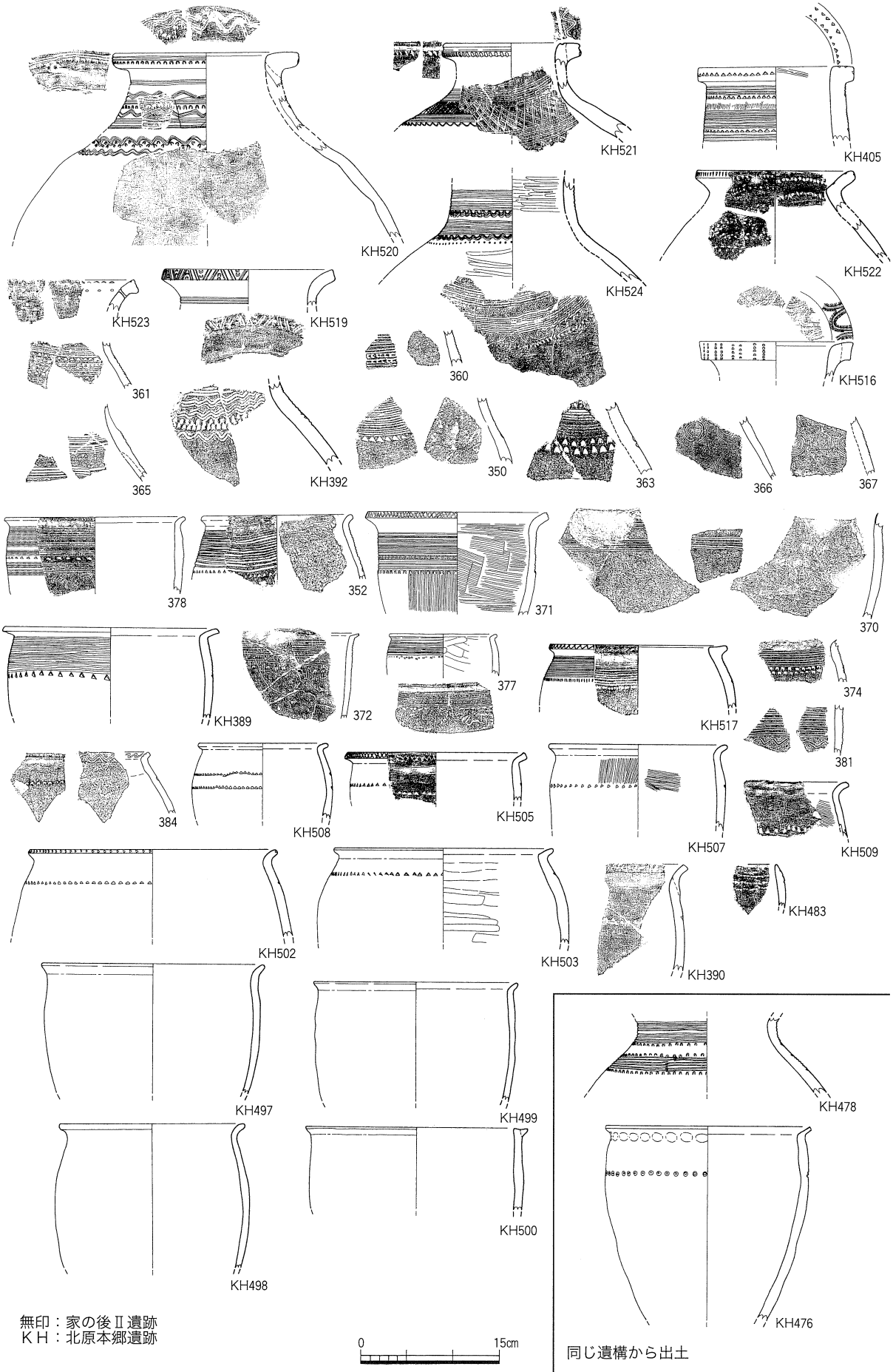
今回報告した弥生土器の中には、包含層から出土した中期前葉を中心とする時期の土器がある。これらの土器には従来出雲海岸部では見られなかった特徴を示すものがあり、家の後Ⅱ遺跡の他に隣接する北原本郷遺跡１～３区でも出土している。特徴的な土器を第13図に掲載した。これらの土器の特徴は施文や文様に顕著である。以下にまとめると、

①半截竹管状の工具での施文が多い。

②文様には直線文や波状文がある。直線文には10条以上施すもの（369）や上下に間隔をあけて施すもの（370）がある。直線文に刺突文が伴う場合が多い（371～375、ＫＨ520、同524など）。他には円形文（366）や山形文（379、380）、弧文（372）、斜格子文（ＫＨ521）などがある。壺の口縁部内面にも施文する（ＫＨ516、同520～522）。

③刺突文は三角形のものは少なく、半截竹管の原体をあてて施す。逆Ｕ字（374など）やＣ字（373）などがある。逆コ字状に押し引きをするものもある（360、371）。これらの刺突文は直線文の下や直線文の間に施される場合が多い。また、直線文の上に刺突文を施すものもある。

④これら①～③の特徴を示す土器の器形自体は、出雲海岸部で多く出土する中期前葉の土器と似るものがあるが、壺には頸部が長く伸び、口縁部を逆Ｌ字にするものがある（ＫＨ405、同520、同521など）。また、これらの土器は櫛描文のある中期前葉の土器と共伴する可能性がある（378、



第13図　弥生時代中期前葉の土器（S＝1/6）

ＫＨ389など)。家の後Ⅱ遺跡では、半截竹管の土器と櫛描文の土器の比率は45：36であった。

以上の特徴を指摘することができる。従来出雲地域における中期前葉の土器として、仁多町鹿谷遺跡出土の櫛描文で施文された土器が挙げられていたが、今回言及した土器とは大きく様相が異なる。

これらの土器の次の段階に相当する土器は文様が省略され、刺突文のみになるようである（382～384、ＫＨ502、同503、同508)。無文の土器もある（390、391、ＫＨ497～500)。なお、北原本郷遺跡１～３区では半截竹管による直線文や刺突文で装飾された壺（ＫＨ478）が竹管文をもつ甕（ＫＨ476）と共に土坑から出土しており、壺と甕では装飾の程度が異なるようである。この土器の刺突文がハケ原体になり、薄いつくりになったのが中期中葉（Ⅲ－１様式）の甕ではないかと考えられる。

これらの土器に類似した土器は雲南市川平Ⅰ遺跡、同平田遺跡、仁多町下鴨倉遺跡、飯南町下山遺跡、雲南市（旧掛合町）羽森第２遺跡、広島県山県郡大朝町上朝枝遺跡で数点出土している程度である。これらの土器がどのような分布を示し、いかなる変遷を示すかは今回の報告で深めることができなかった。今後の課題としたい。

約２年における家の後Ⅱ遺跡（２区）の調査によって、縄文時代晩期の土坑や土器埋設遺構などの遺構、中世から近世にかけての集落、縄文時代早期から鎌倉・室町時代までの遺物を確認することができた。特に縄文晩期の土坑には配石のあるものや石を伴うものがあることから、墓と考えられるものを含み、縄文時代晩期の多様な墓制を確認することができた。また、各時代ごとの出土土器の分布と遺構の配置を対比させることによって、概期の墓域と活動域の範囲を想定することができた。調査開始時の目的はほぼ解決することができたと考える。本報告書の成果を他の尾原ダムや県内の遺跡との比較が今後の課題と考える。

【参考文献】

高橋信武「平桁式と塞ノ神式土器の編年」『先史学・考古学論究Ⅱ　熊本大学考古学研究室創設25周年記念論文集』　龍田考古会　pp.1～39　1997

高橋信武「縄文早期後葉の九州」『九州縄文土器編年の諸問題　早期後半土器編年の現状と課題』pp.57～70　1998

千葉　豊「沖丈遺跡出土縄文後期土器の編年的意義　崎ヶ鼻式と「権現山式」のあいだ」『沖丈遺跡』邑智町教育委員会　pp.306～318　2001

宮地聡一郎「刻目突帯文土器圏の成立（上）」『考古学雑誌』第88巻第１号　日本考古学会　pp.１～32　2004

宮地聡一郎「刻目突帯文土器圏の成立（下）」『考古学雑誌』第88巻第２号　日本考古学会　pp.１～37　2004

家根祥多「篠原式の提唱」『縄紋晩期前葉－中葉の広域編年（平成４年度科学研究費補助（総合Ａ）研究成果報告書)』　北海道大学文学部　pp.50～139　1994

山田康弘「中国地方の土器埋設遺構」『島根考古学会誌』第18集　pp.53～80　2001

『下鴨倉遺跡緊急発掘調査報告』　仁多町教育委員会　1981

『下鴨倉遺跡』　仁多町教育委員会　1990

『門遺跡　志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書３』　島根県教育委員会　1996

『平田遺跡』　木次町教育委員会　1997

『羽森第２．羽森第３遺跡発掘調査報告書』　掛合町教育委員会　1998

『平田遺跡　第Ⅲ調査区』　木次町教育委員会　2000

『向出遺跡　一般国道26号（第２阪和国道）の建設に伴う発掘調査報告書』　㈶大阪府文化財調査研究センター　2000

『第２回関西縄文文化研究会　関西の縄文墓地』　関西縄文文化研究会　2000

『下山遺跡　志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書12』　島根県教育委員会　2002

『貝谷遺跡　志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書16』　島根県教育委員会　2002

『中野西遺跡』　出雲市教育委員会　2002

『上朝枝遺跡発掘調査報告書　広島県埋蔵文化財センター調査報告書第200集』㈶広島県埋蔵文化財調査センター　2002

『中野美保遺跡　一般国道９号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書４』　島根県教育委員会　2004

表2　宮ノ脇遺跡　建物一覧表

建物	挿図	写真図版	柱　間	梁行(m)	桁行(m)	梁間(尺)※	桁間(尺)※	面積(㎡)	主軸	時　代
1	17	4−1	1間×1間	2.35	3.3	7.5	11	7.8	N1° E	江戸時代？
2	17	4−1	1間×1間	1.7	3.1	5.5	10	5.3	N81° E	中世？
3	17	4−1	1間×1間	1.7	3.3	5.5	11	5.6	N74° E	江戸時代？
4	18	4−2	1間×5間	4.6	10.0	16	6.7	46.0	N77° W	江戸時代？
5	17		1間×1間	1.55	2.3	5	8	3.6	N19° E	江戸時代？

※1尺は30cmと仮定して計算した

表3　宮ノ脇遺跡　建物計測表

建物1計測表

規　模		梁行き				桁行き			
		1				1			
主　軸		N1° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4				
	上面径（cm）	23×20	40×22	66×(30)	29×23				
	底の標高（m）	158.18	158.34	157.62	157.35				
柱間距離（m）		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P1				
		2.20	3.10	2.35	3.30				

建物2計測表

規　模		梁行き				桁行き			
		1				1			
主　軸		N81° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4				
	上面径（cm）	27×25	30×26	38×30	32×25				
	底の標高（m）	157.80	158.36	157.43	157.45				
柱間距離（m）		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P1				
		2.95	1.65	3.10	1.70				

建物3計測表

規　模		梁行き				桁行き			
		1				1			
主　軸		N74° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4				
	上面径（cm）	20×18	38×32	50×37	25×23				
	底の標高（m）	157.84	157.56	157.25	157.36				
柱間距離（m）		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P1				
		3.10	1.50	3.30	1.70				

建物4計測表

規　模		梁行き				桁行き			
		1				5			
主　軸		N77° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径（cm）	135×75	65×53	90×54	90×86	116×70	118×90	85×78	93×85
	底の標高（m）	164.62	164.79	165.05	164.96	164.92	164.56	163.62	164.13
柱間距離（m）		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P5	P5−P6	P7−P1	P7−P8	
		2.10	2.00	1.80	2.00	1.80	4.60	2.10	

建物5計測表

規　模		梁行き				桁行き			
		1				1			
主　軸		N19° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4				
	上面径（cm）	40×30	36×34	33×30	28×23				
	底の標高（m）	164.72	164.58	164.23	164.20				
柱間距離（m）		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P1				
		1.55	2.30	1.50	2.30				

表4－1　宮ノ脇遺跡　土器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	型式／時期	調査区	土層	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
25	1	5上	縄文土器	深鉢	早期？	2区	包含層下位	ナデ	淡橙色(10YR8/4)	淡橙色(10YR8/4)
25	2	5上	縄文土器	深鉢	晩期？	2区	包含層下位	条痕	にぶい黄橙色(10YR7/4)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
25	3	5上	縄文土器	深鉢	晩期？	2区	包含層下位	ナデ	にぶい黄橙色(10YR7/4)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
25	4	5上	縄文土器	深鉢	晩期？	2区	包含層下位	端部に刻み	暗橙色(7.5YR7/8)	暗橙色(7.5YR7/8)
25	5	5上	縄文土器	深鉢	晩期	2区	包含層下位	条痕	淡黄褐色(10YR7/6)	淡黄褐色(10YR7/6)
25	6	5上	縄文土器	深鉢	晩期	2区	包含層下位	ケズリ、条痕後ミガキ	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄色(2.5YR8/4)
25	7	5上	縄文土器	深鉢	晩期	2区	包含層下位	ケズリ、条痕	淡青灰色(10YR8/6)	淡青灰色(10YR8/6)
25	8	5上	縄文土器	深鉢	晩期	2区	包含層下位	条痕、ナデ	黄橙褐色(10YR7/8)	黄橙褐色(10YR7/8)
25	9	5上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	2区	包含層下位	口縁端部刻み、突帯D字刻み、条痕	淡黄褐色(10YR7/3)	淡黄褐色(10YR7/3)
25	10	5上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅱ期	2区	包含層下位	口縁端部にV字の刻み、突帯の上には小さいD字の刻み、ケズリ、条痕	黒褐色(10YR3/2)	灰黄褐色(10YR4/2)
25	11	5上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅱ期	2区	包含層下位	V字の刻み、ケズリ	暗褐色(5YR5/4)	暗褐色(7.5YR7/6)
25	12	5下	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅱ期	2区	包含層下位	D字の刻み、ケズリ	にぶい黄褐色(10YR4/3)	にぶい黄褐色(10YR4/3)
25	13	5下	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅲ期	2区	包含層下位	V字の刻み、条痕	淡黄灰色(7.5YR8/2)	淡黄灰色(7.5YR8/2)
25	14	5下	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅲ期	2区	包含層下位	D字の刻み、ナデ、条痕	暗褐色(5YR5/1)	暗褐色(5YR5/1)
25	15	5下	縄文土器	浅鉢	晩期	3T	包含層下位	ていねいなナデ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR7/3)
25	16	5下	縄文土器	浅鉢	晩期	2区	包含層下位	口縁内面肥厚、ケズリ後ミガキ	黄褐色(2.5Y5/4)	黄褐色(2.5Y5/4)
25	17	5下	縄文土器	浅鉢	晩期	2区	包含層下位	沈線、ナデ	淡褐色(2.5Y8/4)	淡褐色(2.5Y8/4)
25	18	5下	縄文土器	浅鉢	晩期？	2区	包含層下位	底径7.4cm、残存率20%、ミガキ	淡褐色(7.5YR6/2)	淡褐色(7.5YR6/2)
26	19	5下	弥生土器	甕	前期	2区	包含層下位	口径30.1cm、残存率15%、端部刻み、ナデ	淡褐色(10YR7/8)	橙色(7.5Y6/8)
26	20	5下	弥生土器	広口壺	中期中葉	2区	包含層上位-下位	口径19.0cm、残存率20%、ハケ、ミガキ	淡黄褐色(10YR8/4)	淡黄褐色(10YR8/4)
26	21	5下	弥生土器	広口壺	中期後葉	2区	包含層上位-下位	口縁部に3条の凹線文、口径40.0cm、残存率25%	淡黄橙灰色(2.5Y8/4)	淡黄橙灰色(2.5Y8/4)
26	22	6下	弥生土器	広口壺	Ⅲ－2様式	2区	包含層上位-下位	口縁部にヘラ描の羽状文、頸部に2条の刻みのある突帯を持ち、胴部に列点文が見られる、口径21.0cm	淡橙色(7.5YR8/6)	淡橙色(7.5YR8/6)
26	23	5下	弥生土器	広口壺	Ⅲ－2様式	2区	包含層下位	頸部径10.8cm、残存率15%	にぶい黄褐色(10YR4/3)	にぶい黄褐色(10YR5/3)
26	24	5下	弥生土器	短頸壺	中期後葉？	2区	包含層下位	口縁端部に3条の凹線文、頸部に指頭圧痕突帯	淡黄褐色(7.5YR8/3)	淡黄褐色(7.5YR8/3)
26	25	5下	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	2区	包含層下位	口縁部に2条の凹線文、頸部に突帯、刺突文の原体で圧痕、胴部に2列の刺突文、口径23.2cm、残存率20%	淡褐色(10YR7/2)	淡褐色(10YR8/3)
26	26	6上	弥生土器	甕	中期	2区	包含層下位	5つ1単位の刺突文、残存率25%	淡橙色(7.5YR8/6)	淡橙色(7.5YR8/2)
26	27	6上	弥生土器	鉢	中期	2区	包含層下位	内外漆塗り	淡橙褐色(7.5YR8/4)	淡橙褐色(7.5YR8/4)
26	28	6上	弥生土器	鉢	中期	2区	包含層下位	内外漆塗り、底径7.0cm、底部完存	黒褐色(2.5Y7/2)	黒褐色(2.5Y7/2)
26	29	6下	弥生土器	高杯	中期後葉	2区	包含層上位-下位	口縁端部に2条の凹線文、口径19.4cm、残存率20%、ヘラミガキ	淡黄褐色(10YR8/4)	淡黄褐色(10YR8/4)
26	30	6上	弥生土器	高杯	中期後葉	2区	包含層下位	合計11条の凹線文、残存率40%	淡橙黄色(10YR8/4)	淡橙黄色(10YR8/4)
26	31	9	弥生土器	手づくね土器	中期？	2区	包含層上位	口径6.6cm、器高9.1cm、底径5.4cm	淡黄褐色(7.5YR7/3)	淡黄褐色(7.5YR7/3)
26	32	6上	弥生土器	無頸鉢	中期	2区	包含層上位-下位	3条の凹線文と刻み	淡橙黄色(10YR8/3)	淡橙黄色(10YR8/3)
26	33	6上	弥生土器	甕	後期	2区	包含層下位	口径17.7cm、残存率10%	淡黄褐色(10YR6/4)	淡黄褐色(10YR6/4)
26	34	6上	弥生土器	甕	後期中葉	2区	包含層下位	口径18.4cm、残存率10%、端面強いヨコナデ	淡橙褐色(7.5YR8/6)	淡橙褐色(7.5YR8/6)
26	35	9	弥生土器	甕	後期中葉	2区	包含層上位	口径14.0cm、残存率60%、ハケ原体による刺突	淡黄灰色(7.5YR8/2)	淡黄灰色(7.5YR8/2)
26	36	6上	弥生土器	甕	Ⅱ様式	2区	包含層上位	櫛描直線文、三角形の刺突文	淡黄褐色(10YR7/3)	淡黄褐色(10YR7/3)
26	37	6上	弥生土器	甕	中期	2区	包含層下位	口縁は上へ拡張	淡橙色(7.5YR8/3)	淡橙色(7.5YR8/3)
26	38	6上	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	（不明）	（不明）	口縁端部に2条の凹線文	淡灰茶色(7.5YR8/3)	淡灰茶色(7.5YR8/3)
26	39	6上	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	2区	包含層下位	口縁端部に2条の凹線文、ハケ	淡黄褐色(7.5YR8/4)	淡黄褐色(7.5YR8/4)
26	40	6上	弥生土器	甕	中期	2区	包含層下位	刺突文が上下にずれている	淡黄褐色(10YR8/3)	淡黄灰色(7.5YR8/2)
26	41	6上	弥生土器	甕	中期	2区	包含層上位	2列の貝殻刺突文	淡茶褐色(7.5YR7/6)	淡茶灰色(7.5YR8/2)
26	42	6上	弥生土器	高杯	中期中葉	2区	包含層下位	3条の沈線の後に粘土を貼り付けて、その上を刻む	淡黄灰色(5YR8/2)	淡黄灰色(5YR8/2)
26	43	6上	弥生土器	鉢	後期	2区	包含層下位	胴部に刻み	暗黄橙色(7.5YR8/7)	橙色(7.5YR6/6)
27	44	7上	須恵器	蓋	蓋坏A4～A5	2区	包含層下位	口径13.0cm、器高3.6cm、残存率18%、2条の沈線で段を表現	暗黄灰色(5BG6/1)	暗黄灰色(5BG6/1)
27	45	7上	須恵器	蓋		2区	包含層上位	天井部のみ回転ヘラケズリ	黄灰色(2.5Y6/1)	黄灰色(2.5Y7/1)
27	46	7上	須恵器	坏	蓋坏A4に伴う？	1区不明遺構付近		口径10.8cm、残存率15%、回転ナデ	灰色(N6/1)	灰色(N6/1)
27	47	9	須恵器	低脚無蓋高杯	A7	2区	包含層下位	口径14.3cm、器高7.8cm、底径8.7cm、脚部完存	青灰色(10GY7/1)	青灰色(10GY7/1)
27	48	7上	須恵器	高杯		2区	包含層上位	底径9.1cm、残存率25%	灰色(10GY7/1)	灰色(10GY7/1)
27	49	9	須恵器	低脚無蓋高杯	A4	2区	包含層下位	二方透かし、底径10.8cm、残存率35%	青灰色(10BG5/1)	青灰色(10BG5/1)
27	50	7上	須恵器	高杯		2区	包含層下位	底径9.4cm、残存率20%	灰色(10G6/1)	灰色(10G6/1)
27	51	7上	須恵器	壺		3T	不明	胴径21.4cm、残存率15%	灰色(5Y6/1)	灰色(5Y6/1)
27	52	7上	須恵器	取っ手付鉢		3T	不明	カキメ	灰白色(2.5Y7/1)	灰白色(2.5Y7/1)
27	53	7下	須恵器	壺		2区	包含層下位	カキメ、当て具痕細かい	灰色(5Y5/1)	灰色(5Y6/1)
27	54	7下	須恵器	壺		3区	排土	底径8.4cm、残存率30%	暗灰色(10G5/1)	暗灰色(10G5/1)
27	55	7下	須恵器	高杯？	奈良	1区不明遺構付近～2区	焼土下層・包含層下位	口径11.8cm、残存率10%	青黒色(5B2/1)	青灰色(5B6/1)
27	56	7下	須恵器	坏	奈良	2区	包含層上位	底径6.4cm、残存率25%	暗青灰色(10Y6/1)	暗青灰色(10Y6/1)
27	57	7下	須恵器	坏	奈良	2区	包含層上位	底径9.5cm、残存率10%	灰色(5Y4/1)	灰色(5Y4/1)
27	58	7下	須恵器	坏	奈良	3区		底径10.6cm、残存率20%	暗黄灰色(5BG6/1)	暗黄灰色(5BG6/1)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	型式／時期	調査区	土層	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
27	59	7下	土師器	鉢		2区	包含層下位	口径10.0cm、残存率20%	淡橙色(10YR7/6)	淡橙色(10YR7/6)
27	60	7下	土師器	甕	奈良・平安	2区	包含層上位-下位	口径28.4cm、器高20.6cm、底径10.2cm、底部内面は削り取ったように段が付く	淡橙黄色(10YR7/6)	淡橙黄色(10YR7/6)
27	61	9	土製品	土製支脚	奈良・平安	2区	包含層上位	頂部中央に凹み	淡橙色(7.5YR8/3)	淡橙色(7.5YR8/3)
28	62	9	中世土師器	坏	鎌倉	2区	包含層上位	口径10.5cm、器高3.4cm、底径3.4cm	淡黄褐色(10YR8/4)	淡橙褐色(7.5YR8/6)
28	63	8上	中世土師器	坏	鎌倉	1区	包含層上位	口径12.4cm、器高3.2cm、残存率15%	淡黄橙色(7.5YR8/2)	淡黄橙色(7.5YR8/2)
28	64	8上	中世土師器	坏	鎌倉	3区		底径5.7cm、底部完存	淡橙色(7.5YR8/6)	淡橙色(7.5YR8/6)
28	65	8上	中世土師器	坏	鎌倉	1区	包含層上位	底径5.0cm、底部完存	淡橙色(10YR7/2)	淡橙色(10YR7/2)
28	66	8上	中世土師器	皿	鎌倉	1区	包含層上位	底径4.5cm、残存率75%	淡橙色(7.5YR8/6)	淡橙色(7.5YR8/6)
28	67	8上	中世土師器	皿	鎌倉	2区	包含層上位	器高1.2cm、底径3.5cm、残存率60%	淡黄橙色(7.5YR8/2)	淡黄橙色(7.5YR8/2)
28	68	8上	中世土師器	皿	室町以降？	2区	包含層上位	口径7.0cm、器高1.7cm、残存率15%	淡黄橙色(7.5YR8/3)	淡黄橙色(7.5YR8/3)
28	69	8上	中世土師器	皿	室町以降？	2区	包含層上位	口径8.1cm、器高6.4cm、残存率15%	淡橙色(7.5YR8/6)	淡橙色(7.5YR8/6)
28	70	8下	土師器	擂鉢		1区、2T	包含層上位	口径36.0cm、残存率15%、外面炭化物付着、ヨコハケ	暗褐色(7.5YR4/1)	淡黄灰色(10YR8/2)
28	71	8下	土師器	こね鉢		2区	包含層上位	底径10.6cm、残存率55%	淡橙褐色(5YR7/4)	淡橙褐色(5YR7/4)
28	72	8上	備前焼	擂鉢またはこね鉢		2区	包含層上位	底径14.8cm、残存率15%、内面は平滑	黄灰色(2.5Y4/1)	にぶい褐色(7.5YR5/4)
28	73	8上	瓷器系陶器	擂鉢またはこね鉢	13C～14C	2区	包含層上位	口径30.6cm、残存率10%	灰褐色(7.5YR4/2)	にぶい褐色(7.5YR5/3)
28	74	8上	土師質	火鉢		2区	包含層上位	口径29.6cm、残存率15%、被熱痕あり	橙色(5YR7/6)	橙色(5YR7/6)
28	75	8下	須恵器	甕	平安時代	2区	包含層上位	硬質、内面ナデ	淡黒灰色(10G4/1)	淡灰色(10G7/1)
28	76	8下	須恵器	甕	平安時代	2区	包含層上位	硬質、内面ナデ	淡黒灰色(10G5/1)	淡灰色(5BG7/1)
28	77	8下	須恵器	甕	平安時代	2区	包含層上位	軟質、内面ハケ、当て具痕	灰黒色(10BG5/1)	淡灰色(5GY8/1)
28	78	8下	須恵器	擂鉢		2区	包含層上位		淡灰色(2.5Y7/1)	淡灰色(2.5Y7/1)
28	79	8下	須恵器	こね鉢		1区不明遺構付近	焼土下層	ナデ、ハケ	青灰色(10BG6/1)	明青灰色(10BG7/1)
28	80	8下	須恵器	擂鉢		2区	包含層上位		淡青灰色(5GY7/1)	淡青灰色(5GY7/1)
28	81	8下	備前焼	擂鉢	Ⅲ期	2区	包含層上位	端部はわずかに拡張	灰黄褐色(10YR4/2)	赤褐色(10R5/4)
28	82	8下	備前焼	擂鉢	Ⅳ期	1区	包含層上位	端部は上方に拡張	灰黄褐色(10YR4/2)	にぶい赤褐色(5YR5/4)
28	83	8上	常滑系	甕		3区			紫灰色(5P6/1)	紫灰色(5P6/1)
28	84	8下	瀬戸焼	皿	13C～14C	3区		底径9.1cm、残存率25%、内面格子状の卸目、内外面とも無釉	浅黄色(2.5Y7/3)	淡黄色(2.5Y8/3)
29	85	8上	土師器	甕の取っ手		2区			浅黄橙色(10YR8/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
29	86	8上	土師器	かまど片		2区	包含層上位		褐灰色(10YR5/1)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
29	87	8上	土師器	甕		1区	包含層上位	短い取っ手	淡橙色(7.5YR7/6)	淡橙色(7.5YR7/6)
29	88	8上	土師器	取っ手		2区	包含層下位	断面楕円形	淡黄橙色(5YR7/6)	淡橙黄色(7.5YR8/4)

表4－2　宮ノ脇遺跡　石器・鉄器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	調査区	土層	形態・文様の特徴
29	89	8上	石器	石錘	2区	包含層上位	長6.2cm、幅5.3cm、厚1.3cm、重さ68.85g
29	90	8上	鉄器	刀子	3区P90		長15.6cm、幅2.3cm、厚1.2cm
29	91	10	石器	石鏃	2区	包含層下位	長2.2cm、幅1.2cm、厚0.4cm、重さ1.02g、安山岩

表4－3　宮ノ脇遺跡　古銭観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	名称	調査区	土層	寸法（cm）							重量(g)	初鋳年代
							a	b	c	d	e	f	厚さ		
29	92	10	古銭	開元通寶	2区	包含層上位		2.54		2.10		0.90	0.13	1.95	621
29	93	10	古銭	大観通寶	2T							0.85	0.19	1.80	1107
29	94	10	古銭	寛永通寶（古寛永）	2区	包含層上位	2.40	2.41	1.95	1.92	1.05	0.90	0.12	2.96	1636
29	95	10	古銭	寛永通寶（新寛永）	1区	包含層上位	2.56	2.58	2.00	2.00	0.80	0.85	0.10	3.31	1697.1767
29	96	10	古銭	寛永通寶（新寛永）	2区	包含層上位	2.55	2.57	2.08	2.00	0.88	0.78	0.11	2.30	1697.1767
29	97	10	古銭	寛永通寶（新寛永）	3区		2.37	2.36	1.79	1.80	1.00	0.90	0.12	2.32	1697.1767
29	98	10	古銭	寛永通寶	2区	包含層上位							0.13	1.21	

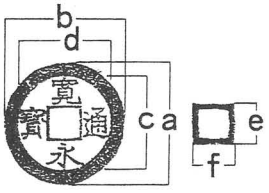


表5　宮ノ脇遺跡　遺物数量表

			1区包含層上位	1区包含層下位	1区	2区包含層上位	2区包含層下位	2区	3区	遺構	不明	小計
縄文土器	深鉢口縁	早期？					1					1
	深鉢口縁					1	7					8
	深鉢胴部		18			22	106	16				162
	深鉢胴部	条痕調整	1				11					12
	深鉢底部		2									2
	浅鉢	口縁					7					7
		胴部	3			2	19					24
		底部					1					1
	突帯文土器	突帯文Ⅰ期	1				7					8
		古市					8					8
		古海				1	4					5
		二条突帯					2					2
		無刻目突帯	2									2
		不明	1				1					2
弥生土器	甕	前期					1					1
	壺	中期前葉					1					1
	甕		1			5	2					8
	壺口縁					1	5	1		3		6
	壺胴部					7	10					21
	壺底部	中期	3			2				1	1	5
	甕口縁		1			4	11	25	4	1		18
	甕胴部		25		1	58	272	1	1			386
	甕底部		1				7					10
	甕	指頭圧痕突帯					2					2
	高坏	端部	1				2					3
		体部	1			2	3					6
	鉢						4					4
	甕口縁						4					4
	甕底部	後期					1					1
	鉢					1	3					4
古式土師器	壺	胴部片				1						1
	甕	胴部片				6	4					10
	不明					2		1				3
土師器	甕口縁		5			16	9	5		1		36
	甕胴部		108		3	339	126	46	1	47		670
	鉢						1					1
	かまど		2			3	1					6
	こしき	取っ手	2			1		1				4
		口縁	3									3
土製品	土製支脚					1						1
	不明					2	2	1		1		6
赤塗土師器						2						2
製塩土器			1							1		2
須恵器	坏身		5		1	4	1			1		12
	坏蓋					4	3			3		10
	高坏	口縁	2			4	3			1		10
		体部	5			7	3	1		2		18
	壺					1	1	1				3
	大甕	体部片	9	17		12		1	9			48
（古代）	坏身	高台付			1	3			1			5
		高台無(口縁)			4	3	2					9
		高台無(底部)			1	4		1	1			7
	鉢							1				1
	その他				8	3	1		2	1		15
中世の土師器	坏	口縁	3			21						24
		底部	7		1	21	1		3	1		34
		体部	9		2	23	1			1		36
	皿	口縁	1			7						8
		底部	11			8			1			20
		体部				1			2			3
	その他		2			4	1			1		8
中世の須恵器	甕	硬質	3			7						10
		軟質	2			4						6
土師質	すり鉢	口縁	11			5						16
		体部	8			6						14
	火鉢								1			1
須恵質	すり鉢	口縁			1	5						6
		体部	8			6		1		1		16
備前焼	すり鉢		3			4						7
瀬戸焼	皿								1			1
土師器	焙烙	口縁	2									2
		体部	4			3	1					8
青磁	碗	端反り	6		1							7
白磁	不明	体部				1						1
瓷器系陶器	甕		3			6		1				10
	鉢					1						1
合計			286	17	24	657	663	104	27	67	1	1846
石鏃							1					1
石錘						3						3

の内1点は灯明

表6　宮ノ脇遺跡　ピット一覧

遺構名	調査区	形態			規模（cm）				床面標高（m）	備考	遺構名	調査区	形態			規模（cm）				床面標高（m）	備考
					上面		下面									上面		下面			
		上面	下面	断面	長軸	短軸	長軸	短軸					上面	下面	断面	長軸	短軸	長軸	短軸		
P1	2区	楕円形	円形	台形	55	43	30	20	158.40		P47	2区	円形	円形	台形	22	21	17	13	157.17	
P2	2区	方形	円形	階段状	100	85	58	50	157.93		P49	2区	円形	円形	台形	28	24	15	14	158.13	
P3	2区	不整形	楕円形	台形	86	79	68	42	158.27		P50	2区	円形	円形	台形	42	35	21	20	157.77	
P6	2区	円形	円形	台形	28	26	16	10	157.80	土師器・甕胴部1、鉄滓	P51	2区	楕円形	楕円形	台形	38	34	23	12	157.71	
P9	2区	円形	円形	台形	35	29	19	14	157.95	土師器・甕胴部5	P52	2区	円形	円形	台形	25	23	18	10	157.44	
P11	2区	楕円形	円形	V字	44	34	15	13	157.71	弥生中期・甕胴部2	P53	1区	(楕円形)	(楕円形)	不明	(95)	(70)	75	(50)	154.71	縄文・深鉢胴部2
P12	2区	楕円形	楕円形	台形	52	34	37	18	158.22		P54	1区	楕円形	楕円形	台形	113	70	88	59	154.60	弥生中期・甕口縁1、土師器・甕胴部1、中世の土師器・坏底1
P14	2区	円形	楕円形	台形	25	24	20	18	157.54		P55	1区	円形	楕円形	台形	28	24	14	11	153.89	
P15	2区	円形	楕円形	台形	38	34	24	19	157.68		P57	1区	楕円形	円形	台形	54	46	35	26	153.96	
P16	2区	円形	円形	台形	26	23	13	10	157.89		P58	1区	円形	円形	台形	28	24	21	18	154.05	
P17	2区	円形	円形	台形	31	26	18	16	157.76		P59	1区	円形	楕円形	台形	52	51	44	37	153.22	
P19	2区	円形	円形	台形	22	20	12	11	157.86		P60	1区	円形	楕円形	階段状	35	32	10	8	154.56	
P21	2区	円形	円形	台形	35	34	14	10	157.33		P62	3区	円形	円形	台形	23	21	15	14	164.75	
P22	2区	円形	円形	台形	28	26	17	16	157.90	古墳・須恵器・蓋1	P65	3区	円形	円形	台形	28	26	13	11	164.78	
P23	2区	円形	円形	台形	21	18	14	12	157.23		P67	3区	楕円形	楕円形	台形	72	39	60	25	164.64	
P25	2区	円形	円形	台形	23	22	8	7	157.56		P69	3区	円形	楕円形	台形	33	32	17	12	164.76	
P26	2区	円形	楕円形	台形	30	28	22	15	157.47		P70	3区	楕円形	円形	階段状	82	29	11	8	164.46	
P29	2区	楕円形	円形	台形	51	39	16	14	157.68	弥生中期・壺胴部1	P72	3区	円形	円形	台形	41	41	17	16	164.91	
P30	2区	長方形	楕円形	台形	63	52	48	46	158.47		P73	3区	楕円形	楕円形	台形	34	29	26	20	164.82	
P31	2区	楕円形	楕円形	台形	36	28	30	18	158.65		P74	3区	円形	円形	台形	38	37	23	21	164.15	
P32	2区	円形	円形	台形	34	28	20	14	157.31		P76	3区	円形	円形	台形	26	25	19	18	164.60	
P33	2区	楕円形	円形	台形	24	20	16	14	157.37	弥生中期・甕胴部1	P77	3区	円形	円形	台形	22	21	14	12	164.56	
P34	2区	楕円形	円形	V字	21	16	8	6	157.68		P80	3区	円形	円形	台形	30	27	18	14	164.19	
P36	2区	円形	円形	台形	28	24	16	15	157.33	縄文・深鉢胴部1	P81	3区	円形	円形	台形	40	38	27	19	164.30	土師器・甕胴部1
P37	2区	円形	楕円形	台形	38	32	20	12	157.46		P82	3区	楕円形	楕円形	台形	112	65	83	28	164.72	
P38	2区	円形	円形	台形	56	50	13	12	157.80	かまど片1	P84	3区	円形	円形	台形	24	23	13	12	164.64	
P39	2区	円形	円形	台形	27	24	14	12	157.70		P85	3区	円形	円形	台形	27	26	12	10	164.80	
P40	2区	円形	円形	台形	27	23	9	8	157.18		P86	3区	楕円形	楕円形	台形	50	40	30	17	164.68	
P41	2区	円形	円形	台形	24	23	16	15	157.69		P87	3区	楕円形	円形	台形	55	39	28	20	164.60	
P42	2区	円形	円形	台形	21	18	14	12	157.68		P88	3区	円形	円形	台形	48	40	30	20	164.65	
P43	2区	円形	円形	台形	26	23	20	18	157.18		P90	3区	(楕円形)	円形	台形	(126)	97	37	34	164.37	天目茶碗1
P44	2区	円形	円形	台形	33	29	13	10	157.52	古代・須恵器・高台無坏1	P91	3区	円形	円形	台形	40	38	19	18	164.67	
P45	2区	円形	円形	台形	52	45	40	36	157.41	縄文・深鉢胴部2	P93	3区	楕円形	楕円形	台形	66	34	36	15	164.75	
P46	2区	円形	楕円形	台形	44	37	38	26	157.52	縄文・深鉢胴部1、土師器・甕胴部2	P94	3区	不明	不明	不明	(48)	(74)	20	(52)	164.69	

表7　宮ノ脇遺跡　石器計測表

No.	調査区	土層	出土年月日	器種	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
1	2区	包含層下位	020418	磨石？	70.5	58.9	23.1	139.37	
2	2区	包含層上位	020422	石錘	52.0	46.7	12.4	41.60	
3	2区	包含層上位	020422	石錘	(42.0)	(57.0)	12.7	(43.57)	破損
4	2区	包含層上位	020509	原石	51.5	37.4	29.3	76.31	黒曜石
5	2区	包含層下位	020522	剥片	22.4	11.3	5.1	1.12	黒曜石
6	2区	包含層下位	020522	剥片	22.1	8.6	6.8	1.11	黒曜石
7	2T		000524	剥片	42.5	26.1	12.9	13.18	瑪瑙　自然面残す

表8　宮ノ脇遺跡　鉄滓一覧表

遺物名	調査区	土層	日付	重量(g)	メタル度	磁着	備考	遺物名	調査区	土層	日付	重量(g)	メタル度	磁着	備考
鉄滓	1区		020415	42.49		無		鉄滓	1区	包含層上位	020513	14.86	H	有	
鉄滓	1区	包含層上位	020426	389.11		無		鉄滓	1区	包含層上位	020514	315.15	H	有	
鉄滓	1区	包含層上位	020430	1408.96		無		鉄滓	1区	包含層上位	020517	213.30	H	有	
鉄滓	1区	包含層上位	020502	522.32		無		鉄滓	1区	包含層上位	020520	255.33	H	有	
鉄滓	1区	包含層上位	020508	299.36		無		鉄滓	1区	包含層上位	020528	424.77	H	有	
鉄滓	1区	包含層上位	020508	50.69		無		鉄滓	1区	P54	020520	112.54	H	有	
鉄滓	1区	包含層上位	020509	1630.08		無		鉄滓	1区	SX04	020513	2.48	H	有	
鉄滓	1区	包含層上位	020510	26.05		無		鉄滓	1区	包含層上位	020514	38.90	M	有	
鉄滓	1区	包含層上位	020510	76.07		無		鉄滓	1区	包含層上位	020520	296.41	M	有	
鉄滓	1区	包含層上位	020513	750.25		無		鉄滓	2区	包含層上位	020419	377.96		有	酸化鉄
鉄滓	1区	包含層上位	020514	14.89		無		鉄滓	2区	包含層上位	020509	29.24		有	酸化鉄
鉄滓	1区	包含層上位	020514	694.07		無		鉄滓	2区	包含層上位	020422	114.09		有	酸化鉄
鉄滓	1区	包含層上位	020517	45.63		無		鉄滓	2区	包含層上位	020430	250.91		有	酸化鉄
鉄滓	1区	包含層上位	020520	523.52		無		鉄滓	2区	包含層上位	020425	50.09		有	酸化鉄
鉄滓	1区	包含層上位焼土	020528	2511.30		無		鉄滓	2区	包含層上位	020514	3.33		有	酸化鉄
鉄滓	1区	SX04	020513	32.07		無		鉄滓	2区	包含層上位	020510	5.25		有	酸化鉄
鉄滓	2区	包含層上位	020417	55.36		無		鉄滓	2区	包含層上位	020418	80.21		有	酸化鉄
鉄滓	2区	包含層上位	020417	70.23		無		鉄滓	2区	包含層上位	020426	56.94		有	酸化鉄
鉄滓	2区	包含層上位	020418	28.10		無		鉄滓	2区	包含層上位	020418	616.74	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020418	2580.00		無		鉄滓	2区	包含層上位	020418	36.74	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020419	1055.10		無		鉄滓	2区	包含層上位	020419	167.47	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020419	1714.50		無		鉄滓	2区	包含層上位	020419	719.07	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020422	11.62		無		鉄滓	2区	包含層上位	020422	682.88	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020422	2620.00		無		鉄滓	2区	包含層上位	020425	379.00	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020423	408.02		無		鉄滓	2区	包含層上位	020426	149.52	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020423	208.56		無		鉄滓	2区	包含層上位	020426	680.89	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020425	45.01		無		鉄滓	2区	包含層上位	020430	2280.00	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020425	1119.10		無		鉄滓	2区	包含層上位	020508	154.46	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020426	4460.00		無		鉄滓	2区	包含層上位	020508	17.93	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020426	39.23		無		鉄滓	2区	包含層上位	020509	1698.05	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020426	2100.00		無		鉄滓	2区	包含層上位	020510	350.76	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020430	2640.00		無		鉄滓	2区	包含層上位	020513	536.63	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020502	853.30		無		鉄滓	2区	包含層上位	020514	257.67	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020502	152.57		無		鉄滓	2区	包含層上位	020514	156.47	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020508	6.10		無		鉄滓	2区	包含層上位	020423	102.66	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020508	3240.00		無		鉄滓	2区	包含層上位	020425	40.43	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020509	1720.00		無		鉄滓	2区	SX02	020502	135.25	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020510	614.74		無		鉄滓	2区		020417	33.49	H	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020513	760.00		無		鉄滓	2区	包含層上位	020513	48.65	M	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020514	21.02		無		鉄滓	2区	包含層上位	020426	953.70	特L	有	
鉄滓	2区	包含層上位	020514	355.96		無		鉄滓	3区		020523	16.64		有	酸化鉄
鉄滓	2区	Pno.33	020430	5.30		無		鉄滓	3区		020529	69.45		有	酸化鉄
鉄滓	3区		020521	848.47		無		鉄滓	3区		020530	3.85		有	酸化鉄
鉄滓	3区		020522	1153.09		無		鉄滓	3区		020530	15.19		有	酸化鉄
鉄滓	3区		020523	1272.98		無		鉄滓	3区		020603	77.84		有	酸化鉄
鉄滓	3区		020528	159.07		無		鉄滓	3区		020604	41.43		有	酸化鉄
鉄滓	3区		020529	4240.00		無		鉄滓	3区	P87	020604	40.23		有	酸化鉄
鉄滓	3区		020529	4920.00		無		鉄滓	3区		020521	61.63	H	有	
鉄滓	3区		020530	1034.00		無		鉄滓	3区		020522	134.35	H	有	
鉄滓	3区		020530	561.43		無		鉄滓	3区		020523	142.18	H	有	
鉄滓	3区		020530	3060.00		無		鉄滓	3区		020529	1628.13	H	有	
鉄滓	3区		020530	1694.70		無		鉄滓	3区		020529	2220.00	H	有	
鉄滓	3区		020531	1368.00		無		鉄滓	3区		020530	642.45	H	有	
鉄滓	3区		020531	1233.30		無		鉄滓	3区		020530	617.70	H	有	
鉄滓	3区		020603	2140.00		無		鉄滓	3区		020530	20.40	H	有	
鉄滓	3区		020603	1199.50		無		鉄滓	3区		020530	390.99	H	有	
鉄滓	3区		020604	182.31		無		鉄滓	3区		020531	2360.00	H	有	
鉄滓	3区		020604	347.60		無		鉄滓	3区		020531	984.91	H	有	
鉄滓	3区		020605	399.36		無		鉄滓	3区		020603	110.75	H	有	
鉄滓	3区		020605	33.88		無		鉄滓	3区		020603	1108.86	H	有	
鉄滓	3区	P61	020605	143.07		無		鉄滓	3区		020604	60.62	H	有	
鉄滓	3区	P66	020605	241.08		無		鉄滓	3区		020605	31.24	H	有	
鉄滓	3区	P71	020605	21.35		無		鉄滓	3区	P71	020605	26.90	H	有	
鉄滓	3区	P72	020605	252.78		無		鉄滓	3区	P72	020605	43.45	H	有	
鉄滓	3区	P79	020604	74.29		無		鉄滓	3区	P79	020604	23.11	H	有	
鉄滓	3区	P79	020605	174.50		無		鉄滓	3区	P82	020604	291.55	H	有	
鉄滓	3区	P82	020604	290.75		無		鉄滓	3区	P83	020605	8.87	H	有	
鉄滓	3区	P83	020605	104.35		無		鉄滓	3区	P84	020605	72.60	H	有	
鉄滓	3区	P84	020605	80.34		無		鉄滓	3区		020523	686.46	M	有	
鉄滓	3区	P85	020605	277.48		無		鉄滓	3区		020530	80.49	M	有	
鉄滓	3区	P86	020605	113.88		無		炉壁	1区	包含層上位	020430	36.95			30－103
鉄滓	3区	P90	020605	107.15		無		炉壁	2区	包含層上位	020419	558.83			30－100
鉄滓	1区	包含層上位	020509	25.36		有	酸化鉄	炉壁	2区	包含層上位	020422	417.83			30－99
鉄滓	1区	包含層上位	020517	10.20		有	酸化鉄	炉壁	2区	包含層上位	020509	71.98			
鉄滓	1区	包含層上位	020520	16.24		有	酸化鉄	炉壁	2区	包含層上位	020423	106.91			
鉄滓	1区	包含層上位	020528	82.77		有	酸化鉄	炉壁	2区	包含層上位	020510	10.15			
鉄滓	1区	P54	020520	9.61		有	酸化鉄	炉壁	2区	包含層上位	020418	72.43			
鉄滓	3区	P93	020605	123.66		無		炉壁	2区	包含層上位	020425	34.74			
鉄滓	1区	包含層上位	020415	199.90	H	有		炉壁	2区	包含層上位	020418	99.45			
鉄滓	1区	包含層上位	020426	16.99	H	有		炉壁	2区	包含層上位	020426	31.14			
鉄滓	1区	包含層上位	020430	1857.64	H	有		炉壁	2区	包含層上位	020425	44.83			
鉄滓	1区	包含層上位	020502	65.69	H	有		炉壁	2区	包含層上位	020419	44.66			30－102
鉄滓	1区	包含層上位	020508	110.40	H	有		炉壁	2区	包含層上位	020422	79.01			
鉄滓	1区	包含層上位	020509	709.01	H	有		炉壁	2区	包含層上位	020419	142.81			30－101
鉄滓	1区	包含層上位	020513	178.85	H	有		炉壁	2区	包含層上位	020419	35.55			

表9　家の後Ⅱ遺跡　土坑一覧表

遺構名	位置	挿図	写真図版	上面の形態	規模（m）				深さ(m)	備考	上場での長短比	下場での長短比	時期	旧遺構名
					上端		下端							
					長軸	短軸	長軸	短軸						
配石土坑1	3KI	33	18－1	長方形	1.54	1.05	1.12	0.90	0.32		1.47	1.24	晩期	SK56
配石土坑2	4KI	33	18－2	長方形	1.28	0.81	1.00	0.65	0.25		1.58	1.54	晩期	SK59
土坑1	3O	34		楕円形	1.51	1.30	0.90	0.60	0.70	磨石・敲石あり	1.16	1.50	晩期	SK03
土坑2	3E	34	19－1	楕円形	1.36	1.16	1.06	0.83	0.88		1.17	1.28	晩期	SK06
土坑3	3E	35	19－2	楕円形	1.83	1.21	1.45	0.98	0.83	石錘あり	1.51	1.48	晩期	SK04
土坑4	2U	35	19－3	楕円形	1.36	0.87	0.60	0.47	0.81		1.56	1.28	晩期後葉	SK11
土坑5	3O	35	20－1	楕円形	1.09	0.83	0.62	0.60	0.53		1.31	1.03	晩期？	SK17
土坑6	3E	36		楕円形	1.58	1.05	1.22	0.73	0.85		1.50	1.67	晩期	SK08
土坑7	3E	36	20－2	楕円形	1.10	0.98	0.81	0.74	0.90		1.12	1.09	晩期後葉	SK10
土坑8	2U	36		楕円形	1.18	0.86	0.52	0.40	0.84		1.37	1.30	晩期	SK12
土坑9	3I	37	20－3	円形	1.05	1.02	0.94	0.90	0.53		1.03	1.04	晩期	SK16
土坑10	3E	37	21－1	楕円形	1.31	0.99	1.11	0.90	0.79		1.32	1.23	晩期	SK20
土坑11	3E	37	21－2	楕円形	1.18	0.85	0.92	0.65	0.86		1.39	1.42	晩期？	SK22
土坑12	4E	37	21－3	楕円形	1.26	1.02	1.09	0.92	0.58		1.24	1.18	晩期	SK24
土坑13	4E	38	22－1	楕円形	1.17	1.05	0.94	0.80	0.59		1.11	1.18	晩期	SK23
土坑14	4E	38		円形	0.88	0.83	0.67	0.60	0.38		1.06	1.12	晩期？	SK25
土坑15	3U	38		楕円形	1.31	1.06	1.23	1.03	0.56		1.24	1.19		SK29
土坑16	4O	38		円形	1.05	1.03	0.97	0.95	0.54		1.02	1.02	晩期～晩期後葉	SK28
土坑17	4O	38	22－2	楕円形	1.10	0.75	0.96	0.61	0.26		1.47	1.57		SK26
土坑18	3O	39	22－3	楕円形	1.65	1.20	1.21	0.51	1.12	石皿あり	1.38	2.37	晩期～晩期後葉	SK19
土坑19	3O	39	23－1	円形	0.83	0.77	0.51	0.44	0.41	柱痕？	1.08	1.16	晩期？	SK36
土坑20	2O	39	23－2	楕円形	1.08	0.64	0.84	0.42	0.41		1.69	2.00	晩期？	SK38
土坑21	5E	40	23－3	円形	0.98	0.93	0.95	0.91	0.26		1.05	1.04	晩期？	SK45
土坑22	5O	40	24－1	楕円形	1.11	0.87	0.95	0.68	0.35		1.28	1.40		SK46
土坑23	4KI	40	24－3	円形	1.05	(0.96)	0.87	(0.85)	0.33				晩期後葉	SK70
土坑24	4KA	40	24－2	楕円形	0.80	0.67	0.46	0.45	0.25		1.19	1.02		SK51
土坑25	4KA	40	24－4	楕円形	0.82	0.71	0.69	0.59	0.31		1.15	1.17	晩期？	SK50
土坑26	3E	41		長楕円形	1.67	0.97	1.32	0.58	0.76		1.72	2.28	晩期？	SK13
土坑27	3O	41	20－1	長楕円形	1.16	0.70	0.88	0.48	0.38		1.66	1.83	晩期？	SK15
土坑28	5O	41	25－1	長楕円形	1.12	(0.89)	1.04	(0.85)	0.30				晩期？	SK47
土坑29	5KA	42	25－2	長楕円形	1.33	0.92	1.14	0.77	0.59		1.45	1.48	晩期？	SK54
土坑30	4KI	42	25－3	長楕円形	1.45	－	1.34	－	0.33	石錘・石錐あり			晩期	SK63
土坑31	2O	43	26－1	不整形	1.10	(0.71)	0.83	0.44	0.31	撹乱	1.55	1.89	晩期？	SK37
土坑32	4O	43	26－2	不整形	1.05	0.72	0.56	0.48	0.47		1.46	1.17	晩期？	SK48
土坑33	4KA	43	26－3	楕円形	0.95	0.79	0.84	0.63	0.33		1.20	1.33		SK53
土坑34	5KI	43	27－1	楕円形	1.07	0.53	0.82	0.50	0.34		2.02	1.64		SK71
土坑35	4KE	44	27－2	楕円形	0.80	0.79	0.42	0.33	0.50		1.01	1.27		SK67
土坑36	4KE	44	27－3	楕円形	0.92	0.70	0.54	0.31	0.50		1.31	1.74	晩期	SK68
土坑37	2E	44	28	楕円形	1.50	0.85				切り合い	1.76			
				円形	－	－	0.56	0.34	0.67			1.65	晩期？	SK09
				円形	0.89	0.77	0.68	0.47	1.06		1.16	1.45		
土坑38	4KA	45		不整形	1.85	1.10	1.60	1.00	0.20	多数の土器出土	1.68	1.60	晩期	SK55
土坑39	2E	46	29－1	楕円形	1.79	1.00	1.50	0.81	0.96	切り合い	1.79	1.85	晩期	SK05
土坑40	2O	46	29－2	長楕円形	2.65	1.09				切り合い	2.43			
				楕円形	1.45	1.07	0.90	0.56	0.78		1.36	1.61	晩期？	SK18
				楕円形	0.90	0.80	0.66	0.55	0.62		1.13	1.20		
土坑41	2E	47	29－3	長楕円形	2.00	1.18	0.81	0.74	1.35		1.69	1.09	後期中葉～晩期後葉	SK07
土坑42	3O	48	30－1	不整形	2.30	1.92	2.10	1.70	1.03	切り合い	1.20	1.24	晩期	SK14
土坑43	3O	48	30－2	長楕円形	1.81	0.65				切り合い	2.78			
				円形	0.93	0.91	0.88	0.83	0.68		1.02	1.06	晩期？	SK21
				円形	0.79	0.67	0.64	0.45	0.58		1.18	1.42		
土坑44	3KI	49	30－3	長楕円形	1.80	1.10	1.37	0.65	0.40		1.64	2.11	晩期	SK57
土坑45	3KI	49	31－1	長楕円形	2.60	1.16	1.75	0.57	0.39		2.24	3.07	晩期？	SK62
土坑46	3O	50		楕円形	1.31	1.01	0.77	0.75	0.30		1.30	1.03	晩期？	SK01
土坑47	3O	50	31－2	楕円形	1.31	1.16	0.95	0.79	0.66		1.13	1.20	晩期？	SK02
土坑48	4O	50		楕円形	0.86	0.60	0.41	0.29	0.39		1.43	1.41	晩期？	SK49
土坑49	4KI	50		楕円形	0.92	0.77	0.70	0.60	0.20		1.19	1.17	晩期	SK60
土坑50	4KI	50		楕円形	1.08	0.80	0.80	0.50	0.50		1.35	1.60	晩期	SK61
土坑51	4KA	50		楕円形	0.77	0.60	0.68	0.46	0.18		1.28	1.48	晩期	SK69
土坑52	6KU	58	35－1	不整形	2.57	2.05	2.24	1.64	0.27		1.25	1.37	中世(15世紀代)	SK35
土坑53	7O	58	35－2	円形	1.18	0.99	0.58	0.51	0.69		1.19	1.14	中世	SK30
土坑54	8KE	58	35－3	楕円形	0.93	0.61	0.69	0.45	0.33	鉄滓	1.52	1.53	中世	SK34
土坑55	8O	59		不整形	2.98	2.44	2.71	2.36	0.28		1.22	1.15	中世(16世紀代)	SK31
土坑56	6KI	59		円形	1.07	1.02	0.49	0.48	0.24		1.05	1.02	中世	SK32
土坑57	7KI	59		不整形	1.54	1.15	1.16	0.89	0.35		1.34	1.30	中世	SK33

※（）は現在の規模を示す。

表10　家の後Ⅱ遺跡　建物一覧表

建物	挿図	写真図版	柱間	梁行(m)	桁行(m)	梁間(尺)※	桁間(尺)※	面積(㎡)	備考	主軸	地区	時代	旧遺構名
1	53	32−2	1間×2間	4.5	10.2	15	11.12	45.9		N43° W	7U.7E.8E	中世	2
2	53	33−1	1間×2間	2.4	5.4	8	9	13.0		N44° W	6KU.7KU	中世	5
3	54	33−2	1間×2間	4.8	7.8	16	8.10	37.4		N43° W	5KI.5KU.6KI.6KU	中世	4
4	55		1間×2間以上	5.1	(4.2)	17	7	(21.4)		N33° E	3KE	中世	21
5	55	36−3	1間×3間	3.0	6.9	10	7.8	20.7		N34° E	4KU.4KE	中世	19
6	56		1間×1間	3.3	4.2	11	14	13.9		N49° E	6E.6O.7E.7O	中世	6
7	56	34−1	1間×2間	3.0	4.2	10	7	12.6		N36° E	6YO	中世	9
8	57		1間×2間	3.6	6.9	12	9.14	24.8		N41° W	4I.4U.5I.5U	中世？	1
9	57	32−2	1間×2間	4.5	4.5	15	7.13	20.3		N49° E	7E.7O.8E.8O	中世？	3
10	60	36−1	1間×4間	4.8	9.0	16	6.7.8.9	43.2		N50° E	5I.6A.6I	近世（17世紀）	7
11	61	36−1	2間×5間	5.7	10.8	7.12	7.8	61.6		N50° E	5A.5I.6A.6	近世（17世紀）	8
12	62		2間以上×5間以上	(3.6)	(13.2)	6	6.7	(47.5)		N60° W	4KO.5KO	近世（17世紀）	22
13	62		1間×3間	2.4	7.2	8	8	17.3		N51° W	4KU.5KU	近世（19世紀）	23
14	63	36−2	2間×2間以上	6.0	(4.2)	10	7	(25.2)		N43° E	4WA.5WA	近世（18世紀）	10
15	63	37−1	1間×3間	4.5	6.3	15	7	28.4		N64° W	3KI.4KI	近世（19世紀）	14
16	64	37−2	1間×4間	5.4	8.4	18	7	45.4		N60° W	3KI.4KI.4KU	近世（19世紀）	15
17	64		？×4間以上		(9.6)		7.9			N44° E	5KO.6KO	近世	17
18	65	36−2	1間×2間	3.6	6.6	12	11	23.8		N50° W	5WA	近世	11
19	65	36−2	1間×2間	3.9	4.2	13	7	16.4		N48° W	4A.5WA.5A	近世	12
20	66	36−3	1間×3間	3.0	6.3	10	7	18.9		N40° E	4KE	近世？	16
21	66	37−3	1間×4間	4.8	8.7	16	7.8	41.8		N34° E	5KU.5KE.6KU.6KE	近世？	18
22	67		1間×5間	4.8	10.8	16	7	51.8		N58° W	3KE.4KU.4KE	不明	20
23	68	36−2	1間×2間	1.8	4.2	6	7	7.6		N45° E	5A.5I.6A.6	不明	23
24	68		1間×2間	2.7	4.2	9	7	11.3		N62° W	4KA.4KI	不明	24
柵1	54		8間×2間×2間	6.7	14.7		4.5.7.8.10.12		建物3に伴う	N47° E N43° W	5KA.5KI.5KU.6KI.6KU	中世	柵1
柵2	66		4間		8.7		7.8.		建物21に伴う	N34° E	5KO.6KO	近世？	柵2
柵3	69		4間以上		(7.2)		6			N24° E	5KO.6KO	近世	柵3
柵4	69		4間以上		(9.6)		8			N60° W	3KE.4KE.4KO	近世	柵4

※1尺は30cmと仮定して計算した。
（ ）は現存の規模を示す。

表11　家の後Ⅱ遺跡　建物計測表

掘立柱建物1計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				2			
主軸		N43° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	65×30	70×70	40×30	34×30	47×36	45×42	38×35	45×34
	底の標高(m)	156.56	156.78	156.61	156.68	156.55	156.73	156.77	156.95
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P1
		3.50	3.10	3.70	4.50	3.50	3.50	3.50	4.50

掘立柱建物2計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				2			
主軸		N44° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径(cm)	78×63	45×40	63×50	55×40	53×50	62×60		
	底の標高(m)	157.14	157.24	157.25	157.18	157.30	157.10		
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P1		
		2.65	2.70	3.20	2.60	2.90	3.60		

掘立柱建物3計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				3			
主軸		N43° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	83×？	88×74	45×44	52×45	65×50	65×44	37×35	54×47
	底の標高(m)	156.88	157.04	157.12	157.12	157.06	157.20	157.06	157.14
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P1
		4.52	3.20	2.30	2.30	4.70	2.35	2.35	3.08

掘立柱建物4計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				2以上			
主軸		N33° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径(cm)	73×55	65×55	88×65	68×49	62×60	66×55		
	底の標高(m)	156.77	156.81	156.70	156.75	156.80	156.74		
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6			
		2.45	2.10	5.20	2.00	2.80			

掘立柱建物5計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				3			
主軸		N34° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	55×43	54×44	57×55	70×(63)	127×(98)	50×47	57×30	85×59
	底の標高(m)	156.78	156.94	156.83	156.67	156.86	157.02	156.97	156.84
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P1
		2.20	2.60	2.10	3.20	2.10	2.90	2.30	2.40

掘立柱建物6計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				1			
主軸		N44° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4				
	上面径(cm)	44×28	20×( )	30×23	34×28				
	底の標高(m)	156.59	156.82	156.90	156.92				
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P1				
		4.10	3.45	4.05	3.25				

掘立柱建物7計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				2			
主軸		N36° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径(cm)	91×78	85×38	43×34	100×32	65×58	78×45		
	底の標高(m)	155.72	155.75	155.53	155.54	155.76	155.76		
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P1		
		2.30	2.10	2.90	2.10	2.00	2.80		

掘立柱建物8計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				2			
主軸		N41° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径(cm)	30×28	32×28	30×30	35×33	35×30	52×35		
	底の標高(m)	156.75	156.97	156.76	156.88	156.92	156.84		
柱間距離(m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P1		
		2.75	4.15	3.45	4.10	2.65	3.75		

掘立柱建物9計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				2			
主軸		N49° E（N41° W）							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径(cm)	42×40	55×40	44×40	60×45	52×44	38×38		
	底の標高(m)	156.76	156.63	156.90	156.78	156.92	156.86		
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P1		
		4.00	2.00	6.00	2.00	4.10	5.90		

掘立柱建物10計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				4			
主軸		N50° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	108×86	115×84	98×93	109×82	133×114	105×64	85×64	145×140
	底の標高(m)	156.34	156.20	156.37	156.31	156.28	156.24	156.34	156.20
	番号	P9	P10						
	上面径(cm)	170×123	84×75						
	底の標高(m)	156.24	156.20						
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P9
		5.10	1.80	2.10	2.30	2.90	5.00	3.00	2.50
		P9-P10	P10-P1						
		2.30	1.50						

掘立柱建物11計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2				5			
主軸		N50° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	66×54	68×67	70×50	59×55	83×50	82×45	56×49	67×49
	底の標高(m)	156.32	156.38	156.38	156.34	156.42	156.28	156.32	156.32
	番号	P9	P10	P11	P12	P13	P14		
	上面径(cm)	105×75	75×70	64×55	75×51	61×46	69×61		
	底の標高(m)	156.20	156.25	156.36	156.34	156.36	156.29		
柱間距離(m)		P1-P2	P2-P3	P3-P4	P4-P5	P5-P6	P6-P7	P7-P8	P8-P9
		2.40	3.50	2.10	1.70	2.60	2.20	2.20	3.70
		P9－P10	P10－P11	P11－P12	P12－P13	P13－P14	P14－P1		
		2.20	2.30	2.20	2.20	2.10	2.10		

掘立柱建物12計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1以上				5			
主軸		N60° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	49×34	32×28	61×49	54×51	89×58	53×51	35×31	65×55
	底の標高(m)	156.93	157.00	156.99	156.66	156.84	156.81	157.02	156.73
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	
		1.70	1.90	2.00	2.20	1.80	2.10	1.50	

掘立柱建物13計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				3			
主軸		N51° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	
	上面径(cm)	94×88	109×93	125×68	95×87	92×64	70×52	85×56	
	底の標高(m)	156.5	156.82	156.61	156.73	156.78	156.72	156.81	
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P1	
		2.30	2.20	2.30	2.60	4.30	2.50	2.30	

掘立柱建物14計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2				2以上			
主軸		N43° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	
	上面径(cm)	173×140	103×91	106×95	77×46	174×124	92×61	72×62	
	底の標高(m)	155.80	155.94	155.88	156.21	155.80	156.06	156.22	
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7		
		2.20	2.10	3.20	3.00	2.00	2.20		

掘立柱建物15計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				3			
主軸		N64° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径(cm)	92×58	90×78	128×85	155×90	145×80			
	底の標高(m)	156.78	156.40	156.47	156.42	156.51			
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5				
		4.40	2.10	2.00	1.80				

掘立柱建物16計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				4			
主軸		N60° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	211×110	229×89	142×95	158×100	130×88	90×78	145×85	110×82
	底の標高(m)	156.42	156.58	156.59	156.52	156.50	156.44	156.46	156.76
	番号	P9							
	上面径(cm)	120×100							
	底の標高(m)	156.40							
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P9
		2.50	1.80	2.10	2.30	5.10	2.50	2.00	1.70

掘立柱建物17計測表

規模		梁行き				桁行き			
						4以上			
主軸		N44° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径(cm)	90×69	85×69	68×67	70×66	75×64			
	底の標高(m)	156.7	156.52	156.65	156.58	156.52			
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5				
		2.90	2.70	2.30	2.20				

掘立柱建物18計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				2			
主軸		N48° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径(cm)	36×35	120×94	46×35	142×83	110×？	160×？		
	底の標高(m)	156.16	155.94	156.28	155.92	156.05	155.96		
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P1		
		3.60	3.40	3.50	3.40	3.50	3.80		

掘立柱建物19計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				2			
主軸		N48° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径(cm)	100×80	86×83	100×81	60×56	38×35	44×43		
	底の標高(m)	155.82	155.90	155.92	156.24	156.38	156.30		
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P1		
		2.20	2.20	3.80	1.90	2.20	4.10		

掘立柱建物20計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				3			
主軸		N40° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	49×45	40×35	62×60	48×46	70×48	61×60	57×50	68×52
	底の標高(m)	156.82	156.81	156.88	157.02	156.81	156.95	156.84	156.54
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P1
		2.10	2.20	2.15	2.80	1.99	2.00	2.40	3.03

掘立柱建物21計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				4			
主軸		N34° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	56×50	55×43	48×40	68×54	70×54	67×42	49×43	61×45
	底の標高(m)	156.78	156.54	157.05	156.95	157.01	156.89	156.97	156.95
	番号	P9							
	上面径(cm)	53×50							
	底の標高(m)	156.99							
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P9
		2.30	4.40	1.95	4.95	2.10	2.00	2.15	2.50
		P9－P1							
		4.80							

掘立柱建物22計測表

規模		梁行き				桁行き			
		1				5			
主軸		N58° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	50×51	89×41	43×40	75×60	89×72	80×50	98×44	82×47
	底の標高(m)	156.72	156.55	156.92	156.72	156.78	156.84	156.80	156.62
	番号	P9	P10	P11					
	上面径(cm)	69×65	64×56	95×69					
	底の標高(m)	156.73	156.65	156.58					
柱間距離(m)		P1－P2	P2－P3	P3－P4	P4－P5	P5－P6	P6－P7	P7－P8	P8－P9
		4.60	2.00	2.40	2.00	2.05	2.25	5.60	2.10
		P9－P10	P10－P11	P11－P1					
		2.15	4.15	2.05					

掘立柱建物23計測表

規模		梁行き 1				桁行き 2			
主軸		N45° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径(cm)	70×53	68×50	27×23	30×28	40×35	50×36		
	底の標高(m)	156.26	156.42	156.46	156.35	156.38	156.30		
柱間距離(m)		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P5	P5−P6	P6−P1		
		2.30	2.00	1.80	2.10	2.00	1.80		

掘立柱建物24計測表

規模		梁行き 1				桁行き 2			
主軸		N62° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6		
	上面径(cm)	123×86	129×88	87×66	115×78	70×67	107×85		
	底の標高(m)	156.5	156.46	156.48	156.48	156.44	156.48		
柱間距離(m)		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P5	P5−P6	P6−P1		
		2.36	1.94	2.62	2.00	2.15	2.80		

柵1計測表　掘立柱建物3に伴う

規模		8×2×2間							
主軸									
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
	上面径(cm)	42×37	50×36	36×30	38×37	29×20	34×31	29×28	23×19
	底の標高(m)	157.26	157.26	157.22	157.23	157.42	157.34	157.28	157.55
	番号	P9	P10	P11	P12	P13			
	上面径(cm)	42×31	40×33	38×34	24×20	30×25			
	底の標高(m)	157.37	157.44	157.22	157.46	157.36			
柱間距離(m)		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P5	P5−P6	P6−P7	P7−P8	P8−P9
		2.20	1.20	2.40	1.35	1.50	2.25	2.40	1.05
		P9−P10	P10−P11	P11−P12	P12−P13				
		3.80	3.00	2.35	1.10				

柵2計測表　掘立柱建物21に伴う

規模		4間							
主軸		N34° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径(cm)	40×31	39×33	43×38	40×33	62×50			
	底の標高(m)	157.03	157.12	157.15	157.06	157.30			
柱間距離(m)		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P5				
		2.44	2.32	1.96	2.08				

柵3計測表

規模		4間							
主軸		N24° E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径(cm)	66×42	79×73	66×39	68×53	81×44			
	底の標高(m)	166.80	156.84	156.72	156.78	156.89			
柱間距離(m)		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P5				
		2.08	1.60	2.00	1.44				

柵4計測表

規模		4間							
主軸		N60° W							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5			
	上面径(cm)	59×50	109×88	32×32	59×44	60×51			
	底の標高(m)	156.85	156.95	157.03	156.97	156.87			
柱間距離(m)		P1−P2	P2−P3	P3−P4	P4−P5				
		2.48	2.32	2.24	2.56				

表12−1　家の後Ⅱ遺跡　土器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	土器型式／時期	遺構名	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
31	1	42	縄文土器	深鉢	晩期？	35トレンチ	口縁端部刻み	明黄褐色(10YR6/8)	浅黄橙色(10YR8/4)
31	2	42	縄文土器	深鉢	晩期？	35トレンチ	ナデ、ケズリ	黄橙色(10YR8/8)	褐灰色(10YR6/1)
31	3	42	中世土師器	坏	鎌倉時代？	35トレンチ	底径6.4cm	にぶい黄橙色(10YR7/4)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
31	4	42	瓷器系陶器	壺	中世	34トレンチ		にぶい橙色(5YR6/4)	黄灰色(2.5Y5/1)
31	5	42	珠洲焼	擂鉢	15世紀代	35トレンチ	口縁端部に波状文	緑灰色(10GY5/1)	緑灰色(10GY5/2)
82	6	43	縄文土器	深鉢	晩期	土器埋設遺構1	復元口径29.5cm、胴径34.0cm、器高38.4cm、尖底、ケズリ、ナデ	明黄褐色(10YR6/6)	にぶい黄褐色(10YR5/4)
82	7	42	縄文土器	深鉢	晩期	土器埋設遺構2	残存率20%、ナデ	明黄褐色(10YR6/8)	黄褐色(10YR5/8)
82	8	43	縄文土器	深鉢	晩期	土器埋設遺構3	現存部最大径36.4cm、丸底、ケズリ、ナデ	明黄褐色(10YR6/6)	明黄褐色(10YR6/6)
82	9	42	縄文土器	深鉢	晩期	土器埋設遺構4	口縁端部刺突、ケズリ、ナデ	褐色　(2.5Y7/6)	褐色　(2.5Y8/3)
82	10	42	縄文土器	深鉢	晩期	土器埋設遺構4	ケズリ、条痕	褐色　(10YR4/4)	オリーブ黒色(7.5Y3/1)
82	11	42	縄文土器	深鉢	晩期	土器埋設遺構4	条痕、ナデ	暗褐色(2.5Y4/2)	暗褐色(2.5Y4/2)
82	12	42	縄文土器	浅鉢	晩期	土器埋設遺構4	ケズリ、ナデ、外面炭化物付着	黒褐色(10YR3/1)	黄橙色(2.5Y5/6)
83	13	44上	縄文土器	深鉢	晩期	配石土坑1	口縁端部に刺突、ケズリ、ナデ	黒褐色(2.5Y3/2)	黒褐色(2.5Y3/2)
83	14	44上	縄文土器	深鉢	晩期	配石土坑2	ケズリ後ナデ	黒褐色(2.5Y3/1)	黒褐色(2.5Y3/1)
83	15	44上	縄文土器	深鉢	晩期？	配石土坑2	ナデ	暗灰黄色(2.5Y4/2)	暗灰黄色(2.5Y4/2)
83	16	44上	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑1	ケズリ、ナデ	オリーブ黒色(5Y3/1)	浅黄橙色(10YR8/3)
83	17	44上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑1	口縁端部はV字の刻み、ナデ	黒色　(10YR2/1)	黒色　(10YR2/1)
83	18	44上	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑2	ケズリ、ナデ	橙色　(10YR4/6)	黄褐色　(10YR5/6)
83	19	44上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑2	口縁内面に円形の刺突、条痕	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄色(2.5Y8/4)
83	20	44上	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑2	ナデ	暗黄褐色(10YR5/3)	暗黄褐色(10YR5/3)
83	21	44上	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑3	口縁端部面を持つ、ケズリ後ナデ	明褐色(7.5YR5/6)	にぶい黄橙色(10YR6/4)
83	22	44上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑3	口縁内面に鋭い刻み、ナデ	橙色　(7.5YR6/8)	にぶい褐色(7.5YR5/4)
83	23	44上	縄文土器	浅鉢	晩期	土坑3	3本の沈線、ミガキ	褐灰色(10YR5/1)	褐灰色(10YR5/1)
83	24	44上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	土坑4	口縁端部刻み、突帯はD字刻み	黒褐色(2.5Y3/2)	黒褐色(2.5Y3/2)
83	25	44上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑6	口縁内側に半截竹管で押引、条痕、ナデ	黄褐色(10YR5/6)	黄褐色(10YR5/6)
83	26	44上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	土坑7	口縁端部刻み、突帯はD字刻み	黄橙色(10YR7/8)	にぶい黄橙色(10YR6/4)
83	27	44上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑9	口縁端部刻み、ケズリ、ナデ	にぶい黄橙色(10YR4/3)	黄橙色(10YR7/8)
83	28	44上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑10	口縁端部刻み、ケズリ、ナデ	黒色　(10YR2/1)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
83	29	44上	縄文土器	浅鉢	晩期	土坑10	口径38.8cm、残存率15%、ケズリ、ミガキ	暗褐色(10Y3/1)	暗褐色(10Y3/1)
83	30	44上	縄文土器	深鉢？	晩期	土坑11	ケズリ	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄色(2.5Y8/4)
83	31	44上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑12	口縁端部刻み、ケズリ、ナデ	暗褐色(10YR3/4)	褐灰色(10YR5/1)
83	32	44上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑13	口縁内側に逆C字の刺突、外面には竹管状工具の刺突文、条痕	暗褐色(10YR3/3)	黒褐色(10YR3/1)
83	33	44上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑13	口縁内側に刺突、ナデ	褐色　(10YR4/4)	黒色　(2.5Y2/1)
83	34	44上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑13	ケズリ、ナデ	黄橙色(10YR7/8)	浅黄橙色(10YR8/4)
83	35	44上	縄文土器	壺	晩期	土坑13	口径9.8cm、残存率20%、ミガキ、薄く赤彩が見られる	暗褐色(10YR3/1)	暗褐色(10YR3/1)
83	36	44上	縄文土器	浅鉢	晩期	土坑13	口径36.2cm、残存率13%、ケズリ、ミガキ	淡橙褐色(10YR8/6)	淡橙褐色(10YR8/6)
84	37	44下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑16	口縁内側は寝かせた半截竹管で刺突、ケズリ、ナデ	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR7/8)
84	38	44下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑16	口縁内側は半截竹管で刺突、ケズリ、ナデ	浅黄橙色(10YR8/3)	浅黄橙色(10YR8/3)
84	39	44下	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑16	ナデ	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
84	40	44下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑16	口縁端部V字の刻み、ケズリ	褐色　(10YR4/4)	にぶい黄褐色(10YR5/4)
84	41	44下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑16	口縁端部刺突、ケズリ、条痕	褐色　(2.5Y5/2)	褐色　(2.5Y5/2)
84	42	44下	縄文土器	壺	晩期	土坑16	口径11.2cm, 残存率30%、二条の突帯、ケズリ、ナデ	暗橙褐色(7.5YR4/3)	暗橙褐色(7.5YR4/3)
84	43	44下	縄文土器	浅鉢	晩期	土坑16	口縁内面肥厚、ミガキ	褐灰色(10YR4/1)	オリーブ黒色(7.5Y3/1)
84	44	44下	縄文土器	浅鉢	晩期	土坑16	補修孔、ミガキ	浅黄橙色(10YR8/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
84	45	44下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑16	内面に沈線、ミガキ	黒褐色(2.5Y3/1)	黒褐色(2.5Y3/1)
84	46	44下	縄文土器	深鉢？	権現山式(新)	土坑18	口縁内側に刻み	黄橙色(7.5YR7/8)	黄橙色(7.5YR7/8)
84	47	44下	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑18	口縁の下に3本の沈線、ナデ、ケズリ	にぶい黄褐色(10YR5/4)	暗褐色(10YR3/3)
84	48	44下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑18	口縁端部刻み、ケズリ	黄橙色(10YR8/6)	褐灰色(10YR6/1)
84	49	44下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑18	口縁端部刻み、ナデ	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄色(2.5Y8/4)
84	50	44下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑18	口縁内側に竹管状工具で刺突、外面へ刺突が突出、ナデ	明黄褐色(10YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)
84	51	44下	縄文土器	深鉢	古海式？	土坑18	小さな刻み突帯	明黄褐色(10YR6/8)	明黄褐色(10YR6/8)
84	52	44下	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	土坑23	口縁端部刻み、突帯はD字刻み、ナデ	淡黄色(2.5Y8/4)	黒褐色(2.5Y3/1)
84	53	44下	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅲ期	土坑23	胴部突帯、突帯は大きなD字刻み	橙色　(7.5YR6/6)	黄橙色(10YR7/4)
84	54	44下	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑28	底径6.2cm、ケズリ、ナデ	褐灰色(10YR4/1)	褐灰色(10YR4/1)
84	55	44下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑30	端部は貝による刻み、ナデ、ケズリ	黒褐色(2.5Y3/2)	オリーブ黒色(2.5Y4/3)
84	56	44下	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑30	ケズリ、条痕後ナデ	暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)	黒褐色(2.5Y3/1)
84	57	44下	縄文土器	注口土器	権現山式	土坑36	口径16.0cm、最大径20.0cm、残存率10%、ミガキ、ナデ	褐灰色(10YR6/1)	黒褐色(10YR3/1)
84	58	44下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑39	口縁端部刻み、条痕	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR7/8)
84	59	44下	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑39	外面被熱、ナデ	橙色　(5YR7/8)	黒褐色(10YR3/1)
84	60	45上	縄文土器	深鉢	権現山式	土坑41	半截竹管による刺突、ナデ	黄橙色(10YR7/8)	浅黄橙色(10YR8/4)
84	61	45上	縄文土器	注口土器	権現山式(新)	土坑41	擬縄文	淡黄色(2.5Y8/3)	黄灰色(2.5Y5/1)
84	62	45上	縄文土器	浅鉢	晩期	土坑41	ケズリ、ナデ	灰色　(5Y4/1)	灰黄色(2.5Y6/2)
84	63	45上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	土坑41	口縁端部刻み、突帯はD字刻み、同時に刻みを施す	暗褐色(10YR3/3)	褐灰色(10YR5/1)
84	64	45上	縄文土器	浅鉢	晩期	土坑41	底径8.2cm、残存率16%	黒褐色(10YR3/2)	黒褐色(10YR3/2)
85	65	45上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	口径39.6cm、残存率10%、条痕	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
85	66	46	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	口径32.5cm、残存率45%、端部刺突、痕跡的な平底、ケズリ、ナデ	黄橙色(10YR7/8)	浅黄橙色(10YR8/4)
85	67	45下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	口径21.0cm、胴径22.0cm、残存率10%、ケズリ、条痕	黒褐色(10YR3/2)	黒褐色(10YR3/2)
85	68	45下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	胴径32.0cm、残存率25%、胴部に棒状工具の刺突２列、条痕、ケズリ	浅黄橙色(7.5YR8/6)	黄灰色(2.5Y5/1)
85	69	45上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	口径37.0cm、残存率10%、端部刻み、半截竹管の押引、条痕、ケズリ	黄橙色(10YR7/8)	浅黄橙色(10YR8/3)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	土器型式／時期	遺構名	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
86	70	47上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	口径37.4cm、残存率20%、端部は棒状工具を横にして刻み、ケズリ、ナデ	褐色　(10YR4/4)	淡黄色(2.5Y8/4)
86	71	47下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	端部刻み、胴部に浮文、ケズリ、ナデ	黒褐色(10YR3/2)	浅黄橙色(10YR8/4)
86	72	47下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	ケズリ後ミガキ？、条痕後ナデ	にぶい黄色(2.5Y6/3)	褐色　(10YR4/4)
86	73	45上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	口縁端部刻み、条痕	にぶい黄橙色(10YR7/4)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
86	74	45上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	口縁端部横長のO字刻み、ケズリ	褐色　(10YR4/4)	黄褐色(10YR5/8)
86	75	45上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	口縁内側にO字の刻み、ケズリ、ナデ	橙色　(7.5YR6/8)	明褐色(7.5YR5/8)
86	76	45上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑38	ケズリ、ナデ	黄橙色(10YR8/8)	黄橙色(10YR8/8)
86	77	45上	縄文土器	浅鉢	晩期	土坑38	端部V字の刻み、ミガキ、炭化物付着	褐灰色(10YR6/1)	褐灰色(10YR6/1)
87	78	47下	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑42	端部小さい刻み、ナデ、ケズリ	黒褐色(2.5Y3/1)	黒褐色(2.5Y3/1)
87	79	47下	縄文土器	深鉢	晩期	土坑42	端部刻み、、縦の沈線、円形浮文	明黄褐色(10YR7/6)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
87	80	47下	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑42	巻貝条痕？	黄橙色(7.5YR7/8)	黄橙色(7.5YR7/8)
87	81	47下	縄文土器	深鉢	凹線文系	土坑42	2条沈線、ミガキ、ナデ	黒褐色(2.5Y3/2)	オリーブ褐色(2.5Y4/3)
87	82	47下	縄文土器	浅鉢	晩期	土坑42	端部内面へ肥厚、ミガキ	黄色　(2.5Y7/8)	黒色　(2.5Y2/1)
87	83	47下	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑46	口径17.8cm、残存率10%、ナデ	黄褐色(7.5YR4/3)	黄褐色(7.5YR4/3)
87	84	47下	縄文土器	浅鉢	晩期	土坑50	端部O字刻み、ミガキ	黒褐色(2.5Y3/2)	黒褐色(2.5Y3/2)
87	85	48上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑51	条痕	明黄褐色(2.5Y7/6)	淡黄色(2.5Y8/4)
87	86	48上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑51	ナデ	明黄褐色(10YR6/8)	浅黄橙色(10YR8/4)
87	87	48上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑51	条痕	黒色　(10YR2/1)	明黄褐色(10YR7/6)
87	88	48上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑51	ケズリ、ナデ、条痕	にぶい黄色(2.5Y6/4)	黄橙色(10YR8/6)
87	89	48上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑51	端部半截竹管の刻み、条痕、ナデ	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄色(2.5Y8/4)
87	90	48上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑51	楕円形の浮文、ナデ、ミガキ？	灰黄褐色(10YR6/2)	黄橙色(10YR7/8)
87	91	48上	縄文土器	深鉢	晩期	土坑51	胴径33.0cm、残存率10%、ケズリ	淡黄色(2.5Y8/4)	浅黄色(2.5Y7/4)
87	92	48上	縄文土器	深鉢	晩期？	土坑51	口縁内側に3本の沈線、ナデ	浅黄色(2.5Y7/4)	浅黄色(2.5Y7/4)
87	93	48上	縄文土器	浅鉢	晩期	P699	ミガキ	にぶい黄褐色(10YR5/4)	黒褐色(10YR2/2)
87	94	48上	縄文土器	深鉢	晩期？	P400	ケズリ	明黄褐色(10YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)
87	95	48上	縄文土器	深鉢	晩期？	P677	ナデ、条痕	黒褐色(2.5Y3/2)	明黄褐色(10YR6/8)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	土器型式／時期	調査区	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
88	96	48下	縄文土器	深鉢	菱根式	6WA	口径24.0cm、残存率40%、端部に刻み、羽状縄文、繊維含む	褐色　(7.5YR4/6)	橙色　(7.5YR6/8)
88	97	48下	縄文土器	深鉢	早期	3E	縄文、繊維含む	黄色　(2.5Y8/6)	黄灰色(2.5Y4/1)
88	98	48下	縄文土器	深鉢	早期	2U	羽状縄文、繊維含む	明黄褐色(10YR7/6)	灰黄褐色(10YR5/2)
88	99	48下	縄文土器	深鉢	早期	8U	単節LR縄文、繊維含む	灰黄褐色(10YR5/2)	黄橙色(10YR8/6)
88	100	48下	縄文土器	深鉢	早期	6A	単節LR縄文、ナデ、繊維含む	黄橙色(10YR8/8)	黄橙色(10YR8/8)
88	101	48下	縄文土器	深鉢	平栫式？	4I	斜めの押引文、繊維含む	黄橙色(10YR7/8)	明黄褐色(10YR6/8)
88	102	48下	縄文土器	深鉢	早期	6A	単節LR縄文、条痕、繊維含む	暗赤褐色(2.5YR3/6)	黒褐色(7.5YR2/2)
88	103	48下	縄文土器	深鉢	早期	4I	縄文、合わせ撚りの可能性、繊維含む	黄橙色(10YR8/8)	にぶい黄橙色(10YR7/3)
88	104	49上	縄文土器	深鉢	早期	6KU	縄文？、ケズリ、ナデ	黄褐色(2.5Y5/6)	黄灰色(2.5Y5/1)
88	105	49上	縄文土器	深鉢	早期	9O	縄文、繊維含む	橙色　(2.5YR6/6)	灰黄褐色(10YR5/2)
88	106	49上	縄文土器	深鉢	平栫式～塞ノ神式	9KU,10KI	口径25.4cm、残存率25%、山形の沈線文の間を2列の刺突文が展開	暗赤灰色(2.5YR3/1)	暗赤灰色(2.5YR3/1)
88	107	49上	縄文土器	深鉢	平栫式	2I	口縁端部刻み、太い沈線による文様	褐色(10YR4/4)	明黄褐色(10YR6/6)
88	108	49上	縄文土器	深鉢	菱根式	6YO	口径13.8cm、残存率10%、条痕	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR7/8)
88	109	49上	縄文土器	深鉢	早期末～前期初頭	7KI	丸底、条痕	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄褐色(10YR8/4)
89	110	49下	縄文土器	深鉢	西川津式	3O	刺突列点文	浅黄色(2.5Y7/4)	黒褐色(10YR3/1)
89	111	49下	縄文土器	深鉢	西川津式	6U	沈線を縦の突線で区画	明黄褐色(10YR6/8)	黒褐色(10YR3/1)
89	112	49下	縄文土器	深鉢	羽島下層Ⅱ式	5WA	刺突文、条痕	にぶい黄橙色(10YR7/4)	褐灰色(10YR6/1)
89	113	49下	縄文土器	深鉢	北白川下層Ⅰa式	5A	D字爪形文、繊維含む	黒褐色(10YR2/2)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
89	114	49下	縄文土器	深鉢	北白川下層Ⅱ式	6YO	C字爪形文	暗褐色(10YR3/3)	暗褐色(10YR3/3)
89	115	49下	縄文土器	深鉢	北白川下層Ⅱ式	5A	D字爪形文、端部刻み	褐色　(10YR4/6)	暗褐色(10YR3/4)
89	116	49下	縄文土器	深鉢	北白川下層Ⅰb式	5U	C字爪形文	橙色　(7.5YR7/6)	浅黄色(2.5Y7/3)
89	117	49下	縄文土器	深鉢	北白川下層Ⅱb～Ⅱc式	6WA	C字爪形文	灰白色(10YR7/1)	黄色(2.5Y8/8)
89	118	49下	縄文土器	深鉢	里木Ⅰ式	4I	単節LR縄文	褐灰色(10YR4/1)	明黄褐色(2.5Y7/6)
89	119	49下	縄文土器	深鉢	里木Ⅰ式	7I	RL縄文	黒色　(10YR1.7/1)	黒色　(10YR1.7/1)
89	120	49下	縄文土器	深鉢	里木Ⅰ式	3E	半截竹管による隆帯	にぶい黄橙色(10YR4/3)	にぶい黄橙色(10YR4/3)
89	121	49下	縄文土器	深鉢	里木Ⅰ式	2I	突帯、縄文	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR7/8)
89	122	49下	縄文土器	深鉢	彦崎ZⅠ式	5WA	半截竹管による押引文	黒褐色(10YR2/2)	暗褐色(10YR3/4)
89	123	49下	縄文土器	深鉢	彦崎ZⅠ式	7U	押引文が弧状に展開	明褐色(7.5YR5/6)	明褐色(7.5YR5/6)
89	124	49下	縄文土器	深鉢	月崎下層式	4WA	押引文、端部刻み	黒褐色(10YR3/2)	褐色　(7.5YR4/4)
89	125	49下	縄文土器	深鉢	月崎下層式	8U	押引文、端部刻み、条痕	橙色　(5YR6/6)	明赤褐色(2.5YR5/8)
89	126	49下	縄文土器	深鉢	月崎下層式	2I	押引文、単節LR縄文	にぶい黄色(2.5Y6/4)	黒褐色(2.5Y3/1)
89	127	49下	縄文土器	深鉢	前期	8U	刺突文、端部刻み、縄文？	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR7/8)
89	128	49下	縄文土器	深鉢	前期	7E	半截竹管による刺突文	明黄褐色(10YR7/6)	浅黄橙色(10YR8/4)
89	129	49下	縄文土器	深鉢	前期	5WA	2列の刺突文	黒褐色(10YR2/3)	明黄褐色(2.5Y7/6)
89	130	49下	縄文土器	深鉢	前期	6A	小さな突帯の上に刻み、条痕後ナデ	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR7/8)
89	131	49下	縄文土器	深鉢	前期	8O	条痕	橙色　(5YR7/8)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
89	132	49下	縄文土器	深鉢	前期	8KU	単節RL縄文	黒褐色(2.5Y3/1)	黄色　(2.5Y8/8)
89	133	49下	縄文土器	深鉢	前期	2I	沈線文、単節LR縄文	黒褐色(2.5Y3/1)	明黄褐色(2.5Y6/6)
89	134	49下	縄文土器	深鉢	前期	3KA	短線文、端部刻み	明黄褐色(10YR7/6)	黒色　(5Y2/1)
89	135	50上	縄文土器	深鉢	大歳山式	6WA	刺突文、単節RL縄文	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
89	136	50上	縄文土器	深鉢	大歳山式	5WA	突帯の上を押引文、単節RL縄文	黒褐色(10YR2/2)	黄褐色(10YR5/6)
89	137	50上	縄文土器	深鉢	大歳山式？	5WA	単節LR縄文、ていねいなナデ	明黄褐色(10YR6/6)	明黄褐色(10YR6/6)
89	138	50上	縄文土器	深鉢	鷹島式	6WA	爪形文、単節RL縄文	灰黄褐色(10YR6/2)	黄橙色(10YR8/6)
89	139	50上	縄文土器	深鉢	船元Ⅰ式	6WA	口縁端部刻み、縄文？	黒褐色(10YR2/3)	明黄褐色(10YR7/6)
89	140	50上	縄文土器	深鉢	船元？	8KU	斜行する沈線の間に縄文	黒褐色(10YR2/3)	浅黄橙色(10YR8/3)
89	141	50上	縄文土器	深鉢	船元Ⅰ式	5WA	突帯の上を半截竹管で押引文	褐色　(10YR4/6)	黄橙色(10YR7/8)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	土器型式／時期	調査名	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
89	142	50上	縄文土器	深鉢	船元式	7U	RL縄文	黄橙色(7.5YR7/8)	灰黄褐色(10YR6/2)
89	143	50上	縄文土器	深鉢	船元Ⅰ式~Ⅱ式	6WA	刺突文、縄文	黄色　(2.5Y8/6)	にぶい黄褐色(10YR5/3)
89	144	50上	縄文土器	深鉢	船元Ⅱ式~Ⅱ式	7KI	半截竹管による連弧文、単節RL縄文	にぶい黄橙色(10YR7/3)	にぶい黄橙色(10YR7/3)
89	145	50上	縄文土器	深鉢	船元Ⅳ式	7I	交互に深くなる縄文	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR7/8)
89	146	50上	縄文土器	深鉢	船元Ⅳ式	7U	交互に深くなる縄文	にぶい黄色(2.5Y6/4)	黒色　(2.5Y2/1)
89	147	50上	縄文土器	深鉢	里木Ⅱ式	7I	撚糸文、条痕	暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)	明黄褐色(2.5Y7/6)
89	148	50上	縄文土器	深鉢	里木Ⅱ式	10KU	沈線文、撚糸文	にぶい黄橙色(10YR7/4)	黒褐色(10YR2/2)
89	149	50上	縄文土器	深鉢	里木Ⅲ式？	7U	条線	オリーブ黒色(5Y2/2)	浅黄橙色(10YR8/4)
89	150	50上	縄文土器	深鉢	波子式	6WA	単節LR縄文	黄色　(2.5Y8/6)	黄色　(2.5Y8/6)
89	151	50上	縄文土器	深鉢	中期	6WA	単節RL縄文、底径6.4cm	赤褐色(2.5YR4/6)	赤褐色(2.5YR4/6)
90	152	50下	縄文土器	浅鉢	中津Ⅲ式~鳥式	3O	磨消縄文（単節RL）、ミガキ	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
90	153	50下	縄文土器	深鉢	布勢式	6O	沈線文	黄橙色(7.5YR7/8)	黄橙色(7.5YR7/8)
90	154	50下	縄文土器	深鉢	崎ヶ鼻式？	7KO,8KE	単節RL縄文、沈線	暗褐色(7.5YR5/3)	淡黄褐色(10YR8/3)
90	155	50下	縄文土器	深鉢	崎ヶ鼻式？	9KA	口縁に単節LR縄文、口径35.4cm、残存率10%、弧状の条線文	暗褐色(10YR3/3)	暗褐色(10YR3/3)
90	156	50下	縄文土器	深鉢	崎ヶ鼻式	9KA	単節RL縄文	暗褐色(10YR3/3)	暗褐色(10YR3/3)
90	157	50下	縄文土器	深鉢	布勢式~崎ヶ鼻式	6O	磨消縄文（単節RL）、ミガキ	黒褐色(10YR3/2)	黒褐色(10YR4/2)
90	158	50下	縄文土器	鉢	崎ヶ鼻式	9KA	単節RL縄文、口径18.8cm、残存率10%、ミガキ	浅黄色(2.5Y7/4)	灰白色(2.5Y7/1)
90	159	50下	縄文土器	浅鉢	崎ヶ鼻式	9KA	磨消縄文（RL）、ていねいなミガキ	灰白色(10YR8/2)	灰白色(10YR8/2)
90	160	50下	縄文土器	浅鉢	崎ヶ鼻式	5A	磨消縄文（RL）、ナデ	黄橙色(7.5YR7/8)	黄橙色(7.5YR7/8)
90	161	50下	縄文土器	浅鉢	後期	7U	口縁端部に沈線文	黄色　(2.5Y8/8)	黄色　(2.5Y8/8)
90	162	50下	縄文土器	深鉢	後期	7U	口縁端部刻み	淡灰褐色(10YR8/3)	橙色　(2.5YR7/8)
90	163	50下	縄文土器	浅鉢	崎ヶ鼻式	8E	半球状の突起、縄文	浅黄橙色(10YR8/3)	浅黄橙色(10YR8/3)
90	164	50下	縄文土器	深鉢	後期	6A	沈線文、RLの縄文	黄橙色(10YR7/8)	黒褐色(10YR3/1)
90	165	50下	縄文土器	浅鉢	崎ヶ鼻式	6O	単節RL縄文	褐色　(7.5YR4/3)	褐色　(7.5YR4/3)
91	166	51上	縄文土器	深鉢	崎ヶ鼻~沖丈式	7E	ケズリ	黄橙色(7.5YR7/8)	橙色(7.5YR6/8)
91	167	51上	縄文土器	鉢	沖丈式	7I	沈線の間に縄文、赤彩	灰色　(10YR8/2)	黄灰色(2.5Y5/1)
91	168	51上	縄文土器	鉢	沖丈式~権現山式(古)	6U	単節RL縄文	灰黄褐色(10YR4/2)	灰黄褐色(10YR4/2)
91	169	51上	縄文土器	深鉢	権現山式(古)	5E	沈線、単節RL縄文	明黄褐色(10YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)
91	170	51上	縄文土器	深鉢	権現山式(古)	10KI	沈線内に刺突、縄文	にぶい黄色(2.5Y6/3)	浅黄橙色(10YR8/4)
91	171	51上	縄文土器	深鉢	権現山式(古)	6O	結節縄文、ケズリ、ナデ	褐灰色(10YR4/1)	褐灰色(10YR5/1)
91	172	51上	縄文土器	深鉢	権現山式	7U	口縁内に沈線、単節RL縄文	暗灰黄色(2.5Y5/2)	黒褐色(2.5Y3/2)
91	173	51上	縄文土器	注口土器	権現山式(新)	7KA	沈線の間に刺突文	黄褐色(10YR5/8)	灰黄褐色(10YR5/2)
91	174	51上	縄文土器	深鉢	権現山式(新)	7O	沈線、刻み	暗褐色(5YR4/2)	黄褐色(7.5YR7/3)
91	175	51上	縄文土器	深鉢	権現山式(新)	5I	沈線、刻み	浅黄色(2.5Y7/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
91	176	51上	縄文土器	鉢	権現山式(新)	6U	沈線の間に偽縄文、沈線内に刺突	にぶい褐色(7.5YR5/4)	黒色　(7.5YR2/1)
91	177	51上	縄文土器	浅鉢？	権現山式(新)	3I	沈線の間に刺突	淡黄橙色(7.5YR7/6)	淡黄橙色(7.5YR7/6)
91	178	51上	縄文土器	鉢	権現山式(新)	7U	円形の隆帯、偽縄文	橙色　(5YR6/6)	橙色　(5YR6/6)
91	179	51上	縄文土器	深鉢	権現山式(新)	6YO	円形の隆帯、刺突文	黄橙色(7.5YR7/8)	黄橙色(7.5YR7/8)
91	180	51上	縄文土器	鉢	権現山式(新)	6I	巻き貝による深い刺突、隆帯	褐色　(10YR4/6)	褐色　(10YR4/6)
91	181	51下	縄文土器	注口土器	権現山式(新)	8KA	沈線の間に偽縄文	橙色　(5YR6/8)	黄橙色(7.5YR7/8)
91	182	51下	縄文土器	注口土器	権現山式(新)	4I	沈線の間に刺突	褐色　(2.5Y4/2)	褐色　(2.5Y4/2)
91	183	51下	縄文土器	注口土器	権現山式(新)	5U	沈線、刻み	黄橙色(10YR8/6)	明黄褐色(2.5Y7/6)
92	184	51下	縄文土器	注口土器	権現山式(新)	6U	沈線の間に刺突、胴径22.0cm、残存率15%	にぶい黄橙色(10YR6/4)	黄橙色(10YR7/8)
92	185	51下	縄文土器	注口土器	後期後葉	6U	ミガキ、ナデ	灰黄褐色(10YR4/2)	明黄褐色(10YR7/6)
92	186	51下	縄文土器	深鉢	元住吉山Ⅱ式	5E	凹線文、刻み、ナデ	黒色　(10YR2/1)	明黄褐色(10YR6/6)
92	187	51下	縄文土器	深鉢	元住吉山Ⅱ式	5KI	凹線文、ナデ	暗褐色(10YR3/3)	黒褐色(10YR2/2)
92	188	51下	縄文土器	深鉢	元住吉山Ⅱ式	4I	凹線文、ミガキ、ナデ	暗褐色(10Y3/1)	暗褐色(10Y3/1)
92	189	51下	縄文土器	深鉢	元住吉山Ⅱ式	7KI	凹線文、ナデ	オリーブ黒色(2.5Y4/3)	淡黄色(2.5Y8/4)
92	190	51下	縄文土器	深鉢	元住吉山Ⅱ式	7KI	凹線文、口縁内面に刻み、ナデ	黒褐色(2.5Y3/1)	黒褐色(2.5Y3/1)
92	191	51下	縄文土器	浅鉢	元住吉山Ⅱ式	5I	凹線文、ミガキ	黒褐色(10YR2/3)	黒褐色(10YR2/3)
92	192	51下	縄文土器	深鉢	元住吉山Ⅱ式	3O	巻き貝による刺突、沈線	黄灰色(2.5Y6/1)	淡黄色(2.5Y8/3)
92	193	51下	縄文土器	注口土器	元住吉山Ⅱ式	5KU	凹線文、ナデ	黄色　(2.5Y8/8)	黄色　(2.5Y8/8)
92	194	51下	縄文土器	注口土器	元住吉山Ⅱ式	6E	凹線文、ミガキ、内面に接合痕	黄橙色(10YR7/8)	黒褐色(10YR3/2)
92	195	51下	縄文土器	深鉢	宮滝式	7KA	凹線文、扇形文、ナデ	淡黄色(2.5Y8/4)	黄灰色(2.5Y4/1)
92	196	51下	縄文土器	深鉢	後期	6E	巻貝条痕、ナデ	浅黄橙色(10YR8/4)	浅黄色(2.5Y7/4)
92	197	51下	縄文土器	深鉢	後期	7U	細密条痕	暗灰黄色(2.5Y5/2)	暗灰黄色(2.5Y5/2)
92	198	51下	縄文土器	深鉢	後期	5I	沈線、ナデ	黒褐色(2.5Y3/1)	浅き色(2.5Y8/4)
92	199	51下	縄文土器	浅鉢	後期	7KU	赤彩、内面沈線、底径12.0cm、残存率20%、ミガキ	赤色　(10YR4/8)	赤色　(10YR4/8)
92	200	52上	縄文土器	深鉢	後期？	6E	条痕、ナデ	明黄褐色(10YR6/8)	黄橙色(10YR8/8)
92	201	52上	縄文土器	深鉢	後期？	3U	条痕、ナデ	浅黄橙色(10YR8/4)	黄橙色(10YR8/6)
92	202	52上	縄文土器	深鉢	後期？	6KA	ナデ	黄色　(2.5Y8/6)	黄色　(2.5Y8/6)
92	203	52上	縄文土器	深鉢	後期？	6E	ケズリ、ナデ	にぶい黄橙色(10YR6/4)	にぶい黄橙色(10YR6/4)
92	204	52上	縄文土器	深鉢	後期？	5KA	ケズリ	褐色　(2.5Y4/6)	褐色　(2.5Y5/4)
92	205	52上	縄文土器	深鉢	後期？	8O	ケズリ、ナデ	褐灰色(10YR4/1)	淡黄色(2.5Y8/4)
92	206	52上	縄文土器	深鉢	後期？	5KI	ケズリ、ナデ	にぶい黄橙色(10YR7/4)	黄橙色(10YR7/8)
93	207	52上	縄文土器	深鉢	後期？	9KI	口縁端部斜めの刻み、ケズリ、ナデ	暗褐色(10YR3/3)	黒褐色(10YR3/2)
93	208	52上	縄文土器	深鉢	後期？	6U	口縁端部刻み、条痕	浅黄色(2.5Y7/4)	明黄褐色(10YR6/6)
93	209	52上	縄文土器	深鉢	後期？	5O	斜行する沈線文、ケズリ、ナデ	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR8/6)
93	210	52上	縄文土器	深鉢	後期？	7O	胴部に沈線文、ケズリ、ナデ	黒色　(10YR2/1)	褐灰色(10YR4/1)
93	211	52上	縄文土器	深鉢	後期？	9KI	条痕後ナデ、ナデ	黄色　(2.5Y8/6)	黒色　(2.5Y2/1)
93	212	52下	縄文土器	深鉢	後期？	5E	接合痕残る、ナデ	暗褐色(10YR3/3)	黄色　(2.5Y8/6)
93	213	52下	縄文土器	深鉢	後期？	7U	底径4.4cm、くぼみ底（くぼみ小さい）	明黄褐色(2.5Y7/6)	黄橙色(10YR7/8)
93	214	52下	縄文土器	深鉢	後期？	6KI	底径6.0cm、上げ底（くぼみ大きい）	浅黄色　(5Y7/4)	黄色　(2.5Y8/6)
93	215	52下	縄文土器	深鉢	後期？	5E	図上で復元、尖底、条痕	黄褐色(2.5Y5/3)	黄灰色(2.5Y4/1)
93	216	52下	縄文土器	深鉢	後期？	5KA	尖底、ミガキ、ナデ	淡黄橙色(10YR8/4)	黄橙色(10YR8/6)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	土器型式／時期	調査名	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
93	217	52下	縄文土器	深鉢	後期？	7KA	尖り気味の丸底、ケズリ、ナデ	明黄褐色(10YR6/6)	明黄褐色(10YR6/8)
94	218	61	縄文土器	深鉢	後期？	6E	口径31.6cm、胴径35.8cm、残存率15%、ミガキ、ケズリ	明黄褐色(10YR7/6)	黄橙色(10YR7/8)
94	219	53上	縄文土器	深鉢	後期？	5O	口径16.0cm、残存率15%、ケズリ、ナデ	黒色　(10YR2/1)	暗褐色(10YR3/3)
94	220	53上	縄文土器	深鉢	後期？	9KI	口径28.6cm、残存率20%、条痕	黒褐色(10YR3/2)	黄橙色(10YR7/8)
94	221	53上	縄文土器	深鉢	後期？	8U	口径44.0cm、残存率27%、ケズリ、ナデ	灰黄褐色(10YR4/2)	灰黄褐色(10YR4/2)
94	222	53下	縄文土器	深鉢	後期？	9KI	口径36.0cm、残存率15%、ケズリ	暗褐色(10YR5/1)	黄褐色(10YR8/4)
94	223	61	縄文土器	深鉢	後期？	9KI	口径21.5cm、残存率35%、ケズリ、ナデ	暗褐色(10YR3/2)	暗褐色(10YR3/2)
94	224	54上	縄文土器	深鉢	後期？	8O	口径31.4cm、残存率10%、ケズリ、ナデ	淡黄色(2.5Y8/5)	オリーブ黒色(10Y3/1)
94	225	54上	縄文土器	深鉢	後期？	5A	口径26.9cm、残存率10%、ケズリ、ナデ	明黄褐色(10YR7/6)	黒褐色(10YR3/1)
94	226	54上	縄文土器	深鉢	後期？	5E	口径43.8cm、残存率10%、ケズリ、条痕後ナデ	暗褐色(10YR3/4)	灰黄色(2.5Y7/2)
95	227	54上	縄文土器	深鉢	後期？	5KI	胴部直線的、条痕	黒褐色(10YR2/2)	橙色(7.5YR7/6)
95	228	54下	縄文土器	深鉢	後期？	4O.5O	胴部直線的、ケズリ、ナデ	明黄褐色(10YR7/6)	黒褐色(2.5Y3/1)
95	229	54下	縄文土器	深鉢	後期？	5E	ケズリ、ナデ	黄橙色(10YR8/8)	褐灰色(10YR4/1)
95	230	54上	縄文土器	深鉢	晩期	6U	口径37.2cm、残存率10%、口縁と胴部に稜、ケズリ、ナデ、口縁内面ミガキ	黒色　(10YR2/1)	黒褐色(2.5Y3/1)
95	231	54下	縄文土器	深鉢	晩期	3I	条痕、ナデ、胴部に稜	暗黄褐色(10YR6/2)	暗黄褐色(10YR6/2)
96	232	54下	縄文土器	鉢	後期～晩期	8O	口径28.4cm、残存率10%、ナデ、外面炭化物付着	暗褐色(10YR3/3)	褐灰色(10YR4/1)
96	233	54下	縄文土器	鉢	後期～晩期	7KA	口径11.0cm、残存率15%、ナデ	黄橙色(7.5YR7/8)	黄橙色(7.5YR7/8)
96	234	55上	縄文土器	鉢	後期～晩期	4O	ナデ、ケズリ	暗灰黄色(2.5Y4/2)	にぶい黄橙色(10YR6/4)
96	235	55上	縄文土器	鉢	後期～晩期	5KI	口径21.0cm、残存率20%、外面炭化物付着	黒褐色(2.5YR3/2)	黄橙色(10YR7/8)
96	236	55上	縄文土器	壺	後期～晩期	4I	口縁下に沈線、ミガキ	橙色　(7.5YR7/6)	オリーブ黒色(10Y3/1)
96	237	55上	縄文土器	壺	後期～晩期	5KI	口径6.0cm、残存率15%、端部に刻み	暗灰黄色(2.5Y5/2)	黄褐色(2.5Y5/3)
96	238	55上	縄文土器	浅鉢	後期～晩期	重機掘削中	ていねいなミガキ	明黄褐色(2.5Y7/6)	灰色　(5Y6/1)
96	239	55上	縄文土器	浅鉢	後期～晩期	2U	底径7.0cm、残存率40%、ミガキ	明黄褐色(2.5Y7/6)	黄色　(2.5Y8/6)
96	240	55上	縄文土器	浅鉢	後期～晩期	5U	底径8.0cm、残存率50%、高台状、ミガキ、ケズリ	灰黄褐色(10YR5/2)	黒褐色(2.5Y3/1)
96	241	55上	縄文土器	深鉢	晩期	4KI	口縁部下に沈線、ナデ	明黄褐色(10YR6/6)	明黄褐色(10YR6/6)
96	242	55上	縄文土器	深鉢	晩期	5U	口縁部下に沈線、ナデ	黄橙色(10YR8/6)	褐灰色(10YR4/1)
96	243	55上	縄文土器	深鉢	晩期		口縁端部刻み、沈線文、ナデ	黒褐色(10YR3/2)	暗褐色(10YR3/3)
96	244	55上	縄文土器	深鉢	晩期	5KA	指でつまんだような突起、ナデ	暗灰黄色(2.5Y4/2)	黒褐色(2.5Y3/1)
96	245	55上	縄文土器	深鉢	晩期	8KE	縦と斜行する沈線文、ナデ	橙色　(7.5YR6/6)	黒褐色(7.5YR3/6)
96	246	55上	縄文土器	深鉢	晩期	7E	胴部に強いナデ状の沈線、ナデ	明黄褐色(10YR7/6)	黄色　(2.5Y8/6)
96	247	55上	縄文土器	深鉢	晩期	3O	胴部に屈曲、ケズリ、条痕	橙褐色(10YR6/4)	橙褐色(5YR7/6)
96	248	55上	縄文土器	深鉢	晩期	6YO	口径22.0cm、残存率45%、口縁端部刻み、条痕、口縁は緩やかに波を打つ	灰黄褐色(10YR4/2)	褐色　(10YR4/4)
96	249	55下	縄文土器	深鉢	晩期	5WA	口径20.0cm、残存率10%、条痕、ミガキ	黒褐色(10YR3/2)	淡黄色(2.5Y8/4)
96	250	55下	縄文土器	深鉢	晩期	6E	口径18.0cm、残存率15%、口縁端部D字の刻み、ケズリ、ナデ	褐色　(7.5YR4/6)	明褐色(7.5YR5/6)
96	251	55下	縄文土器	深鉢	晩期	9KI	口径19.4cm、残存率30%、口縁端部棒状工具による刻み、条痕	暗灰褐色(10YR3/2)	淡黄褐色(10YR7/3)
96	252	55下	縄文土器	深鉢	晩期	3I	口径22.2cm、残存率15%、ケズリ後ミガキ、ナデ	褐色　(10YR3/1)	黄褐色(10YR3/1)
96	253	55下	縄文土器	深鉢	晩期	2U	口径20.3cm、残存率15%、ミガキ	淡橙黄褐色(10YR8/3)	淡橙黄褐色(10YR8/3)
96	254	55下	縄文土器	深鉢	晩期	4I	端部面を持つ、条痕	橙色　(7.5YR6/8)	黄色　(2.5Y8/6)
97	255	56上	縄文土器	深鉢	晩期	8KA	口径38.2cm、残存率30%、ケズリ	暗灰褐色(10YR3/3)	橙色(7.5YR7/6)
97	256	56下	縄文土器	深鉢	晩期	5A	口径38.6cm、残存率10%、ケズリ後ナデ、ミガキ	オリーブ黒色(5Y3/1)	黄色　(2.5Y8/6)
97	257a	57	縄文土器	深鉢	晩期	8O	口縁端部刻み、条痕、ケズリ	明黄褐色(2.5Y7/6)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
97	257b	57	縄文土器	深鉢	晩期	8O	ケズリ、条痕	明黄褐色(2.5Y7/6)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
97	258	55下	縄文土器	深鉢	晩期	8O	口径35.4cm、残存率13%、口縁端部貝で刻み、ケズリ、ナデ	黄褐色(10YR4/3)	明黄褐色(2.5Y7/6)
97	259	55下	縄文土器	深鉢	晩期	5E	口径32.6cm、残存率10%、口縁端部刻み、ケズリ、条痕	暗褐色(2.5YR3/2)	暗褐色(2.5YR3/2)
98	260	56上	縄文土器	深鉢	晩期	8O	口縁端部刻み、条痕	淡黄色(2.5Y8/4)	灰白色(2.5Y7/1)
98	261	61	縄文土器	深鉢	晩期	4E	口径39.8cm、残存率25%、口縁端部指で刻み、浮文の上に刻み、爪による刺突文、ケズリ、ナデ	明黄褐色(10YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)
98	262	61	縄文土器	深鉢	晩期	4I	口径37.2cm、残存率25%、口縁端部にリボン状の突起、円形浮文、ケズリ	暗褐色(7.5YR3/4)	黄橙色(10YR7/8)
98	263	58上	縄文土器	深鉢	晩期	4I	口縁端部の刻みと胴部の刺突文は指による、ケズリ、ナデ	明黄褐色(10YR6/8)	黄褐色(10YR5/6)
99	264	58上	縄文土器	深鉢	晩期	4I	残存率15%、ケズリ後ナデ	明黄褐色(10YR6/8)	明褐色(7.5YR5/8)
99	265	56下	縄文土器	深鉢	晩期	6KU	胴径39.4cm、残存率15%、ケズリ、条痕	黄橙色(7.5YR7/8)	黒褐色(7.5YR2/2)
99	266	58上	縄文土器	深鉢	晩期	5E	条痕	褐色　(7.5YR4/3)	黒褐色(7.5YR3/1)
99	267	58上	縄文土器	深鉢	晩期	6I	ケズリ、条痕	明褐色(7.5YR5/8)	にぶい黄色(2.5Y6/3)
99	268	58下	縄文土器	深鉢	晩期	6E	ケズリ、条痕	淡黄色(2.5Y8/4)	黒褐色(2.5Y3/1)
99	269	58下	縄文土器	深鉢	晩期	7I	ナデ、条痕	黒色　(10YR2/1)	暗褐色(10YR3/3)
100	270	58下	縄文土器	深鉢	晩期	5O	口縁端部刻み、条痕	にぶい黄褐色(10YR4/3)	黄褐色(10YR5/6)
100	271	58下	縄文土器	深鉢	晩期	7O	口縁端部刻み、ケズリ、条痕	褐灰色(10YR5/1)	褐灰色(10YR5/1)
100	272	58下	縄文土器	深鉢	晩期		口縁端部刻み、側面が楕円形の突起	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR8/8)
100	273	58下	縄文土器	深鉢	晩期	4I	口縁端部に面、ケズリ、ナデ	明黄褐色(10YR6/8)	明黄褐色(10YR6/8)
100	274	58下	縄文土器	深鉢	晩期	6E	ナデ	暗褐色(10YR3/3)	黒褐色(10YR2/2)
100	275	58下	縄文土器	深鉢	晩期	6KU	内側から刺突が貫通、条痕	黄色　(2.5YR8/8)	黒褐色(10YR2/2)
100	276	58下	縄文土器	深鉢	晩期	5KA	外面と口縁内側に円形の刺突、条痕	黒褐色(2.5Y3/1)	オリーブ黒色(2.5Y4/3)
100	277	58下	縄文土器	深鉢	晩期	6U	円形浮文に棒で刺突、ケズリ後ナデ	にぶい赤褐色(2.5YR4/4)	明黄褐色(10YR6/6)
100	278	58下	縄文土器	深鉢	晩期	5U	口縁部に粘土を貼り付けて、その上に刻みや刺突を施す、ケズリ後ナデ	明黄褐色(10YR6/8)	明黄褐色(10YR6/8)
100	279	58下	縄文土器	深鉢	晩期	5KA	口縁内側に指による刺突、条痕、ナデ	にぶい黄褐色(10YR4/3)	明黄褐色(10YR6/6)
100	280	58下	縄文土器	深鉢	晩期	8O	口径20.4cm、残存率10%、口縁端部刻み、ナデ	黒褐色(10YR3/1)	橙色　(7.5YR6/8)
100	281	59上	縄文土器	深鉢	晩期	7O	胴径21.6cm、残存率15%、ケズリ、ナデ	暗褐色(7.5YR3/2)	暗褐色(7.5YR3/2)
100	282	59上	縄文土器	深鉢	晩期	6A	胴部に刻み、条痕	橙色　(7.5YR6/8)	にぶい橙色(7.5YR6/4)
100	283	59上	縄文土器	深鉢	晩期	6O	底径8.5cm、残存率40%、ケズリ	淡褐色(2.5Y8/4)	淡褐色(10YR5/2)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	土器型式／時期	調査名	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
100	284	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	3I	口縁端部刻み、刻みO字、条痕、ケズリ	黄橙色(10YR8/8)	橙色　(5YR7/8)
100	285	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	3KI	口縁端部刻み、刻みO字、突帯が口縁に接する、ナデ	暗褐色(10YR3/4)	暗褐色(10YR3/4)
100	286	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	2I	口縁端部刻みV字、突帯刻みD字、ナデ	黄橙色(10YR8/8)	にぶい黄橙色(10YR6/4)
100	287	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	6KE	口縁端部刻み、刻みD字、ナデ	黒褐色(2.5Y3/1)	黄灰色(2.5Y4/1)
100	288	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	4KA	口縁端部刻み、刻みD字、ナデ	黒褐色(10YR2/2)	黒褐色(10YR2/2)
100	289	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	6KA	口縁端部刻みV字、突帯の刻みC字、突帯が口縁に接する、ナデ	黄橙色(10YR8/8)	黄橙色(10YR8/8)
100	290	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期？	6KI	円形の刻み、ナデ、ケズリ	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
100	291	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	4I	口縁端部刻み、刻みD字、ナデ	黄色　(2.5Y8/6)	黄色　(2.5Y8/6)
100	292	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	4I	口縁端部刻みO字、突帯の刻みD字、ナデ	黄褐色(10YR5/8)	黄色　(2.5Y8/6)
100	293	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	5I	口縁端部刻みO字、突帯の刻みD字、ナデ	黒褐色(10YR2/3)	黒色　(10YR2/1)
101	294	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	4I	口縁端部刻み、刻みD字、突帯が口縁に接する、ナデ、ケズリ	暗褐色(10YR3/4)	黄灰色(2.5Y5/1)
101	295	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	4KI	口縁端部刻み、刻みD字、ナデ、ケズリ	明黄褐色(10YR6/6)	明黄褐色(10YR7/6)
101	296	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅰ期	5KO	口縁端部刻み、刻みD字、胴部に刻目突帯、ナデ、ケズリ	黒褐色(10YR3/1)	オリーブ褐色(5Y5/1)
101	297	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅱ期	6KA	D字刻み、条痕、ケズリ	黄色　(2.5Y8/6)	黄灰色(2.5Y5/1)
101	298	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅱ期	5KI	D字刻み、ナデ	褐灰色(10YR4/1)	黄橙色(10YR8/6)
101	299	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅱ期	5WA	D字刻み、ナデ	黄色　(10YR8/6)	黄色　(10YR8/6)
101	300	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅱ期	6KI	D字刻み、斜行する沈線、ナデ	暗褐色(7.5YR3/3)	褐色　(7.5YR4/3)
101	301	59上	縄文土器	深鉢	突帯文Ⅲ期	5KA	V字刻み、ナデ	浅黄橙色(10YR8/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
101	302	59上	縄文土器	深鉢	突帯文	4I	胴部突帯、V字刻み、ナデ、ケズリ	黒褐色(10YR3/2)	橙色(7.5YR6/6)
101	303	59下	縄文土器	鉢	晩期	5E	胴径11.0cm、残存率15%、突起の横に刺突と2条の沈線、ミガキ	黄橙色(10YR8/6)	黒褐色(2.5Y3/1)
101	304	61	縄文土器	浅鉢	晩期	5KI	口径29.4cm、器高9.2cm、ほぼ完形、四方向の長方形の突起、ていねいなミガキやナデ	暗灰黄色(2.5Y4/2)	暗灰黄色(2.5Y4/2)
101	305	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	5KI	口縁内面に段、ナデ、ミガキ	灰黄褐色(10YR4/2)	褐灰色(10YR4/1)
101	306	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	6I杭	口縁内側に沈線と段、ミガキ	褐灰色(10YR4/1)	褐灰色(10YR4/1)
101	307	59下	縄文土器	浅鉢	晩期？	2U	ミガキ	暗褐色(10YR3/1)	暗橙色(2.5YR7/8)
101	308	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	5KI	胴部に突帯、口縁内に沈線、ミガキ、条痕	暗褐色(10YR4.3)	暗褐色(2.5Y3/1)
101	309	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	6KU	胴部に突帯、口縁外面に段、ミガキ、内面に赤彩	暗褐色(7.5YR3/3)	暗褐色(7.5YR3/3)
101	310	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	5KU	口径28.8cm、残存率12%、口縁内面に沈線、ていねいなミガキ	黒褐色(10YR3/1)	黒褐色(10YR3/1)
101	311	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	4KI	口縁外面に稜、ミガキ	明褐色(7.5YR5/6)	灰褐色(7.5YR4/2)
101	312	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	6I杭	口径27.1cm、残存率12%、胴部に稜、ミガキ、条痕	黒褐色(2.5Y3/1)	黒褐色(2.5Y3/1)
101	313	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	6U	口径23.6cm、残存率10%、胴部に稜、ミガキ、ナデ	灰黄色(2.5Y7/2)	黒褐色(10YR3/1)
101	314	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	2E	口径16.5cm、残存率20%、外面一部赤彩、ナデ、ミガキ	暗黄褐色(10YR5/2)	暗黄褐色(10YR5/2)
101	315	61	縄文土器	浅鉢	晩期	2U	口径19.0cm、残存率20%、ミガキ	明黄褐色(10YR6/8)	明黄褐色(10YR7/6)
102	316	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	5KI	口径35.4cm、残存率10%、ミガキ、ケズリ、外面に炭化物付着	にぶい黄褐色(10YR5/3)	褐灰色(10YR5/1)
102	317	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	8O,8KA	口径37.2cm、底径3.6cm、口縁に段、縦と斜めの沈線、ミガキ、ケズリ、くぼみ底	暗褐色(10YR3/3)	黒褐色(10YR2/1)
102	318	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	5KA	波状口縁、ミガキ	褐色　(10YR4/6)	褐灰色(10YR4/1)
102	319	59下	縄文土器	浅鉢	晩期	5A	口縁内側に沈線文、外面炭化物付着、ミガキ、ケズリ	暗褐色(10YR3/3)	黄褐色(10YR5/8)
102	320	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	7U	方形波状口縁、沈線、ミガキ	灰黄褐色(10YR4/2)	黒褐色(10YR3/1)
102	321	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	4I	わずかに波状口縁、沈線、ミガキ、ケズリ	にぶい黄褐色(10YR5/4)	黒褐色(10YR3/2)
102	322	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	5E	沈線、ミガキ、ナデ	赤褐色(2.5YR4/6)	赤褐色(2.5YR4/6)
102	323	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	5WA	ミガキ	黄色　(2.5Y8/6)	黄色　(2.5Y8/6)
102	324	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	5KI	波状口縁、口縁端部刻み、ミガキ	橙色　(7.5YR7/6)	橙色　(7.5YR7/6)
102	325	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	7KI	断面三角形の突帯、口縁内側に沈線、ミガキ	浅黄色(2.5Y7/4)	灰黄色(2.5Y6/2)
102	326	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	3KI	口縁端部刻み、刻みD字、外面炭化物付着、ナデ	明黄褐色(10YR6/8)	にぶい黄褐色(10YR4/3)
102	327	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	6KU	口縁端部刻み、刻みD字、ミガキ	黄橙色(10YR8/8)	黄橙色(10YR8/8)
102	328	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	4KA	突帯、ミガキ、ナデ	浅黄橙色(10YR8/4)	黒色　(10YR2/1)
102	329	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	4KE	断面台形の突帯、ミガキ	褐灰色(10YR4/1)	褐灰色(10YR4/1)
102	330	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	4KA	突帯、ナデ、ミガキ、ケズリ	明褐色(7.5YR5/8)	黒色　(7.5Y2/1)
102	331	60上	縄文土器	壺	晩期	8O	夜臼系？、口径9.6cm、残存率18%、胴部に沈線、ミガキ、ナデ	暗褐色(10YR3/2)	暗褐色(10YR3/2)
102	332	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	6E	胴部に刻み、条痕、ナデ	黄橙色(10YR8/8)	にぶい黄橙色(10YR6/3)
102	333	60上	縄文土器	浅鉢	晩期	6U、7U	底径8.0cm、残存率70%、ケズリ、ミガキ	黄橙色(10YR8/6)	灰黄褐色(10YR4/2)
103	334	60下	縄文土器	鉢	晩期	3O	口径26.4cm、ケズリ、ミガキ	褐色　(5YR3/2)	淡黄褐色(10YR7/6)
103	335	61	縄文土器	浅鉢	晩期	8O	口径26.9cm、器高6.2cm、残存率30%、ていねいなミガキ	淡褐色(10YR7/2)	淡褐色(10YR7/2)
103	336	60下	縄文土器	浅鉢	晩期	6KU	口径34.9cm、残存率15%、ミガキ、ケズリ、ミガキは長い単位で施す	暗褐色(10YR3/1)	暗褐色(10YR3/1)
103	337	60下	縄文土器	浅鉢	晩期	6I杭	胴部に沈線、ミガキ	暗褐色(10YR3/3)	黒褐色(10YR3/1)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	時期	遺構名	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
104	338	62上	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	竪穴住居1	口径16.8cm、刺突文、口縁端部ヨコナデ	浅黄橙色(10YR8/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
104	339	62上	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	竪穴住居1	口径17.0cm、口縁端部に2条の凹線文	淡橙褐色(2.5Y8/3)	淡橙褐色(2.5Y8/3)
104	340	62上	弥生土器	甕	中期	竪穴住居1	底径5.4cm、残存率55%、ヘラミガキ	暗橙褐色(2.5YR8/6)	暗橙褐色(2.5YR8/6)
104	341	62上	弥生土器	甕	Ⅲ－2～Ⅳ－1様式	竪穴住居1	口径19.6cm、残存率40%、口縁端部に3条の凹線文、ていねいなナデ	淡黄褐色(10YR8/6)	淡黄褐色(10YR8/6)
104	342	62上	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	竪穴住居1	刺突文、ハケ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	にぶい黄橙色(10YR7/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
104	343	62下	弥生土器	甕	Ⅳ－1様式	P601	口径14.0cm、残存率25%、口縁端部の2条の凹線文、頸部刻目突帯	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄色(2.5Y8/4)
104	344	62下	弥生土器	甕	中期	P601	胴径20.0cm、残存率20%、列点文	灰黄褐色(10YR4/2)	灰黄褐色(10YR4/2)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	時期	調査区	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
105	345	63上	弥生土器	壺	Ⅰ－4様式	5KI	5条以上の直線文	明黄褐色(2.5Y7/6)	明黄褐色(2.5Y7/6)
105	346	63上	弥生土器	壺	前期	5U	口縁端部と内面に刺突、ナデ	明黄褐色(2.5Y7/6)	明黄褐色(2.5Y7/6)
105	347	63上	弥生土器	壺	Ⅰ－3様式	6E	無軸木葉文、沈線文、ナデ	赤褐色(10R6/8)	赤褐色(10R6/8)
105	348	63上	弥生土器	壺	Ⅰ－4様式	6WA	上向きの重弧文、沈線文、ナデ	黄褐色(10YR5/8)	黄褐色(10YR5/8)
105	349	63上	弥生土器	壺	中期？	7U	10条以上の沈線と斜行する沈線	褐灰色(10YR6/1)	褐灰色(10YR4/1)
105	350	63上	弥生土器	壺	Ⅰ－4様式	6E	17条以上の沈線文、三角形刺突文	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄色(2.5Y8/4)
105	351	63上	弥生土器	甕	前期	5U	底径7.8cm、残存率80%、底部に桟のような痕、ナデ	にぶい黄橙色(10YR7/4)	橙色(7.5YR6/8)
105	352	63上	弥生土器	甕	Ⅰ－4様式	8KI	口径15.8cm、14条のヘラ描直線文、三角形刺突	黄橙色(10YR8/8)	黄橙色(10YR8/8)
105	353	63上	弥生土器	甕	前期	2I	口径17.0cm、残存率15%、ナデ	暗褐色(10YR3/1)	暗黄褐色(2.5Y6/4)
105	354	63上	弥生土器	甕	前期	7KI	口縁端部V字刻み、ナデ	黄色　(2.5Y8/6)	黄色　(2.5Y8/6)
105	355	63上	弥生土器	甕	Ⅰ－4様式	7U	口縁端部刻み、7条のヘラ描沈線、三角形の刺突文	灰黄褐色(10YR6/2)	橙色　(7.5YR7/6)
105	356	63上	弥生土器	甕	Ⅰ－4様式	8O	口縁端部刻み、5条以上の直線文	黄色　(2.5Y7/8)	黄色　(2.5Y7/8)
105	357	63上	弥生土器	鉢？	前期？	6E	途切れる沈線、ていねいなナデ	橙色　(7.5YR5/8)	橙色　(7.5YR5/8)
105	358	63上	弥生土器	甕	前期？	5I	口縁端部に斜格子文、ナデ	黄橙色(10YR7/8)	橙色　(5YR6/8)
105	359	63上	弥生土器	甕	前期？	8KI	タテハケ、ナデ	明黄褐色(10YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)
105	360	63上	弥生土器	壺	中期前葉	8KI	7条の直線文、半截竹管の押引文	にぶい黄橙色(10YR7/3)	黄橙色(10YR8/8)
105	361	63下	弥生土器	壺	中期前葉	7KU	櫛描波状文、櫛描直線文、三角形列点文、ヨコヘラミガキ	浅黄橙色(10YR8/3)	浅黄橙色(10YR8/3)
105	362	63下	弥生土器	壺	中期前葉	6U,7U	半截竹管直線文、C字刺突文、ナデ	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
105	363	63下	弥生土器	壺	中期前葉	7U	櫛描直線文、三角形刺突文2列	にぶい黄橙色(10YR7/4)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
105	364	63下	弥生土器	壺	中期前葉	8KI	櫛描直線文、横長の刺突文	浅黄橙色(10YR8/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
105	365	63下	弥生土器	壺	中期前葉	4I,4U	櫛描直線文、小さい円形の刺突文	橙色(2.5Y7/6)	淡橙色(5YR8/4)
105	366	63下	弥生土器	壺	中期前葉	7KI	半截竹管で円を二重に描く	橙色　(7.5YR7/6)	橙色　(7.5YR7/6)
105	367	63下	弥生土器	壺	中期前葉	7U	櫛描で円を描く	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
105	368	63下	弥生土器	甕	中期前葉	7U	底径8.0cm、底部完存、底部ケズリ	黄橙色(7.5YR7/8)	黄橙色(10YR8/8)
106	369	63下	弥生土器	甕	中期前葉？	7U	口径22.1cm、残存率13%、18条の半截竹管による直線文、外傾接合？	暗褐色(10YR3/3)	にぶい黄褐色(10YR7/4)
106	370	64上	弥生土器	甕	中期前葉	8KI	半截竹管による直線文が二段、ナデ	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
106	371	64上	弥生土器	甕	中期前葉	6E,7KI	口径19.0cm、胴径17.0cm、残存率20%、半截竹管による直線文と押引文、口縁端部に斜格子文	にぶい黄橙色(10YR7/3)	黄橙色(10YR7/8)
106	372	63下	弥生土器	甕	中期前葉	6KU,6KE	口縁端部刻み、半截竹管による直線文と半円、タテハケ	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(7.5YR7/8)
106	373	64上	弥生土器	甕	中期前葉	5U	半截竹管による直線文と逆「コ」字の刺突文、口縁端部に斜格子文	にぶい黄褐色(10YR6/2)	灰黄褐色(10YR6/2)
106	374	64上	弥生土器	甕	中期前葉	7KI	半截竹管による直線文と逆U字の列点文二列	灰白色(10YR8/1)	灰白色(10YR8/1)
106	375	64上	弥生土器	甕	中期前葉	5U	口縁端部刻み、半截竹管による直線文、米粒形の刺突文	黄灰色(2.5Y6/1)	灰黄褐色(10YR6/2)
106	376	64上	弥生土器	甕	中期前葉	8KU	三角形刺突文と半截竹管の直線文	黄色(2.5Y8/6)	黄色(2.5Y8/6)
106	377	64上	弥生土器	甕	中期前葉	5KA,6KA	口径11.6cm、残存率25%、半截竹管による直線文と逆U字の刺突文	にぶい黄褐色(10YR7/3)	にぶい黄褐色(10YR7/3)
106	378	64上	弥生土器	甕	中期前葉	6KI杭	櫛描直線文、刺突文	暗褐色(10YR8/4)	暗褐色(10YR8/4)
106	379	64上	弥生土器	甕	中期前葉	7U	羽状文、半截竹管による直線文と逆U字の刺突文	褐灰色(7.5YR4/1)	明黄褐色(10YR6/6)
106	380	64上	弥生土器	甕	中期前葉	6U	半截竹管による直線文と山形文、工具を合わせた円形の刺突	浅黄橙色(10YR8/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
106	381	64上	弥生土器	甕	中期前葉	7KI	半截竹管による直線文と波状文	灰白色(10YR8/2)	灰白色(10YR8/2)
106	382	64上	弥生土器	甕	中期前葉	7KU	口縁端部と胴部に刺突	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
106	383	64下	弥生土器	甕	中期前葉	4I	半截竹管による刺突文	黄橙色(10YR8/8)	黄色(2.5Y7/8)
106	384	64下	弥生土器	甕	中期前葉	8KI	口縁内面に波状文、胴部に逆U字の刺突文	黄褐色(10YR5/8)	黄橙色(10YR7/8)
106	385	64下	弥生土器	甕	中期前葉	5KA	口縁端部に斜格子の刻み、ナデ	黄色(2.5Y8/6)	黄色(2.5Y8/6)
106	386	64下	弥生土器	甕	中期前葉	5U	ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/4)	黄橙色(10YR7/8)
106	387	64下	弥生土器	甕	中期前葉	5I,5U	口縁が逆L字、磨滅	黄橙色(10YR8/8)	黄橙色(10YR8/8)
106	388	64下	弥生土器	甕	中期前葉	10KE	口縁端部がT字、ナデ	黄色(2.5Y8/6)	黄色(2.5Y8/6)
106	389	64下	弥生土器	甕	中期前葉	5U	口縁が逆L字	橙色(5YR7/8)	橙色(5YR6/8)
106	390	64下	弥生土器	甕	中期前葉	5U	口縁部の下に強く稜がある、ナデ	黄褐色(10YR5/8)	明黄褐色(10YR6/8)
107	391	66	弥生土器	甕	中期前葉	5I,5U	口径13.9cm、残存率38%、ケズリ？、ナデ	淡茶褐色(7.5YR5/4)	淡茶褐色(7.5YR7/6)
107	392	64下	弥生土器	鉢	中期	4I	ナデ	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄色(2.5Y8/4)
107	393	64下	弥生土器	広口壺	Ⅲ－2様式	2E	円形浮文、斜格子文、沈線	黄色(2.5Y8/6)	黄色(2.5Y8/6)
107	394	64下	弥生土器	広口壺	Ⅲ－2様式	2I	円形浮文、6条の凹線文	明黄褐色(10YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)
107	395	64下	弥生土器	広口壺	中期中葉	表採	口径19.0cm、残存率20%、ヨコナデ	オリーブ黒色(7.5Y3/1)	灰色(7.5Y6/1)
107	396	64下	弥生土器	広口壺	中期中葉	表採	指で突帯上に施文、ナデ、ヘラミガキ	褐色(10YR4/4)	明黄褐色(10YR7/6)
107	397	64下	弥生土器	短頸壺	中期中葉	10KI	刻みを持つ突帯、O字刻み	浅黄橙色(10YR8/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
107	398	64下	弥生土器	長頸壺	中期後葉	6U	刺突文、櫛描直線文、ヘラ描斜線文	淡黄色(2.5Y7/3)	黄色(2.5Y8/6)
107	399	65上	弥生土器	無頸壺	Ⅲ－1様式	5U	口径8.8cm、残存率20%、三列の刺突文、ヘラミガキ、口縁部に蓋用の孔	暗灰黄色(2.5Y5/2)	明黄褐色(10YR7/6)
107	400	65上	弥生土器	無頸壺	Ⅲ－1様式	2E	刺突文	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
107	401	65上	弥生土器	無頸壺	Ⅲ－1様式	6A	胴径15.0cm、残存率25%、波状文、刺突文、ヘラミガキ	黄橙色(10YR8/8)	浅黄橙色(10YR8/4)
107	402	65上	弥生土器	無頸壺？	Ⅲ－1様式	5U	櫛描直線文と波状文、焼成時破損土器の可能性	黄橙色　(10YR8/6)	黄橙色　(10YR8/6)
107	403	65上	弥生土器	壺	中期	5E	底径6.2cm、残存率35%	黄橙色(10YR7/8)	褐灰色(10YR4/1)
107	404	65上	弥生土器	甕	中期	4U	口縁部屈曲、ヘラミガキ	明黄褐色(2.5Y7/6)	黄橙色(10YR7/8)
107	405	65上	弥生土器	甕	中期	8KU	く字に屈曲、ナデ	明黄褐色(2.5Y7/6)	黄橙色(10YR7/8)
108	406	65上	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	6A	口径17.1cm、残存率27%	暗褐色(7.5YR3/3)	にぶい黄褐色(10YR7/4)
108	407	65上	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	5O	口縁端部をわずかに拡張	浅黄色(2.5Y7/4)	灰黄色(2.5Y7/2)
108	408	65上	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	2E	口縁端部に2条の凹線文、胴部内面はヘラケズリ後ヘラミガキ	黒褐色(2.5Y3/2)	黒褐色(2.5Y3/2)
108	409	65上	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	6U	口縁端部に3条の凹線文、磨滅	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR7/8)
108	410	65下	弥生土器	甕	Ⅲ－1様式	8KI,9KE	胴部に横長の刺突文、タテハケ、軟質	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR7/8)
108	411	65上	弥生土器	甕	Ⅲ－1様式	8KI	二列の小さな刺突文、ハケ、ナデ	黄橙色(10YR8/6)	黄色(2.5Y8/6)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	時期	調査区	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
108	412	66下	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	5U	口径25.0cm、残存率30%、頸部指頭圧痕突帯、刺突文	淡黄褐色(10YR8/4)	淡黄色(2.5Y7/6)
108	413	65下	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	5U	口径25.0cm、残存率15%、頸部刻目突帯、爪で突帯の上を刻む	明黄褐色(10YR6/8)	明黄褐色(10YR6/6)
108	414	65上	弥生土器	甕	Ⅲ－2様式	2I	頸部指頭圧痕突帯	灰黄褐色(10YR4/2)	にぶい黄褐色(10YR5/3)
108	415	65下	弥生土器	甕	Ⅳ－1様式	6U	肩部に直線文と斜行する刻み文	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄色(2.5Y8/4)
108	416	66	弥生土器	甕	中期	5U	底径5.0cm、底部完存、ヘラミガキ	褐色(10YR4/4)	灰黄褐色(10YR4/2)
108	417	66	弥生土器	甕	中期	6A	底径4.4cm、焼成時破損土器の可能性	浅黄橙色(10YR8/3)	黄橙色(10YR8/6)
109	418	67上	弥生土器	高坏	Ⅲ－2様式	7KE	口径34.0cm、残存率23%、円形浮文、3条の凹線文、ヨコヘラミガキ	淡黄褐色(2.5Y7/4)	淡黄褐色(2.5Y7/4)
109	419	67下	弥生土器	高坏	Ⅲ－2様式	5U	端部V字の刻み	明黄褐色(2.5Y7/6)	明黄褐色(2.5Y7/6)
109	420	67下	弥生土器	鉢or高坏	中期	4I	端部は突帯状でV字刻みが斜めに入る、中は凹線	淡黄色(2.5Y8/4)	淡黄色(2.5Y8/4)
109	421	67下	弥生土器	壺？	中期？	7KI	内面に刺突と凹線	橙色(7.5YR7/6)	明褐灰色(7.5YR7/2)
109	422	67下	弥生土器	鉢	中期後葉	6U	6条の凹線文、ナデ	黄橙色(10YR8/8)	黄橙色(10YR8/8)
109	423	67下	弥生土器	高坏	中期後葉	5E	脚径14.0cm、残存率20%、ヘラケズリ	黄橙色(10YR7/8)	黄橙色(10YR7/8)
109	424	67下	弥生土器	高坏	中期後葉	6U	脚径10.6cm、残存率15%、直線文、円形透かし	灰黄褐色(10YR4/2)	灰黄褐色(10YR4/2)
109	425	67下	弥生土器	高坏	中期中葉	5U	脚径11.2cm、残存率20%、突帯の上下を強くヨコナデ、三角形透かし	黄橙色(10YR7/8)	にぶい黄褐色(10YR6/4)
109	426	67下	弥生土器	高坏	中期後葉	6O	直線文	浅黄橙色(10YR8/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
109	427	67下	弥生土器	鉢？	中期？	8O	丸底、土製品の可能性	黄灰色(2.5Y4/1)	黄灰色(2.5Y4/1)
109	428	67下	弥生土器	壺	後期	7KI	櫛描波状文	にぶい褐色(7.5YR5/4)	にぶい褐色(7.5YR5/4)
109	429	67下	弥生土器	甕	中期末葉	8U	口径15.0cm、残存率15%、口縁は上方に伸びる	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
109	430	67下	弥生土器	甕	後期	6KU	貝による刺突文	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
109	431	67下	古式土師器	甕	古墳前期	6U	二段のゆるい波状文	浅黄橙色(10YR8/3)	浅黄橙色(10YR8/3)
109	432	67下	古式土師器	甕	古墳前期	5U	二段の波状文と密な刺突文	明赤褐色(5YR5/8)	明赤褐色(5YR5/8)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	時期	遺構名	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
110	433	68上	中世土師器	皿	鎌倉時代	掘立柱建物1P2	底径5.2cm、残存率15%、回転糸切り	褐灰色(10YR5/1)	浅黄橙色(7.5YR8/6)
110	434	68上	須恵器	甕	鎌倉時代	掘立柱建物1P2	回転ヘラケズリ、回転ナデ	青灰色(5B6/1)	青灰色(5B6/1)
110	435	68上	備前焼	甕	鎌倉時代	掘立柱建物1P1	ナデ	橙色　(2.5YR6/8)	緑灰色(10GY6/1)
110	436	68上	中世土師器	坏	鎌倉時代	掘立柱建物2P4	口径17.0cm、残存率15%	淡橙灰色(10YR8/3)	淡橙灰色(10YR8/3)
110	437	68上	中世土師器	皿	鎌倉時代	柵1P3	回転ナデ	黄灰色(2.5Y5/1)	黄灰色(2.5Y5/1)
110	438	68上	中世土師器	坏	鎌倉時代	掘立柱建物5P8	底径5.8cm、残存率15%、回転糸切り	黄橙色(7.5YR7/8)	黄橙色(7.5YR7/8)
110	439	68上	中国青花	碗	16C末	掘立柱建物11P14	底径5.6cm、漳州窯	明緑灰色(10GY8/1)	明緑灰色(10GY8/1)
110	440	69	在地系陶器	蓋	江戸時代	掘立柱建物15	口径8.4cm、器高2.1cm、頂部径3.4cm	釉：赤色(10R4/8)	無釉：橙色(5YR6/6)
110	441	69	在地系陶器	壺	江戸時代	掘立柱建物15	口径8.4cm、器高6.4cm、胴径9.2cm、底径5.0cm、口縁端部無釉	釉：赤色(10R4/8)	無釉：橙色(5YR6/6)
110	442	69	在地系陶器	蓋	江戸時代	掘立柱建物16	口径8.2cm、器高2.0cm、頂部径3.8cm	釉：暗赤色(10R3/6)	無釉：橙色(5YR6/6)
110	443	69	在地系陶器	壺	江戸時代	掘立柱建物16	口径8.6cm、器高6.1cm、胴径9.2cm、底径5.0cm、口縁端部無釉、上げ底	釉：暗赤色(10R3/6)	無釉：橙色(5YR6/6)
110	444	68上	天目茶碗	碗	16世紀代	土坑55	底部径4.3cm、見込みに焼き台の痕	褐色(10YR6/4)	褐色(10YR6/4)
110	445	68上	備前焼	擂鉢	16世紀代	土坑55	内面はよく使用されて平滑	にぶい赤褐色(2.5YR4/3)	にぶい赤褐色(2.5YR4/3)
110	446	68上	瓷器系陶器	壺	16世紀代	土坑55	ナデ	赤色(10YR4/6)	赤灰色(2.5YR5/1)
110	447	68上	須恵器	壺	古墳後期~古代	P481	口縁内面に自然釉	オリーブ灰色(5GY6/1)	オリーブ灰色(5GY6/1)
110	448	68下	砥石			掘立柱建物1P2	現長15.9cm、幅7.6cm、厚さ5.2cm		
111	449	69	備前焼	甕	15世紀代	土坑52,P201	口径44.4cm、残存率20%	赤茶色(7.5R4/8)	赤茶色(7.5R4/8)
111	450	69	土師器	擂鉢	15世紀代	土坑52,6KU	口径31.0cm、器高12.0cm、底径12.8cm、残存率75%、擂り目は１本ずつ描く、磨滅	橙黄色(2.5Y8/8)	暗褐色(2.5Y5/1)
111	451	68下	瓷器系陶器	壺	15世紀代	土坑52	ナデ	オリーブ灰色(2.5GY6/1)	青灰色(10BG5/1)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	時期	調査区	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
112	452	71上	土師器	甕	奈良・平安	6U	口径15.8cm、残存率20%	淡黄褐色(10YR8/3)	淡黄褐色(10YR8/3)
112	453	71上	土師器	甕	奈良・平安	6WA		黄橙色(7.5YR8/8)	黄橙色(7.5YR8/8)
112	454	71上	土師器	甑	奈良・平安	6WA	残存率15%、内面ヨコヘラミガキ？	浅黄橙色(10YR8/4)	浅黄橙色(10YR8/4)
112	455	71上	土師器	甑	奈良・平安	6WA	器高18.0cm、ナデ	浅黄色(2.5Y7/4)	浅黄色(2.5Y7/4)
112	456	71上	赤彩土師器	椀	奈良・平安	6WA	内外赤彩、磨滅	浅黄橙色(7.5YR8/6)	浅黄橙色(7.5YR8/6)
112	457	71上	土師器	皿	平安時代	4A	口径11.4cm、器高2.0cm、残存率15%、ヘラケズリ	明黄橙色(10YR8/4)	明黄橙色(10YR8/4)
112	458	70	須恵器	横瓶	奈良・平安	8E	胴径（長軸）44.4cm、胴径（短軸）23.3cm、頸部径8.6cm、残存率30%	明青灰色(10BG7/1)	明青灰色(10BG7/1)
112	459	70下	須恵器	坏	奈良時代	8O	口径13.6cm、残存率15%、回転ナデ	暗灰色(5BG5/1)	暗灰色(5BG5/1)
112	460	72	須恵器	高台付坏	奈良時代	6WA	口径13.0cm、底径7.8cm、器高4.7cm、底部完存、回転ナデ	明青灰色(5BG7/1)	明青灰色(5BG7/1)
112	461	70下	須恵器	高台付坏	奈良時代	6E	底径9.5cm、残存率50%、回転糸切り	灰色　(7.5Y6/1)	灰色　(7.5Y6/1)
112	462	70下	須恵器	高台付坏	奈良・平安時代	4I	口径11.7cm、底径8.4cm、器高3.5cm、残存率25%、体部直線的	暗灰色　(5B6/1)	暗灰色　(5B6/1)
112	463	70下	須恵器	坏	奈良・平安	6WA		緑灰色(10GY5/1)	緑灰色(7.5GY6/1)
113	464	70下	須恵器	大甕	古墳後期～奈良・平安	6WA	焼き台が付く、内外面の一部に自然釉、カキメは弱く施す	明青灰色(10BG7/1)	明青灰色(10BG7/1)
113	465	70下	須恵器	甕	平安時代	6KU	硬質、内面ナデ	淡黄褐色(7.5Y7/2)	淡黄褐色(7.5Y7/2)
113	465	70下	須恵器	甕	平安時代	5KU	硬質、内面ナデ消し	淡黄褐色(7.5Y7/2)	淡黄褐色(7.5Y7/2)
113	466	70下	須恵器	甕	平安時代	5KA	硬質、内面ナデ	明青灰色(5B7/1)	明青灰色(5B7/1)
113	467	70下	須恵器	甕	平安時代	5KA	やや軟質、内面ハケ	青灰色(10BG5/1)	青灰色(10BG5/1)
113	468	70下	須恵器	甕	平安時代	5U	軟質、内面ハケ	黄橙色(10YR8/6)	浅黄橙色(10YR8/4)
113	469	72	中世土師器	坏	平安時代末～鎌倉	4KO	口径14.4cm、底径6.4cm、器高3.6cm、残存率45%	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)
113	470	71下	中世土師器	坏	平安時代末～鎌倉	4KA杭	口径17.7cm、底径5.2cm、器高3.8cm、残存率75%（底）、炭化物付着	浅橙色(2.5Y7/4)	にぶい黄橙色(10YR7/4)
113	471	72	中世土師器	坏	鎌倉？	6E	口径14.5cm、残存率50%	黄橙色(10YR8/6)	黄橙色(10YR8/6)

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	器種	時期	調査区	形態・文様の特徴	色調（外）	色調（内）
113	472	71下	中世土師器	皿	鎌倉？	6KE	口径12.2cm、底径5.2cm、器高3.0cm、残存率15%	灰白色(2.5Y8/2)	灰白色(2.5Y8/2)
113	473	72	中世土師器	皿	鎌倉？	7I	口径9.0cm、底径4.4cm、器高3.0cm、残存率65%、内面が黒ずむ	橙色(7.5Y6/6)	灰褐色(7.5Y5/2)
113	474	71下	中世土師器	皿	鎌倉？	6I	口径7.4cm、底径3.2cm、器高1.8cm、残存率20%、回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2)	灰白色(2.5Y8/2)
113	475	71下	中世土師器	坏	鎌倉？	6WA	底径9.4cm、残存率15%、底部ナデ	黄橙色(7.5YR7/8)	明褐色(7.5YR5/8)
113	476	72	青白磁	合子	13世紀代	表採	口径7.5cm、底径5.2cm、器高2.1cm、完形	灰白色(10YR8/1)	灰白色(10YR8/1)
113	477	72	美濃灰釉	丸皿	16世紀代	5KU	口径10.2cm、底径5.7cm、器高2.3cm、残存率70%	緑がかった釉	釉のない部分:2.5Y8/1
113	478	70下	土師器	こね鉢	中世	5E	内面ハケ、磨滅	淡黄色(2.5Y8/3)	淡黄色(2.5Y8/3)
113	479	70下	土師器	擂鉢	中世	4WA	擂り目5条一単位	黄灰色(2.5Y5/1)	黄灰色(2.5Y5/1)
113	480	70下	備前焼	擂鉢	15世紀代	7A	端部は上方へ拡張、備前Ⅳ期	暗赤色(7.5R3/6)	赤色(10R4/8)
113	481	72	備前焼	片口小壺	室町～戦国	5WA	口径4.0cm、口縁部完存	にぶい橙色(5YR6/3)	暗赤褐色(2.5YR3/6)
113	482	70下	備前焼	小壺	室町～戦国	5WA	注口部	褐色(10YR6/1)	褐色(10YR6/1)
113	483	70下	瓷器系陶器	壺	中世？	3KE	回転ナデ、内面ナデ消し	明緑灰色(7.5GY7/1)	明緑灰色(7.5GY7/1)

表12−2　家の後Ⅱ遺跡　石器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	器種	遺構名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
114	484	73上	2	石鏃	土坑1	安山岩	21.3	13.4	3.6	0.96	平基式
114	485	73上	4	石鏃	土坑4	安山岩	23.1	13.2	3.0	0.87	平基式
114	486	73上	9	石錐	土坑30	安山岩	21.0	7.0	4.0	0.66	
114	487	73上	6	RF	土坑32	安山岩	22.2	17.0	6.0	2.47	
114	488	73上	8	楔形石器	土坑50	安山岩	30.2	14.5	3.9	3.06	
114	489	73上	12	尖頭器	P5	安山岩	42.0	21.3	8.3	7.49	
114	490	73上	15	石鏃	P311	安山岩	18.6	10.5	3.3	0.51	平基式
114	491	73上	14	石錐	P87	黒曜石	14.1	13.2	2.0	0.35	
114	492	73上	18	石錐	P562	安山岩	21.0	13.0	3.0	0.79	
114	493	73上	7	石核	土坑38	安山岩	31.1	33.5	2.7	4.38	求心剥離石核
114	494	73上	23	石鏃	竪穴住居1−P2	安山岩	20.5	13.1	4.1	0.73	凹基式
114	495	73上	22	石鏃	竪穴住居1−P1	安山岩	14.6	13.4	3.1	0.62	凹基式
114	496	73上	10	石錘	土坑30	未検討	49.9	45.1	16.0	61.05	

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	器種	遺構名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
115	497	73下	1	石鏃	6E	安山岩	15.0	14.1	2.0	0.39	平基式
115	498	73下	2	石鏃	6O	安山岩	14.2	14.0	2.9	0.49	平基式
115	499	73下	3	石鏃	5E	安山岩	16.1	14.8	2.5	0.71	平基式
115	500	73下	4	石鏃	5WA	安山岩	19.1	14.9	2.3	0.74	平基式
115	501	73下	5	石鏃	4I	安山岩	18.3	10.4	1.3	0.69	平基式
115	502	73下	6	石鏃	7U	安山岩	15.7	12.7	2.3	0.34	平基式
115	503	73下	7	石鏃	6KE	安山岩	19.3	15.1	2.2	0.56	平基式
115	504	73下	8	石鏃	5KI	安山岩	19.1	13.9	1.9	0.51	平基式
115	505	73下	9	石鏃	5O	安山岩	17.2	13.5	1.5	0.53	平基式
115	506	73下	10	石鏃	6KE	安山岩	17.3	13.9	1.4	0.48	平基式
115	507	73下	11	石鏃	6O	安山岩	20.0	13.1	2.9	0.58	平基式
115	508	73下	12	石鏃	5U	安山岩	20.8	13.3	3.3	0.9	平基式
115	509	73下	13	石鏃	5O	安山岩	17.8	12.0	3.5	0.65	平基式
115	510	73下	14	石鏃	6KE	安山岩	29.1	14.2	3.1	1.08	平基式
115	511	73下	15	石鏃	7I	安山岩	29.7	14.4	2.7	1.03	平基式
115	512	73下	16	石鏃	4U	安山岩	19.9	16.1	2.4	0.71	平基式
115	513	73下	17	石鏃	4A	安山岩	20.5	21.1	4.6	0.99	平基式
115	514	73下	18	石鏃	5E	安山岩	22.0	7.0	3.1	2.49	平基式
116	515	74上	19	石鏃	6U	黒曜石	16.1	10.4	2.2	0.32	平基式
116	516	74上	20	石鏃	3KA	安山岩	20.4	15.9	3.0	0.73	平基式
116	517	74上	21	石鏃	5A	安山岩	18.5	0.0	2.6	0.99	平基式
116	518	74上	22	石鏃	6A	黒曜石	17.9	12.2	3.7	0.42	凹基式
116	519	74上	23	石鏃	7I	黒曜石	11.7	13.5	3.0	0.5	凹基式
116	520	74上	24	石鏃	5U	安山岩	18.1	14.9	3.8	0.54	凹基式
116	521	74上	25	石鏃	4WA	安山岩	18.5	12.1	4.4	0.39	凹基式
116	522	74上	26	石鏃	6WA	黒曜石	21.2	12.4	3.6	0.76	凹基式
116	523	74上	27	石鏃	5WA	安山岩	21.3	14.2	4.1	0.68	凹基式
116	524	74上	28	石鏃	6E	黒曜石	24.0	10.4	2.2	0.87	凹基式
116	525	74上	29	石鏃	4KA	安山岩	14.0	14.9	2.9	0.29	凹基式
116	526	74上	30	石鏃	4WA	安山岩	22.8	19.4	4.0	0.83	凹基式
116	527	74上	31	石鏃	6KI	黒曜石	24.8	17.4	4.1	1.43	凹基式
116	528	74上	32	石鏃	6KU	安山岩	26.5	20.0	2.1	1.58	凹基式
116	529	74上	33	尖頭器	5I	安山岩	23.1	14.0	2.7	3.8	大半が欠損
117	530	74上	34	石錐	5O	安山岩	20.0	13.5	7.3	0.6	
117	531	74上	35	石錐	6KA	安山岩	28.9	14.0	6.1	0.87	
117	532	74上	36	石錐	6WA	黒曜石	28.1	15.9	2.7	1.23	
117	533	74下	37	石錐	5I	安山岩	24.8	10.5	1.4	1.32	
117	534	74下	38	石錐	5KI	黒曜石	13.9	23.1	8.5	0.22	
117	535	74下	39	スクレイパー	4WA	安山岩	43.2	39.9	4.1	6.83	
117	536	74下	40	スクレイパー	6U	安山岩	23.9	10.0	8.5	4.63	
117	537	74下	41	スクレイパー	9O	黒曜石	26.5	36.1	12.2	2.42	楔形石器と兼用
117	538	75上	42	スクレイパー	6WA	安山岩	64.9	55.3	8.2	28.35	
117	539	74下	43	スクレイパー	5O	黒曜石	45.0	90.3	6.0	13.14	
118	540	75上	44	スクレイパー	5KA	安山岩	43.1	0.0	8.0	24.71	
118	541	75上	45	スクレイパー	4U	安山岩	39.9	0.0	9.9	36.19	
118	542	74下	46	スクレイパー	5U	黒曜石	17.5	23.0	8.8	3.01	
118	543	74下	47	RF	8U	安山岩	21.9	23.0	4.1	4.06	
118	544	74下	48	RF	8E	黒曜石	21.1	28.4	6.5	2.21	
118	545	74下	49	UF	6YO	黒曜石	17.8	39.8	8.1	3.49	
118	546	75上	51	UF	10KI	メノウ	53.0	13.4	4.2	19.6	石刃状
118	547	74下	50	UF	4KI	安山岩	22.0	33.5	10.1	4.85	
119	548	75下	52	楔形石器	7I	黒曜石	18.9	13.1	6.2	104	
119	549	75下	53	楔形石器	5O	黒曜石	26.0	10.2	9.2	2.63	
119	550	75下	54	楔形石器	8E	黒曜石	27.5	14.4	13.5	2.53	
119	551	75下	55	楔形石器	6U	黒曜石	28.9	23.0	9.9	6.99	
119	552	75下	56	楔形石器	5I	黒曜石	21.1	14.1	15.0	5.43	単剥離面打面を持つ
119	553	75下	57	楔形石器	6U	黒曜石	30.2	22.5	8.3	5.94	
119	554	75下	58	楔形石器	4KA	黒曜石	33.1	22.9	9.1	10.23	
120	555	76上	59	楔形石器	5WA	安山岩	34.5	21.8	6.1	5.95	
120	556	76上	60	楔形石器	6I杭	安山岩	22.9	15.5	10.4	3.96	単剥離面打面を持つ
120	557	76上	61	楔形石器	5A	安山岩	56.7	22.9	8.7	9.78	
120	558	76上	62	楔形石器	7O	安山岩	28.3	23.8	18.9	5.38	
120	559	75下	63	楔形石器	6O	黒曜石	44.2	33.9	17.0	16.77	
120	560	75下	64	楔形石器	4YO	黒曜石	24.3	16.2	2.7	12.93	単剥離面打面を持つ
121	561	75下	65	石核	6YO	黒曜石	20.0	33.5	23.1	2.55	多方向剥離石核
121	562	76上	66	石核	5YO	安山岩	23.4	86.7	5.4	21.52	多方向剥離石核
121	563	76上	67	板状剥片	6O	安山岩	58.7	86.7	9.0	27.7	

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	器種	遺構名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
122	564	76下	68	磨製石斧	7O	未検討	159.0	76.0	52.0	856.93	
122	565	76下	69	磨製石斧	6O	未検討	108.0	53.0	38.0	344.57	
122	566	76下	70	磨製石斧	6KA	未検討	82.0	47.0	30.0	167.31	
122	567	76下	71	石斧	9KI	未検討	129.0	63.0	29.0	285.45	磨製石斧の剥離整形段階か
122	568	76下	72	磨製石斧		未検討	110.0	56.0	36.0	344.66	
122	569	76下	73	磨製石斧	5KA	未検討	67.0	46.0	33.0	161.03	
122	570	77下	74	打製石斧	5U	未検討	82.0	44.0	9.0	48.61	
122	571	77下	75	磨製石斧	5U	未検討	51.0	27.0	10.5	19.93	横斧用
122	572	76下	76	磨製石斧	4I	未検討	188.0	48.0	37.0	497.13	
123	573	77上	77	磨製石斧	6O	未検討	105.0	58.0	27.0	253.13	
123	574	77上	78	磨製石斧	6O	未検討	159.0	62.5	29.9	526.79	
123	575	77上	79	磨製石斧	5WA	未検討	110.0	64.0	45.4	452.85	
123	576	77下	80	石錘	5U	未検討	37.0	33.0	9.8	17.23	
123	577	77下	81	石錘	6WA	未検討	57.5	24.0	0.0	40.62	
123	578	77下	82	石錘	4U	未検討	57.5	28.5	8.9	22.12	
123	579	77上	84	石錘	4U	未検討	143.1	125.2	73.9	2059.54	
123	580	77上	85	石錘	5O	未検討	81.8	65.4	21.9	197.04	
124	581	78上	86	磨石・敲石類	6U	未検討	81.3	80.6	3.0	322.48	
124	582	78上	87	磨石・敲石類	5A	未検討	95.2	80.5	49.7	565.12	
124	583	78上	88	磨石・敲石類	3I	未検討	97.3	87.2	52.6	679.72	
124	584	78上	89	磨石・敲石類	6A	未検討	137.0	101.0	57.3	1124.51	
124	585	78上	90	磨石・敲石類	5U	未検討	185.0	74.9	52.8	1206.18	
124	586	78上	91	凹石	7U	未検討	129.0	117.6	55.0	1169.2	
124	587	78上	92	凹石	6U	未検討	98.6	97.5	46.2	703.39	
124	588	78下	93	凹石	5O	未検討	117.2	100.1	58.1	1071.93	
124	589	78下	94	凹石	6U	未検討	111.0	92.3	55.8	794.73	
124	590	78下	95	石皿	3E	未検討	182.0	153.0	47.4	1962.86	
124	591	78下	96	独鈷石？	5U	未検討	98.0	43.0	33.0	215.79	
124	592	78下	98	石棒	6KU	未検討	97.0		51.0	355.05	
124	593	78下	99	砥石	7KI	未検討	94.6	50.1	39.1	360.42	
124	594	78下	97	石製品	3I	未検討	31.0	36.0	31.0	31.82	研磨されている
			100	石鏃	8O	安山岩	19.5	14.4	3.2	1.08	平基式
			101	石鏃	8E	黒曜石	16.8	10.7	3.2	0.5	平基式
			102	石鏃	7O	安山岩	20.5	16.9	3.4	1.04	平基式
			103	石鏃	6YO	黒曜石	19.2	9.5	2.9	0.34	凹基式？基部欠損
			104	石鏃	6A	安山岩	20.4	12.0	2.8	0.63	凹基式。未製品
			105	石鏃	6U	安山岩	18.3	19.2	3.5	1.46	平基式。先端部欠損
			106	石鏃	6U	安山岩	18.1	10.2	3.2	0.79	基部欠損
			107	石鏃	5A	安山岩	15.3	10.0	1.9	0.28	未製品
			108	石鏃	5KI	安山岩	20.8	19.4	3.9	1.55	平基式
			109	石鏃	4YO	黒曜石	13.4	10.5	2.1	0.35	凹基式
			110	石鏃	4WA	安山岩	20.9	16.5	3.5	1.06	凹基式
			111	石鏃	4A	安山岩	33.1	14.8	6.1	2.13	凹基式。基部欠損
			237	石鏃	4I	安山岩	23.0	18.0	4.0	1.13	大半が欠損
			268	石鏃	6I	安山岩	16.0	10.0	2.0	0.38	平基式
			269	石鏃	6U	安山岩	13.0	14.0	2.0	0.54	凹基式
			113	スクレイパー	7KA	安山岩	17.2	27.4	2.1	1.56	
			114	スクレイパー	6YO	黒曜石	14.0	12.3	1.6	0.42	
			115	スクレイパー	6O	安山岩	18.1	25.4	3.0	1.39	
			116	スクレイパー	5WA	安山岩	27.5	24.9	6.8	3.82	
			117	スクレイパー	5I	安山岩	18.7	20.3	1.7	1.27	
			118	スクレイパー	5I	安山岩	30.0	14.2	4.6	3.32	
			119	スクレイパー	5O	黒曜石	18.3	16.1	5.3	1.5	
			120	スクレイパー	5KA	安山岩	24.0	13.9	4.2	1.39	
			121	スクレイパー	4O	安山岩	21.6	29.8	4.7	3.8	
			122	スクレイパー		安山岩	31.0	33.6	3.9	4.38	
			123	スクレイパー		安山岩	23.9	37.8	3.5	4.63	
			236	スクレイパー	9E	安山岩	45.0	74.0	5.0	25.12	
			270	スクレイパー	5KI	メノウ	27.0	14.0	5.0	2.09	楔形石器転用
			124	RF	8O	安山岩	12.4	17.1	1.9	0.48	石鏃の未製品の可能性
			125	RF	8KE	安山岩	11.5	16.3	3.3	0.6	
			126	RF	7U	安山岩	15.5	12.1	2.3	0.46	
			127	RF	6YO	安山岩	17.2	18.4	2.0	0.69	
			128	RF	6YO	黒曜石	16.2	21.7	4.1	1.38	
			129	RF	6A	黒曜石	1.5	1.4	4.2	0.66	
			130	RF	6I	安山岩	12.7	16.0	1.1	0.4	
			131	RF	6O	安山岩	28.1	36.3	7.6	8.12	
			132	RF	6O	黒曜石	11.1	17.2	1.9	0.39	
			133	RF	6KA	安山岩	20.5	14.3	2.7	0.72	石鏃の欠損品の可能性
			134	RF	6KU	安山岩	7.5	21.9	2.4	0.63	
			135	RF	6KU	安山岩	19.0	14.6	1.9	0.62	石錐の可能性
			136	RF	5WA	安山岩	13.2	24.9	2.8	1.08	
			137	RF	5WA	安山岩	15.1	27.7	2.3	0.88	
			138	RF	5WA	安山岩	29.1	12.3	3.5	1.6	
			139	RF	5WA	安山岩	17.2	13.7	2.0	0.75	
			140	RF	5WA	安山岩	16.4	15.6	3.5	1.23	
			141	RF	5WA	安山岩	11.9	21.5	1.9	0.6	
			142	RF	5WA	黒曜石	12.3	15.1	4.9	0.88	
			143	RF	5WA	安山岩	18.4	17.2	2.5	1.01	
			144	RF	5A	安山岩	24.1	18.6	1.9	1.72	
			145	RF	5A	安山岩	16.1	18.8	2.7	0.94	
			146	RF	5A	安山岩	13.9	18.5	2.1	0.74	
			147	RF	5A	安山岩	24.9	13.6	7.2	2.73	

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	器種	遺構名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
			148	RF	5Ⅰ	安山岩	13.6	15.9	1.9	0.46	石鏃の未製品の可能性
			149	RF	5KA	安山岩	9.0	19.1	2.2	0.54	
			150	RF	5KⅠ	安山岩	38.2	35.6	3.5	5.55	
			151	RF	4WA	黒曜石	9.1	12.7	2.8	0.24	
			152	RF	4WA	黒曜石	20.5	9.1	5.2	0.71	
			153	RF	4WA	安山岩	21.0	35.9	4.6	3.68	
			154	RF	4Ⅰ	黒曜石	16.2	8.2	2.1	0.23	石錐の可能性
			155	RF	4O	安山岩	9.6	13.2	3.4	0.51	
			156	RF	4O	安山岩	20.3	15.9	1.5	0.75	
			157	RF	4O	安山岩	18.3	20.2	2.4	0.84	
			158	RF	4KA	安山岩	23.3	10.5	7.8	1.14	
			159	RF	4KA	安山岩	16.1	19.7	4.4	1.36	
			160	RF	4KA	安山岩	28.4	19.9	3.1	1.03	
			161	RF	4KA	安山岩	10.3	24.4	3.6	1.52	楔形石器の打面の可能性
			162	RF	3KE	安山岩	19.3	38.4	8.8	4.88	
			163	RF	2Ⅰ	安山岩	34.5	32.0	4.9	5.09	
			171	RF	排土中	安山岩	23.3	16.1	4.8	1.71	
			172	RF	排土中	安山岩	17.2	24.4	2.3	1.42	
			173	RF	試掘	安山岩	13.3	15.7	1.0	0.45	
			174	RF	表採	安山岩	13.5	24.4	1.8	0.6	
			175	RF	表採	安山岩	23.3	29.9	3.5	2.92	
			176	RF	表採	安山岩	19.3	18.7	2.1	1.02	
			177	RF	表採	安山岩	10.2	18.5	3.2	0.58	
			178	RF	不明	安山岩	18.5	12.3	1.0	0.43	
			239	RF	5O	安山岩	17.0	19.0	3.0	1.09	
			179	UF	9O	黒曜石	17.1	9.4	2.3	0.4	
			180	UF	9O	安山岩	22.1	26.5	1.8	1.44	
			181	UF	7Ⅰ	黒曜石	13.1	22.6	4.3	1.15	
			182	UF	7KⅠ	安山岩	19.9	23.4	3.3	1.57	
			183	UF	6WA	黒曜石	26.1	14.2	3.9	1.78	
			184	UF	6A	安山岩	13.9	27.2	3.2	1.23	
			185	UF	6O	安山岩	27.1	40.2	4.6	5.75	
			186	UF	5E	安山岩	17.3	21.0	1.4	0.61	
			187	UF	5O	黒曜石	18.7	18.5	6.1	1.32	
			188	UF	5O	黒曜石	18.2	23.1	4.9	1.65	
			189	UF	5O	黒曜石	11.6	12.3	2.2	0.28	
			190	UF	5O	安山岩	15.7	30.5	3.3	1.8	
			191	UF	5KA	安山岩	16.2	24.3	3.8	1.31	
			192	UF	5KA	安山岩	18.8	20.0	1.5	0.64	
			193	UF	4WA	黒曜石	16.2	11.1	3.5	0.37	
			194	UF	4WA	安山岩	9.6	20.8	1.0	0.56	
			195	UF	4A	黒曜石	23.9	8.5	3.6	0.56	
			196	UF	4KU	黒曜石	10.5	13.6	3.1	0.43	
			199	楔形石器	8Ⅰ	安山岩	28.8	13.5	8.3	3.44	
			200	楔形石器	8E	黒曜石	20.5	10.2	4.1	0.85	
			201	楔形石器	7Ⅰ	黒曜石	31.4	10.3	7.9	2.63	
			202	楔形石器	6YO	黒曜石	22.1	19.6	10.3	5.01	平坦打面を持つ
			203	楔形石器	6YO	黒曜石	29.3	17.5	8.1	2.99	
			204	楔形石器	6YO	安山岩	20.1	14.2	5.9	1.71	
			205	楔形石器	6Ⅰ杭	安山岩	26.1	23.7	5.0	3.47	
			206	楔形石器	6Ⅰ杭	安山岩	39.0	20.6	9.8	7.27	平坦打面を持つ
			207	楔形石器	6U	安山岩	33.5	13.0	6.9	4.37	
			208	楔形石器	6E	黒曜石	23.3	12.1	5.5	1.77	
			209	楔形石器	6O	黒曜石	21.0	13.5	8.8	2.13	
			210	楔形石器	5YO	安山岩	14.1	16.4	3.6	0.92	
			211	楔形石器	5A	黒曜石	22.1	9.7	5.9	1.39	
			212	楔形石器	5E	黒曜石	15.4	6.6	7.0	0.75	
			213	楔形石器	5KA	黒曜石	23.3	9.8	6.4	1.8	
			214	楔形石器	4KA杭	安山岩	39.9	26.8	7.8	10.08	
			215	楔形石器	3Ⅰ	黒曜石	15.4	13.6	4.2	1.43	平坦打面を持つ
			240	楔形石器	5U	安山岩	38.0	20.0	7.0	5.07	楔形石器の削片の可能性
			241	楔形石器	5KⅠ	安山岩	30.0	17.0	4.0	2.93	楔形石器の削片の可能性
			242	楔形石器	7KU	安山岩	29.0	17.0	10.0	4.9	
			243	楔形石器		安山岩	33.0	18.0	8.0	6.98	
			217	石核	5WA	黒曜石	13.1	18.4	8.7	1.94	多方向剥離石核
			218	石核	5WA	安山岩	16.2	21.3	14.5	6.85	多方向剥離石核
			244	石核	5U	安山岩	24.0	17.0	4.0	3.65	石核片
			245	石核		安山岩	27.0	24.0	6.0	5.1	石核片
			221	磨製石斧	7Ⅰ	未検討	70.2	44.4	20.6	104.23	両端部が欠損
			222	磨製石斧？	4U	未検討	44.2	34.5	13.3	24.1	大半が欠損
			223	石錘？	7Ⅰ	未検討	27.8	47.5	10.1	21.32	大半が欠損
			224	打製石斧？		玄武岩	78.0	50.0	2.0	112.7	未製品？
			271	打製石斧	6U	泥岩	64.0	42.0	10.0	50.5	基部欠損
			228	磨石・敲石類		未検討	96.0	84.0	66.0	757.87	
			283	磨石・敲石類	3Ⅰ	未検討	126.0	109.0	82.0	2160	
			284	磨石・敲石類	3Ⅰ	未検討	136.0	89.0	43.0	765.25	大半が欠損
			238	磨石・敲石類	3Ⅰ	未検討	68.0	64.0	32.0	248.89	
			285	磨石・敲石類	3Ⅰ	未検討	127.0	104.0	48.0	1050	半分欠損
			286	磨石・敲石類	3Ⅰ	未検討	105.0	87.0	39.0	499.9	半分欠損
			287	磨石・敲石類	3U	未検討	158.0	91.0	53.0	1553.11	
			288	磨石・敲石類	3U	未検討	128.0	116.0	59.0	1208.18	
			289	磨石・敲石類	3U	未検討	126.0	83.0	55.0	757.35	
			290	磨石・敲石類	3U	未検討	156.0	91.0	24.0	386.91	

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	器種	遺構名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
			291	磨石・敲石類	3U	未検討	68.0	61.0	32.0	271.27	半分欠損。被熱
			246	磨石・敲石類	3U	未検討	153.0	119.0	56.0	1671.81	
			247	磨石・敲石類	4I	未検討	82.0	57.0	42.0	244.4	被熱が見られる
			248	磨石・敲石類	4I	未検討	147.0	42.0	27.0	644.95	
			249	磨石・敲石類	4I	未検討	145.0	116.0	32.0	954.34	
			250	磨石・敲石類	4I	未検討	116.0	16.0	51.0	941.84	被熱が見られる
			251	磨石・敲石類	4U	未検討	139.0	92.0	34.0	838.67	
			252	磨石・敲石類	4U	未検討	109.0	74.0	54.0	707.25	
			253	磨石・敲石類	5U	未検討	143.0	140.0	64.0	1644.94	石皿の可能性
			254	磨石・敲石類	5E	未検討	124.0	99.0	49.0	918.73	
			255	磨石・敲石類	6KU	未検討	110.0	84.0	57.0	801.92	
			256	磨石・敲石類	8KU	未検討	153.0	105.0	40.0	1099	
			257	磨石・敲石類	8KU	未検討	119.0	92.0	46.0	805.41	
			258	磨石・敲石類		未検討	93.0	82.0	36.0	452.64	
			272	磨石・敲石類	4I	未検討	127.0	105.0	38.0	992.57	
			273	磨石・敲石類	4O	未検討	58.0	54.0	54.0	253.15	
			274	磨石・敲石類	5U	未検討	112.0	70.0	56.0	750.82	半分欠損
			275	磨石・敲石類	5U	未検討	82.0	47.0	26.0	149.61	
			225	凹石	6U	未検討	98.0	67.0	38.0	395.85	
			226	凹石	4KA	未検討	99.0	64.0	56.0	619.18	半分欠損
			227	凹石	8KU	未検討	99.0	50.0	57.0	376.94	半分欠損
			259	凹石	6KA	未検討	118.0	96.0	60.0	112.03	
			229	石皿	3U	未検討	125.0	83.0	55.0	991.7	半分欠損
			230	石皿	3E	未検討	166.0	118.0	37.0	1298.95	
			231	石皿？	3U	未検討	68.0	64.0	44.0	299.62	大半が欠損
			232	石皿？	6U	未検討	87.0	48.0	46.0	307.09	大半が欠損
			260	石皿	4I	未検討	187.0	31.0	45.0	1603.39	
			261	石皿	4O	未検討	206.0	115.0	58.0	1785.93	大半が欠損。剥離痕が見られる
			262	石皿	5U	未検討	200.0	178.0	50.0	3260	被熱が見られる
			263	石皿	8I	未検討	182.0	124.0	48.0	1682	
			264	石皿	8KU	未検討	143.0	129.0	33.0	1166	
			265	石皿	8KU	未検討	162.0	165.0	56.0	1888	半分欠損
			266	石皿	8KU	未検討	120.0	95.0	45.0	994.82	大半が欠損
			267	石皿	8KU	未検討	310.0	253.0	106.0	11140	
			276	石皿	3I	未検討	157.0	147.0	64.0	2340	
			277	石皿	3E	未検討	261.0	209.0	74.0	5900	
			278	石皿	4U	未検討	154.0	148.0	42.0	1924	
			279	石皿	5U	未検討	167.0	152.0	52.0	2016	
			280	石皿		未検討	248.0	243.0	67.0	5220	剥離痕が見られる
			233	砥石	7I	未検討	73.0	64.0	15.0	93.35	大半が欠損
			234	砥石？	5KI	未検討	48.0	31.0	7.0	13.9	大半が欠損
			235	砥石？	8KU	泥岩	54.0	43.0	25.0	113.34	大半が欠損
			281	石臼の破片	5KI	未検討	86.0	45.0	46.0	250.75	
			282	不明石製品	4U	未検討	94.0	74.0	10.0	168.8	皿状のくぼみがある

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	器種	遺構名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
			30	磨石・敲石類	土坑1	未検討	127.0	91.0	53.0	839	
			31	磨石・敲石類	土坑1	未検討	131.0	76.0	46.0	796.76	被熱が見られる
			32	磨石・敲石類	土坑1	未検討	190.0	74.0	40.0	1114	
			34	石皿	土坑18	未検討	132.0	107.0	57.0	1304	
			35	石皿	土坑18	未検討	178.0	134.0	64.0	2600	
			1	RF	土坑46	安山岩	13.6	18.5	2.7	0.93	
			25	石鏃	土坑39	安山岩	21.0	19.0	3.0	1.5	
			3	RF	土坑39	安山岩	13.1	23.3	2.2	0.64	
			5	RF	土坑42	安山岩	10.9	20.3	2.0	0.74	
			11	RF	土坑36	安山岩	14.1	17.3	1.5	0.48	
			26	UF	土坑55	安山岩	16.9	21.4	1.8	0.63	
			13	RF	P64	安山岩	24.8	29.0	3.2	2.25	
			16	楔形石器	P429	黒曜石	29.9	13.9	5.7	2.09	
			28	石核	P455	黒曜石	28.2	18.6	10.7	7.33	多方向剥離石核
			17	RF	P531	黒曜石	19.4	15.6	3.6	1.21	
			19	UF	P594	黒曜石	20.0	10.0	5.0	0.83	
			20	石鏃	P629	安山岩	18.0	18.1	2.5	0.91	凹基式
			21	RF	P699	安山岩	24.2	13.7	1.4	0.63	
			27	UF	P752	黒曜石	38.0	9.0	8.0	2.33	
			33	石錐	P752	黒曜石	22.0	8.0	3.0	0.62	先端摩滅。ドリル状
			29	板状剥片	P769	安山岩	31.2	78.5	6.9	13.06	
			24	剥片	竪穴住居1P2	安山岩	19.1	16.4	1.0	0.47	未製品

表12－3　家の後Ⅱ遺跡　土製品観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	種別	調査区／遺構名	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	形態・文様の特徴	色調（外）	色調(内)
125	595	79上	土製円盤	7I	5.2	5.0	0.9		褐色(7.5YR6/8)	明褐色(7.5YR5/8)
125	596	79上	土製円盤	5KI	2.9	2.8	0.9	柵1P3	黒褐色(10YR2/2)	褐色(5YR6/8)
125	597	79上	土製円盤	P6	4.4	3.2	0.7		にぶい黄褐色(10YR5/4)	暗褐色(10YR3/3)
125	598	79上	粘土塊	5U	6.1	5.0	3.2		黄褐色(7.5YR7/8)	黄褐色(7.5YR7/8)
125	599	79上	土製品	5E	3.8	3.6	1.1		にぶい黄褐色(2.5Y6/4)	黒褐色(2.5Y3/1)
整理番号										
1			土製円盤	9O	3.4	2.9	0.6	弥生土器を転用		
2			土製円盤	7E	5.0	－	0.8	弥生土器を転用		
3			土製円盤	5U	－	－	0.9	弥生土器を転用		
4			紡錘車	6I	3.2	－	0.6			
5			紡錘車	4KI	3.4	3.1	0.7	土坑30出土、混入の可能性		
6			紡錘車	P621	2.9	2.7	0.6	孔が片寄る		
7			紡錘車	6I	3.4	2.8	0.6	掘立柱建物10P4		

表12－4　家の後Ⅱ遺跡　石臼観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	器種	調査区	寸法	重量（g）	備考
126	600	79下	石臼	4KU	直径16.0cm、器高9.9cm	6080	半分欠損
126	601	79下	石臼	5KO	直径16.8cm、器高9.8cm	3240	半分欠損

表12－5　家の後Ⅱ遺跡　鉄製品観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	器種	調査区	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	備考
127	602	80上	火打金	5KA	30.0	58.0	4.0	
127	603	80上	火打金	5KA	26.0	35.0	4.0	
127	604	80上	紡錘車	5KA	径4.3cm、軸径0.4cm			
127	605	80上	鎹？	P117	径1.5cm、幅6.0cm			
127	606	80上	刀子	掘立柱建物13P2		16.0	3.5	
127	607	80上	刀子	6KA		21.0	4.0	
127	608	80上	鉄鏃	5WA	91.0	43.0	4.0	雁又鏃
127	609	80上	鉄鍋片？	P569	86.0	93.0	21.0	
127	610	80上	釘	P141	67.0	25.0	18.0	
127	611	80上	釘	5O	97.0	10.0	8.0	
127	612	80上	金具	5E	43.0	10.0	10.0	
127	613	80上	釘	Bトレンチ	94.0	10.0	8.0	
127	614	80上	釘	5KE	124.0	11.0	13.0	
127	615	80上	釘	5KE	96.0	15.0	5.0	
127	616	80上	釘	5KE	117.0	27.0	2.5	

表12－6　家の後Ⅱ遺跡　古銭観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	名称	調査区	寸法（cm）							重さ（g）	初鋳年代
					a	b	c	d	e	f	厚さ		
128	617	80下	熙寧元寶	7I	2.48	2.48	2.02	2.68	－	－	0.12	3.38	1068
128	618	80下	○○元寶	P767	2.50	2.50	1.80	1.80	0.82	0.80	0.16	2.69	
128	619	80下	寛永通寶（古）	掘立柱建物14P3	－	2.37	－	1.95	0.98	0.95	0.13	(1.45)	1636
128	620	80下	寛永通寶（古）	4WA	2.41	2.42	2.00	1.97	0.87	0.80	0.13	2.57	1636
128	621	80下	寛永通寶（新）	Cトレンチ	2.36	2.35	1.92	1.85	0.87	0.90	0.15	2.63	1697.1767
128	622	80下	寛永通寶（新）	Cトレンチ	2.43	2.44	2.00	1.95	0.87	0.80	0.13	2.87	1697.1767
128	623	80下	寛永通寶（新）	6KE	2.27	2.25	1.70	1.71	0.90	0.85	0.14	2.05	1697.1767
128	624	80下	寛永通寶（新）	Cトレンチ	2.06	2.10	1.80	1.82	1.00	1.00	0.12	1.52	1697.1767
128	625	80下	不明	4KA	2.41	2.41	1.90	1.91	－－	－－	0.11	1.88	
128	626	80下	不明	掘立柱建物21P2	－	－－	－－	－－	－－	－－	0.14	0.61	
128	627	80下	不明	4KO	－	3.17	－	－			0.18	5.79	
128	628	80下	二銭	3KE	3.17						0.22	13.61	

表13－1　家の後Ⅱ遺跡　一次調査出土土器数量表

					T34	T35	T37	合計
後期後葉～晩期	深鉢	口縁	刻みあり	端部		1		1
			内面・条痕				1	1
			刻みなし	不明	1	1	2	4
			凹線文			1		1
			突帯文			1		1
		胴部			7	29	28	64
				条痕			1	1
	浅鉢	口縁	内面肥厚	沈線		1		1
弥生中期	不明	胴部			1			1
土師器		胴部				1		1
須恵器	甕	胴部				1		1
中世土師器	坏	口縁				4		4
		胴部			1	3		4
		底部			1	5		6
	皿	口縁			1	2		3
		底部				1		1
瓷器系陶器	壺？	胴部			1	1		2
土師器	こね鉢	胴部		鍋か？		1		1
珠洲焼	擂鉢					1		1
				合計	13	54	32	99

表13−2　家の後Ⅱ遺跡　縄文土器数量表

				グリッド	11KU	10KA	10KI	10KU	10KE	9O	9KA	9KI	9KU	8U	8E	8O	8KA	8KI	8KU	8KE	8KO	7WA	7A	7I	7U	7E	7O	7KA	7KI	7KU	7KE	7KO	6YO	6WA	6A	6I	6U	6E	6O	6KA	6KI	6KU	6KE	6KO
縄文時代	器種	部位	特　徴	細部の特徴																																							
菱根式			繊維・縄文あり				1			1	1		1											3	1	1		3			1			4	6	1	2	2		1		1		
			繊維無し・縄文あり							1				1		1	1								3								2				1				1	1		
			条痕									2													1				1				1										
平栫～塞ノ神													1																														
西川津式																																				1							
羽島下層Ⅱ式																																												
北白川下層			Ⅰa・Ⅰb																														1										
			Ⅱ																													2	1						1			
沈線文			曽畑系？																																								
前期？														1		1			1				1			1									1			1					
月崎下層式		口縁					1							1																													
		胴部	条痕							1																																	
彦崎Z1式																									1								2	1									
里木Ⅰ式															1								1		1								1	2	1								
大歳山式		胴部																															1	1	1								
前期末～中期初頭		胴部									1												1	1									1			3	1						
中期		胴部	縄文地										1	1									3	4									6	4	1	5	1						
鷹島式																																	1										
波子式																																	1										
船元1～Ⅱ式			文様												1				1				2		1			1					2	1									
		胴部	縄文地																			1		4					1				3		2	1							
里木Ⅱ式		胴部						1															1	1	1																		
船元Ⅳ式		胴部																					1	1								1	2	1			1	1				
		底部																															2			1							
中津Ⅲ式～島式		胴部	文様																				1			2										2							
崎ヶ鼻式(新)	深鉢						1			2															1			1		1			2				1					
	浅鉢									1	1													2													1					
	鉢	口縁								1					1	1																	1				1					
布勢式	深鉢	口縁																																			2					
四元式	浅鉢	口縁																																		1						
	鉢	胴部															1																									
沖丈式	深鉢	口縁																																								
		胴部																														1				1						
	浅鉢	口縁																															1									
権現山式(古)	深鉢						1																	1								1					1					
	浅鉢	口縁		結節縄文																																						
		胴部																																			1					
	注口																									1	1															
権現山式(古)	鉢	口縁		縄文地			1									1							1	2					1							1					
に伴う可能性	鉢	胴部		縄文地																																	1					
権現山式(新)	深鉢	口縁																								1						1				1					
		胴部																																								
	注口	口縁		擬縄文																			1			2								1		2	1					
		胴部									1		1				1							1				1		1		1			2	10	2	1	2	1		2	
	鉢	口縁		有文																					1										1	2						
	浅鉢	口縁		内面沈線															1									1								1					1		
				グリッド	11KU	10KA	10KI	10KU	10KE	9O	9KA	9KI	9KU	8U	8E	8O	8KA	8KI	8KU	8KE	8KO	7WA	7A	7I	7U	7E	7O	7KA	7KI	7KU	7KE	7KO	6YO	6WA	6A	6I	6U	6E	6O	6KA	6KI	6KU	6KE	6KO

				グリッド	5YO	5WA	5A	5I	5U	5E	5O	5KA	5KI	5KU	5KE	5KO	4YO	4WA	4A	4I	4U	4E	4O	4KA	4KI	4KU	4KE	4KO	3A	3I	3U	3E	3O	3KA	3KI	3KU	3KE	2I	2U	2E	地区割無	不明	合計
縄文時代	器種	部位	特　徴	細部の特徴																																						
菱根式			繊維・縄文あり				1					2	1							1	6	3			2							1			1				1		5	54
			繊維無し・縄文あり				1			1																											1					15
			条痕																		1															1					6
平栫～塞ノ神																																				1					2
西川津式																															1										2
羽島下層Ⅱ式						1																																			1
北白川下層			Ⅰa・Ⅰb			1			1																																	3
			Ⅱ		1		1																																			6
沈線文			曽畑系？																														1				1					2
前期？						1															1																1					9
月崎下層式		口縁																1																								3
		胴部	条痕																	1														1				1				4
彦崎Z1式						1																																				5
里木Ⅰ式						1	2	1												3									1		1						1					17
大歳山式		胴部				3																																				6
前期末～中期初頭		胴部				1																																				9
中期		胴部	縄文地			2	1	1																														1					31
鷹島式																																										1
波子式																																										1
船元Ⅰ～Ⅱ式			文様				1													1																						11
		胴部	縄文地			1			1			1																															15
里木Ⅱ式		胴部																																								4
船元Ⅳ式		胴部											1					1																									10
		底部																																								3
中津Ⅲ式～島式		胴部	文様						1																								1									7
崎ヶ鼻式(新)	深鉢						2						1																													12
	浅鉢					1																																				6
	鉢	口縁																																								5
布勢式	深鉢	口縁																																								2
四元式	浅鉢	口縁																																								1
	鉢	胴部																																								1
沖丈式	深鉢	口縁																		1																						1
		胴部																																								2
	浅鉢	口縁																																								1
権現山式(古)	深鉢									1																																5
	浅鉢	口縁		結節縄文						1							1																										2
		胴部																																								1
	注口																																									2
権現山式(古)	鉢	口縁		縄文地																																				1			8
に伴う可能性	鉢	胴部		縄文地							1																					1										3
権現山式(新)	深鉢	口縁						1										1																									5
		胴部						1	3	2		2	1																												1		10
	注口	口縁		擬縄文				1	2				2														1															13
		胴部				1		1	5	3		3	2		1				1	5	1			1	1				1													53
	鉢	口縁		有文																																						4
	浅鉢	口縁		内面沈線				1												1	1								1													8
				グリッド	5YO	5WA	5A	5I	5U	5E	5O	5KA	5KI	5KU	5KE	5KO	4YO	4WA	4A	4I	4U	4E	4O	4KA	4KI	4KU	4KE	4KO	3A	3I	3U	3E	3O	3KA	3KI	3KU	3KE	2I	2U	2E	地区割無	不明	合計

				グリッド	11KU	10KA	10KI	10KU	10KE	9O	9KA	9KI	9KU	8U	8E	8O	8KA	8KI	8KU	8KE	8KO	7WA	7A	7I	7U	7E	7O	7KA	7KI	7KU	7KE	7KO	6YO	6WA	6A	6I	6U	6E	6O	6KA	6KI	6KU	6KE	6KO
元住吉山Ⅱ	浅鉢	口縁																																									
		口縁	外面に突帯																																								
元住吉山Ⅱに伴う可能性	浅鉢	口縁		凹線化																																			1	1			
		胴部																																				1	1				
宮滝式	深鉢													1										1	1			1										1					
凹線文土器	深鉢	口縁												1														1	2										2	2	1		
		胴部													1				1											1							2		1		2			
	浅鉢	口縁																										1		1								1		1		
		胴部																										1										2					
	注口	注口部																																									
後期	鉢	口縁														1																											
	深鉢										1			1					1					4	5	1							1	1		1	1	1	1	1			
早期～後期				総計			5	1		7	5	2	4	7	4	5	3		5				3	19	29	7	7	7	7	4	3	1	10	32	20	11	36	14	12	9	9	5	2	
後期後葉～晩期中葉	粗製	口縁	刻みあり	端部				1		1	1	3	1		1	11	1	1						1	4	1	5	2		1	1		3	2		8	6	6	7	5	3	1		
	深鉢			内面								1				1	2									1	3	2		1					2		3	12	2	1	4		
				内面・条痕																						1																	
				端部・条痕																																							
				谷尻																							1									1		1				
				端部・外面																																							
				外面												1																									1		
			刻みなし	直線的		1	1					1		1			1							3	2	5	1	2	2		1		4		1	1	5	4	3				1	
				外湾	1							2		2		6	3	1	3					4	2	5	4	6		2	1		2	3			4	4	3	7	3	1		
				内湾・屈曲										1		2	2									1				2					1		2			2			1	
				浮文																																			1				
				条痕・外湾						1						1																							1				
				条痕・直線								1																											2				
				条痕・内湾																																			1	1			
				沈線											1																												
				不明						1		1	1	3	4	6	3	1	2					1	9	2	7	3	5	3			5	11	6	2	19	6	15	7	5	3	2	
				不明・条痕																															1		1							
		胴部			12	4	45	22	12	41	53	32	6	74	80	211	71	38	59	21	3	1	12	110	185	136	130	99	154	52	50	5	100	175	122	153	531	381	425	181	128	132	86	5
				条痕			1			4	3			4	3	13	7		3					8	9	9	8		6		2		4	5	4	1	10	16	16	7	4	4	7	
		底部	上げ底	くぼみ大きい																																			1	1			
			くぼみ底	くぼみ小さい							1							1		1					2		2		1		1		1	2	2		4	1	4	2	1		1	
			平底						1					1		2		1	1					1			1							2									
			不明											1		2	1								1	1	1	2		1			1	1			2	2	4	6	2	1	2	
			丸底																																			2				
			尖底																								1											1				
		文様		刺突文												1	1								1	1	1	2		1							1	3	1	1	1			
				沈線文							1				1						1					1								1		1	3	1		1	1			
				凹線文										2	1													1															
				浮文																					1	1											1		1		1		
				突起																																								
				ナデ状の沈線																						2																		
				段																																								
粗製深鉢				合計	13	5	47	23	13	48	59	41	8	89	91	257	92	43	68	22	4	1	12	128	216	167	164	120	168	63	56	5	120	202	137	168	590	430	497	223	151	147	100	5
				グリッド	11KU	10KA	10KI	10KU	10KE	9O	9KA	9KI	9KU	8U	8E	8O	8KA	8KI	8KU	8KE	8KO	7WA	7A	7I	7U	7E	7O	7KA	7KI	7KU	7KE	7KO	6YO	6WA	6A	6I	6U	6E	6O	6KA	6KI	6KU	6KE	6KO

				グリッド	5YO	5WA	5A	5I	5U	5E	5O	5KA	5KI	5KU	5KE	5KO	4YO	4WA	4A	4I	4U	4E	4O	4KA	4KI	4KU	4KE	4KO	3A	3I	3U	3E	3O	3KA	3KI	3KU	3KE	2I	2U	2E	地区割無	不明	合計
元住吉山II	浅鉢	口縁						1												1																						2
		口縁	外面に突帯							3																																	3
元住吉山IIに伴う可能性	浅鉢	口縁		凹線化				1		1	1	1	1																													7
		胴部											1																													3
宮滝式	深鉢																																									5
凹線文土器	深鉢	口縁						3	2	1		1	2							1	2			1								1										23
		胴部										1	2	1				1					1	1								1					1		1		18
	浅鉢	口縁																																				1		5
		胴部																																				1		4
	注口	注口部																						1																1
後期	鉢	口縁																					1																	2
	深鉢					1		4					1							2																					28
早期～後期				総計	1	15	9	16	15	13	2	11	15	1	1		1	4	4	20	9		2	5	2		1			3		3	4	1	2			7	1	1	4	5	473
後期後葉～晩期中葉	粗製	口縁	刻みあり	端部	1	5	3	2	9	4	7	10	4						1	7	2		2	5	7	1				2	1	2	1							8		161
	深鉢			内面		3			3	2	1	10	1	1				1		3				2	5	1				2	1									2		73
				内面・条痕					1		3		1	1										1		4																12
				端部・条痕							2	1																														3
				谷尻					1				1							2		1			1														1		10
				端部・外面								1																														1
				外面																															1						3
			刻みなし	直線的		3		1		3	7	4	5							7	4	1	2	2						2			1					2			84
				外湾	1	2	3	1	4	8	7	4	5							4		1	3	4	2	1				3			2	1	1				4	2		132
				内湾・屈曲		2			2	1	1	1						1		1	2				2							3						1				31
				浮文																																					1
				条痕・外湾					1			1											1		1																	7
				条痕・直線																	1																					4
				条痕・内湾					2			1						1		1	1									1	1											10
				沈線																					1																	2
				不明		6	8	4	16	9	7		8						3		2		1	3	1				4	2		1		2				2	4	2		218
				不明・条痕					1																2																	5
		胴部			33	310	222	191	627	211	289	446	396	52	3	2	7	67	32	234	169	38	115	208	193	45	8	3		93	16	58	68	17	29	3	9	9	22	110	235	2	8709
				条痕		8	4	12	20	11	12	29	21	2				5		7	10	2	10	10	6	1				1	1	1	2		2				2	5	17		359
		底部	上げ底	くぼみ大きい						1		1															1															5
			くぼみ底	くぼみ小さい		2		2				3	1					1								1	1															38
			平底								1		1																													12
			不明				3	2	2	1	3	2	2	2						2				3	1																	54
			丸底									1																														3
			尖底							1		1	1																													5
		文様		刺突文	1	1		1	4	3	4	1	3							3	1		2						1	1									1		42
				沈線文					3												1			3																		19
				凹線文																																						4
				浮文	1		2	1	1		1	1	1																													13
				突起								1																														1
				ナデ状の沈線																																							2
				段							1																															1
粗製深鉢				合計	37	342	245	217	697	255	346	519	451	58	3	2	7	76	36	271	193	43	136	241	222	54	10	3	0	109	23	64	75	18	35	3	9	9	27	126	267	2	10024
				グリッド	5YO	5WA	5A	5I	5U	5E	5O	5KA	5KI	5KU	5KE	5KO	4YO	4WA	4A	4I	4U	4E	4O	4KA	4KI	4KU	4KE	4KO	3A	3I	3U	3E	3O	3KA	3KI	3KU	3KE	2I	2U	2E	地区割無	不明	合計

				グリッド	11KU	10KA	10KI	10KU	10KE	9O	9KA	9KI	9KU	8U	8E	8O	8KA	8KI	8KU	8KE	8KO	7WA	7A	7I	7U	7E	7O	7KA	7KI	7KU	7KE	7KO	6YO	6WA	6A	6I	6U	6E	6O	6KA	6KI	6KU	6KE	6KO
後期後葉～晩期中葉	浅鉢	口縁	丸い																2						3				3						2		3	3	4			3	2	
			角張る							1						2		1											1		1							1	1	2	4	1	1		
			内面肥厚													4								1	2				1		1						2		3				1	
			内面沈線									1					1			1						1			1						1					1		2		
			内面に段								1																									1							
			内面沈線と段																																1	1	2						
			外面沈線																										1										1				
			外面肥厚																										1				1	1									
			外面に段									1																										2					
			内外面に沈線																																								
			突帯																																						2		
			突起	A1a																									1														
				不明																																							
			端部刻み																																								
			椀状													1		1										1														1	
			大きく椀状													1																											
			逆く字状																																								
			短く屈曲													1	1								1									1		4	3			2		2		
			壺形													1																											
			方形波状口縁																						1												1	1		1		3		
		胴部									3			2	7	10	4	3	10	1	1			13	17	10	6	7	20	5	1		2	3	4	30	39	19	58	26	24	18	3	
			壺形							1																																	
		底部	くぼみ底	くぼみ小さい																																	1	3		1		1		
			上げ底	くぼみ大きい																																2							
			輪状																																								
			平底																						1																		
			突出																						2																		
			不明																										1									1					
浅鉢合計										2	4	2		2	7	20	6	5	12	2	1			14	27	11	6	8	30	5	3		3	5	6	38	52	30	69	36	25	32	7	
晩期突帯文	深鉢	口縁	口縁から下がって付く	端部刻み目															2																		1	1		2	1		1	
			口縁から下がって付く																																1		2			1	1			
			口縁に接する																																								
			口縁にほぼ接する	無刻み目突帯																																1							
			二条突帯		1													1																										
			その他																																1					1		
				突帯文深鉢合計	1													1	2																1	2	3	1		3	3		1	
				グリッド	11KU	10KA	10KI	10KU	10KE	9O	9KA	9KI	9KU	8U	8E	8O	8KA	8KI	8KU	8KE	8KO	7WA	7A	7I	7U	7E	7O	7KA	7KI	7KU	7KE	7KO	6YO	6WA	6A	6I	6U	6E	6O	6KA	6KI	6KU	6KE	6KO

				グリッド	5YO	5WA	5A	5I	5U	5E	5O	5KA	5KI	5KU	5KE	5KO	4YO	4WA	4A	4I	4U	4E	4O	4KA	4KI	4KU	4KE	4KO	3A	3I	3U	3E	3O	3KA	3KI	3KU	3KE	2I	2U	2E	地区割無	不明	合計
後期後葉～晩期中葉	浅鉢	口縁	丸い			6	1	1	1	1		2	3							5	1		1	1	1							1						1	2	2		55
			角張る			1			1	2			4	2						1						1						2		1				1	1	2	1	36
			内面肥厚			2			7		2	4	2							2	1	1	1	5						2		1										45
			内面沈線			1	1		4	1	1	2	6						1	2	1	1	1	3	3						1							1	1		40
			内面に段									1	2							1					1																7
			内面沈線と段						1																																5
			外面沈線									1								1																	1			5
			外面肥厚										4											2																	9
			外面に段																																		1				4
			内外面に沈線																																				1			1
			突帯										1											2			1												2		8
			突起	A1a																				1																	2
				不明																			1	1																	2
			端部刻み								1		2																												3
			椀状			1	1	1	1					1							1	1			1					1									1		14
			大きく椀状							1				1																	1										4
			逆く字状																	1																					1
			短く屈曲			1			1	1	1	5	3	3						2	1			2	1					1		2						1	1	3		44
			壺形										1	1						1																					4
			方形波状口縁				2		1	1		1																														12
		胴部			2	19	23	21	61	16	25	65	70	13				4	5	27	29	3	19	30	38	4	2			12	5	12	17	2	3		1		6	13	28	2	923
			壺形																																						1
		底部	くぼみ底	くぼみ小さい			1		2			2	1							1	2											1									16
			上げ底	くぼみ大きい					1		1	1																										1				6
			輪状																1																		1				2
			平底																										1								1		1		4
			突出																																						2
			不明																		1		1														1				5
浅鉢合計					2	31	29	23	81	23	31	84	99	21				4	7	44	37	6	24	47	45	5	3			17	6	19	18	3	3		1		15	19	40	3	1260
晩期突帯文	深鉢	口縁	口縁から下がって付く	端部刻み目		1		3	1	1	2	3	2			1		1		3	1			2	3				1	1			1		2			1				38
			口縁から下がって付く					1				3	2											1																	12
			口縁に接する																					4						1											5
			口縁にほぼ接する	無刻み目突帯							1																															2
			二条突帯																	1																	1		1			5
			その他																		1				1																1	5
				突帯文深鉢合計		1		4	1	1	3	6	4			1		1		4	2			7	4				1	2			1		2			2		1		1	67
				グリッド	5YO	5WA	5A	5I	5U	5E	5O	5KA	5KI	5KU	5KE	5KO	4YO	4WA	4A	4I	4U	4E	4O	4KA	4KI	4KU	4KE	4KO	3A	3I	3U	3E	3O	3KA	3KI	3KU	3KE	2I	2U	2E	地区割無	不明	合計

表13－3　家の後Ⅱ遺跡　弥生土器数量表

				グリッド	11 KU	10 KA	10 KI	10 KU	10 KE	9 O	9 KA	9 KI	9 KU	9 KE	8 U	8 E	8 O	8 KA	8 KI	8 KU	8 KE	8 KO	7 WA	7 A	7 I	7 U	7 E	7 O	7 KA	7 KI	7 KU	7 KE	7 KO	6 YO	6 WA	6 A	6 I	6 U	6 E	6 O	6 KA	6 KI	6 KU	6 KE	6 KO
弥生時代	器種	部位	特　徴	細部の特徴																																									
前期	壺	口縁																																				1						
		胴部																							1																				
		文様	突帯																																										
			段																																		1							
			沈線																						1												1							
			重弧文																															1											
		底部																																	1	1	1								
	甕	口縁		屈曲弱い																1									1					1										
				屈曲強い	2				1											1																3				1					
				口縁肥厚・逆Ｌ字					1							1													1																
		胴部																	1					1	1			1					2			1			1				
		文様	沈線	4条以上																					1																			
			刺突	三角形				1																																				
		底部																									1		1															
	不明	胴部							1		1							1											2			1		1	1	3	1					
中期	壺	口縁	Ⅱ様式	端部に文様														1	1						1										1								
			広口壺																						1								1		1		1						
			その他				1																	1				1					1										
		胴部					10	9	19		1	1			5	3	2	1	11	17				2	10	3	3		13	3	1		3	9	3	52	7	4	6	2	8	4	
		文様	半裁竹管	単一																																							
			櫛描文	単一	1											1				1					1				2					1		1							
			半裁竹管	刺突文と			1					1				1			2	1					2											2	1						
			櫛描文	刺突文と															1	2					1				1													1	
			頸に刻目突帯	広口壺			1																														1							
			凹線文	広口壺																																		1	1					
			凹線文と刻目突帯	広口壺																																								
			Ⅳ様式	広口壺												1																					2						
			沈線と刺突																																									
		底部							1								1		1	1					1			1									3						
	甕	口縁	無文	屈曲弱い				1										1										1					1				1					
				屈曲強い															1						2																		
				逆Ｌ字				1																							1												
				不明					1																																			
			面取り	拡張しない																					1									1									
			凹線文	2条程度												1	1							2	1								5	2	3	1						
				拡張し2~3条																													1		1								
			不明																						1																		
			半裁竹管	直線文										1		1			1						1				1														1	
				直線文と刺突文																									1														
			櫛描文	緩く外反			1																																		1		
				Ｌ字に近い		1																														1							
			頸部圧痕突帯	Ⅲ														1																									
			頸部圧痕突帯	突帯のみ																																							
			重層刻目文																						1												2	1						
		胴部			1	1	6	7	11		2	2	3	3	2	1		1	14	13	1	1		1	22	26	4	3	2	51	20	6		2	16	40	8	69	17	6	13	7	12	2	
		文様	刺突文					1											1	2											1				1			1					1	
			刺突文	Ⅲ様式										1					1																								1	
			櫛描文と刺突文				3													1					1	1			1								1						
			櫛描文	直線文		1					1																		1	3			1	1			3						
				直線文と波状文															2	1																							1	
			半裁竹管	直線文					1																									2		5			1				
				直線文と波状文		1																							1														
				直線文と刺突文									1					1				1				2		1	2				1		1	2			1				
				直線文とその他の文様																					1											1							
		底部			1						1	1				1			1						2	2									5		1	1	1		1			
	高坏	口縁	椀状																						1						1											
			小形・その他																															1		2							
		坏部	椀状																																								
		脚部																													1				1		1					
	鉢																																									
	不明	胴部				1	7	6					3				1	4	6		3	1			7	30	2		1	23	5	4		2		13		13		6		1		
後期	壺																												1													
	甕	口縁													1										1										1		1	1					
		胴部																			1				1												1				1		
				総計	5	5	30	26	36		6	5	7	5	8	10	6	8	44	44	5	3		1	37	91	10	7	5	111	29	14	1	6	29	79	16	176	37	22	20	14	22	10	
				グリッド	11 KU	10 KA	10 KI	10 KU	10 KE	9 O	9 KA	9 KI	9 KU	9 KE	8 U	8 E	8 O	8 KA	8 KI	8 KU	8 KE	8 KO	7 WA	7 A	7 I	7 U	7 E	7 O	7 KA	7 KI	7 KU	7 KE	7 KO	6 YO	6 WA	6 A	6 I	6 U	6 E	6 O	6 KA	6 KI	6 KU	6 KE	6 KO